

◎不具合重要度

重要度	説明	補足
AA	通常運用で発生する可能性のある重大問題(*)である。	
A	重大問題(*)ではあるが、通常運用では問題とならない。	(*)システムダウン(ユーザ通信あるいは主要制御がスタック)や実害(アプリケーション断、通話断)を伴う基本機能の不具合で、回避手段が無い不具合。
B	影響度は低い。あるいは回避手段がある。	
C	表示上の問題。あるいは軽微な問題である。	

■現バージョンでの制限事項

項	概要	対象バージョン
1	アクセスリストのドメイン名指定は正常に動作しません。 装置が再起動する恐れがあるため、使用しないでください。 <回避策> 回避策はありません。	Ver.10.10.29以前
2	OSPFv2にて、他のルーティングプロトコルによる数千経路もの大量な経路の受信時にnssa-range コマンドにより経路の集約を行った場合に、広告されている経路が削除されずに広告され続けてし まう可能性があります。 <回避策> 集約元の経路が広告されます。 経路数が増えますが、運用には影響ありません。 clear ip ospf processで復旧します。	Ver.10.10.29以前

■Ver.10.10 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	DMVPN	B	ショートカットルート優先度を設定したダイナミックVPNの冗長環境で、優先度の高いトンネルと優先度の低いトンネルの両方のNHRP解決要求を送信した場合、優先度が低い経路の後に優先度の高い経路を学習しても両方の経路が有効となる問題を修正しました。 <回避方法> BGPの経路交換周期を短くすることにより発生確率が下がります。 推奨値はkeepalive 5秒、dead timer 15秒(timers 5 15)となります。	Ver.9.7.15～ Ver.10.10.27	Ver.10.10.29以降
1	WebUI	B	Webコンソールの脆弱性(コマンドインジェクションおよびCSRF)に対応しました。 本脆弱性問題によりWebコンソール画面を表示したブラウザ上で、任意のコマンドが実行可能となります。 <回避方法> 以下のいずれかの方法で回避してください。 ・"no http-server ip enable"コマンドによりWebコンソールを無効にして、Webコンソールを使用せずにコマンドラインからの入力のみを使用する。 ・IPフィルタまたはMACフィルタを使用して、接続元を信頼できるIPアドレス、MACアドレスだけに制限する。	Ver.9.0.14以降	Ver.10.10.27以降
2	UTM	B	UTM、URLオフロード、URLフィルタ、アプリケーション解析のいずれかの機能の使用時にリポートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避方法> 回避策はありません。 Ver.10.10.21、Ver.10.9.14およびVer.10.8.27のソフトウェアは使用しないでください。	Ver.10.10.21, Ver.10.9.14, Ver.10.8.27	Ver.10.10.27以降
3	DHCPv6	B	IPv6 PD使用時に割り当てのアドレスが変更となった場合、リポートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避方法> 以下のいずれかの方法で回避してください。 ・IPv6アドレスを固定で設定する。 ・Ver.10.9.11以降のソフトウェアを使用し、RAでアドレスを取得する。	Ver.10.10.21以前	Ver.10.10.27以降
4	APA	C	アプリケーション解析機能にて、HTTPS通信時に通知されるClient Helloメッセージが複数パケットに分割された場合に、アプリケーション解析の宛先毎の統計情報の宛先情報がURLでは表示されず、IPアドレスで表示される問題を修正しました。 <回避方法> TLS1.3対応ブラウザの「TLS 1.3 hybridized Kyber support」機能を無効にしてください。 本問題は統計情報の表示のみの問題であり、実際の運用には影響ありません。	Ver.10.10.21, Ver.10.9.14, Ver.10.8.27	Ver.10.10.27以降
5	DMVPN	B	ダイナミックVPNで、センタIX向けのVPNが拠点IXに複数あり"nhrp shortcut-priority"コマンドにてトンネルの優先度を設定した構成にもかかわらず、拠点間接続の高優先のトンネルがUpした後に低優先のトンネルがUpした場合、高優先と低優先のトンネルの両方の経路が有効となりマルチパス状態となる問題を修正しました。 <回避方法> 拠点IXでダイナミックVPNを構築する際、センタIX向けの冗長構成を使用しないでください。	Ver.9.7.15以降	Ver.10.10.27以降
6	TCP	B	分割されたHTTPSメッセージ受信時、メッセージのリアセンブル用に確保したバッファが、監視時間(デフォルト5分)を経過しても解放されず残ったままとなる問題を修正しました。 <回避方法> リアセンブル時は古いバッファを解放して再利用するため、動作に影響はありません。	Ver.10.10.21, Ver.10.9.14, Ver.10.8.27	Ver.10.10.27以降
7	OSPFv2	B	OSPFv2にてタグ値が付与された優先度の異なる同一宛先の経路が複数存在する場合、最も大きいタグ値が設定される問題を修正しました。 <回避方法> 以下のいずれかの方法で回避してください。 ・タグ値を条件にせず、"match ip next-hop"などのその他のパラメータを使用する。 ・OSPF以外のルーティングプロトコルを使用する。	Ver.9.4 : Ver.9.4.19以降 Ver.9.5 : Ver.9.5.13以降	Ver.10.10.27以降
8	APA	B	Client Helloメッセージから取得したホスト名に不正な文字が含まれる場合に、ターミナルソフトに表示されるイベントログ(APA.054)の表示が異常となり、それ以降のターミナルソフトの画面表示が異常となる問題を修正しました。 <回避方法> 問題が発生した場合は、使用しているターミナルソフトを再起動してください。 本問題はイベントログの表示のみの問題であり、実際の運用には影響ありません。	Ver.10.10.21, Ver.10.9.14, Ver.10.8.24, Ver.10.8.27	Ver.10.10.27以降
9	APA	B	アプリケーション解析においてアドレスキャッシュが『ドメイン取得失敗』になった場合にURLオフロードが正しく行われない問題を修正しました。 <回避方法> データベースをIPアドレス指定のみとしてください。	Ver.10.6.21～ Ver.10.10.21	Ver.10.10.27以降
1	URL-Offload	B	NetMeisterのアプリケーション解析を有効にした状態で、"url-offload profile"コマンドでURLオフロードプロファイルを作成し、URLオフロード判定を実行するインタフェースで"ip url-offload profile"コマンドを設定するとリポートする問題を修正しました。 <回避方法> NetMeisterのアプリケーション解析を無効にした状態でURLオフロードを設定してください。	Ver.10.9.11	Ver.10.10.21以降
2	UTM	C	UTMのURLフィルタリング機能の廃棄カテゴリ設定コマンド"reject category"にてIDを62個以上設定した場合に、ヘルプ表示が異常となる場合がある問題を修正しました。 <回避策> ID設定は62個以内で設定してください。ヘルプ表示のみの問題であり、実際の運用には影響ありません。	Ver.10.0.14以前	Ver.10.10.21以降
3	TCP	B	IPv6 telnetサーバ機能でIPv6 TCP-SYNパケットを受信した際に、SYN/ACKの再送タイムアウトが発生またはSYN/ACKに対するRSTを受信した場合、IPv4 telnetサーバ機能に接続できない問題を修正しました。 <回避策> telnetサーバ機能を使用する際は、IPv4 telnetサーバのみまたはIPv6 telnetサーバのみを有効にしてください。	Ver.9.4.15以前	Ver.10.10.21以降

4	IPSec	B	<p>IKEv1 IPsecで対向装置から受信した1つのプロポーザルの中に同一アトリビュート(たとえば暗号化種別など)が複数存在する場合、64byteのメモリアリクが発生する問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>IKEv1 IPsecで対向する装置では1つのプロポーザルの中に同一アトリビュートを複数設定しないでください。IXルータは同一アトリビュートを複数設定できないため、IXルータが対向装置の場合は本問題は発生しません。</p>	Ver.10.9.11以前	Ver.10.10.21以降
5	IKEv2	B	<p>IKEv2 NATトラバーサルを"force"設定した場合、IKEv2による接続ができない場合がある問題を修正しました。SAプロポーザルのDHグループが一部のみ一致し、レスポンス側から不正な鍵交換ペロードのエラー(Invalid KE)エラーが返る場合、イニシエータ側がnat-traversalを"force"設定されていると接続できません。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>以下のいずれかにより、運用回避してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IKEv2 SAプロポーザルのDHグループ設定を、対向装置と同じ設定としてください。</li> <li>・NATトラバーサルの設定を"force"にしないでください。</li> </ul>	Ver.9.5.11以前	Ver.10.10.21以降
6	OSPFv2	B	<p>OSPFv2使用時、"originate-default"コマンドで指定したルートマップにメトリック条件"metric"およびタグ条件"tag"が設定されていても適用されない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>OSPFv2にてデフォルトルート生成時に"metric"または"tag"を付与する場合は、"originate-default"を使用しないでください。</p> <p>デフォルトルートをスタティックルートにて設定し、スタティックルートの再配信(redistribute)時に、ルートマップを適用して"metric"または"tag"を設定してください。</p>	Ver.10.9.11以前	Ver.10.10.21以降
7	NetMon	B	<p>ネットワークモニタ機能で以下の問題を修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホスト監視以外のイベントに対して"probe-mode"が指定できてしまう。</li> <li>・"passive"モード設定のイベントを "probe-mode traffic" コマンドによって"passive"モード設定を解除した後、他のイベントを"passive"モードに設定しようとしてもエラーとなる。</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>それぞれの問題に対して、以下のように回避してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホスト監視以外のイベントに対して"probe-mode"が指定できてしまう問題に対しては、ホスト監視以外のイベントには "probe-mode"を設定しないでください。設定した場合でも"probe-mode"は無効のため、ルータ動作には影響ありません。</li> <li>・ホスト監視イベントを passive モードに出来ない場合がある問題に対しては、回避策はありませんが、設定時は"probe-mode passive" モードとなっているホスト監視イベントを一旦削除し再設定を行ってください。</li> </ul>	Ver.10.9.11以前	Ver.10.10.21以降
8	IDS	B	<p>パケットがIPフラグメントされ、かつ以下のいずれかに一致する場合、IDSで誤検知する場合ある問題を修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分割されたパケットがICMPで4byte未満の場合</li> <li>・分割されたパケットがUDPで8byte未満の場合</li> <li>・分割されたパケットがTCPで20byte未満の場合</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>IDSを使用する場合は、IPヘッダまたはIPオプションのみ有効にしてください。</p>	Ver.8.10.11以前	Ver.10.10.21以降
9	Tunnel	C	<p>IPv6国内標準プロビジョニングでIPIP回線に接続する際に出力されるイベントログ(V6PV.033)に平文パスワードが出力される問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>イベントログでV6PV.033が出力されない設定としてください。</p> <p>本問題はイベントログ出力の問題のため実際の運用には影響ありません。</p>	Ver.10.8.21~ Ver.10.9.11	Ver.10.10.21以降
10	Tunnel	B	<p>IPv6国内標準プロビジョニング使用時、プロビジョニング情報を取得し、その情報を設定に反映する前に異常終了するとメモリアリクが発生する問題を修正しました。</p> <p>メモリアリクのサイズは取得するプロビジョニング情報により異なります。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>通常の運用手順で問題が発生することはありません。</p> <p>運用時間外に再起動してメモリを回復させてください。</p>	Ver.10.8.21~ Ver.10.9.11	Ver.10.10.21以降
11	Tunnel	B	<p>トンネルモードをIPv6国内標準プロビジョニングからIPv6国内標準プロビジョニング以外に変更した場合に、トンネルの動作が停止する場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>IPv6国内標準プロビジョニングに設定したトンネルモードは、IPv6国内標準プロビジョニング以外に変更しないでください。</p> <p>変更する場合は、運用時間外に実施してください。問題発生時には装置を再起動してください。</p>	Ver.10.8.21~ Ver.10.9.11	Ver.10.10.21以降
12	Tunnel	B	<p>IPv6国内標準プロビジョニングモードで、"tunnel adjust-mtu"が設定できない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>"ip mtu"コマンドを使用してください。</p>	Ver.10.8.21~ Ver.10.9.11	Ver.10.10.21以降
13	NetMeister	B	<p>リンクマネージャにて"default-action permit ignore-auth"を設定した場合、NetMeisterのデバイスリストタブにて「拒否」の表示となる問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>許可の場合は、"default-action permit"を使用してください。</p>	Ver.10.4.141以前	Ver.10.10.21以降
14	NetMeister	C	<p>"interface range"コマンドを設定し、"system information"コマンドを設定した後に保存および再起動すると、"system information"コマンドがインタフェースのコンフィグとしても表示される問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>"interface range"コマンドは使用せず、個別にインタフェース設定を行ってください。</p> <p>表示のみの問題であり、実際の運用には影響ありません。</p>	Ver.10.6.21以前	Ver.10.10.21以降
15	NetMeister	B	<p>NetMeisterとの接続にプロキシを経由する場合に、CONNECTメッセージをHTTP1.0で接続しているために、プロキシの仕様によってはNetMeisterとの接続ができない場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>NetMeisterとの通信は、プロキシを経由せず直接アクセスするようにしてください。</p>	Ver.10.1.14以前	Ver.10.10.21以降

16	IPv4	B	<p>NATまたはIPv4パケットフィルタ利用時、リアセンブルバッファが残り3以下になるとリアセンブルされず、パケットが廃棄される問題を修正しました。</p> <p>現在のリアセンブルバッファの残数は、"show ip protocols"コマンドで確認できます。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>現在のリアセンブルバッファの残数は、"show ip protocols"コマンドで確認できます。</p> <p>"show ip protocols"で表示される、Reassemble buffersのpeak値がmax-3を超えないように運用してください。</p>	Ver.10.6.21以前	Ver.10.10.21以降
17	NetMeister	B	<p>証明書のエラーのため、NetMeisterと接続できない場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>発生頻度が低く実際に運用時に発生することはほとんどありません。</p> <p>問題発生時は、NetMeisterの設定を削除("no nm ip enable"または、"no nm ipv6 enable" 現状設定に合わせてコマンドを実行してください)した後、2分後に再度NetMeisterの設定を行ってください。</p>	Ver.10.0.14以前	Ver.10.10.21以降
18	IPSec	B	<p>L2TP使用時、SAの作成が短い時間で発生した場合、Tunnelが切断される場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>クライアントのライフバイト設定を大きい値に設定してください。切断発生時には再接続を行ってください。</p>	Ver.9.1.24以前	Ver.10.10.21以降
19	WebUI	B	<p>Webコンソールのプロバイダの設定で、IPv6を選択時に通信セキュリティの設定でレベル2を選択すると、IPv6のパケットが廃棄されIPv6通信に失敗する問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>IPv6の通信セキュリティを設定する場合は、レベル1またはレベル3を利用してください。</p>	Ver.10.3.10以前	Ver.10.10.21以降
20	URL-Offload	B	<p>URLオフロードにて"url-offload compatibility"コマンドが未設定の場合、HTTP/HTTPSの通信がURLオフロードのデータベースに該当しない場合、アドレスキャッシュのネガティブキャッシュが作成されない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>"url-offload compatibility"コマンドを設定してください。ネガティブキャッシュが作成されない場合、再度データベースの検索を行うため、動作には影響ありません。</p>	Ver.10.8.21～ Ver.10.9.11	Ver.10.10.21以降
21	WebUI	B	<p>WebコンソールでダイナミックVPNのセンタ側の設定を行った場合、設定に失敗する場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>CLIで設定を行ってください。</p>	Ver.10.9.11	Ver.10.10.21以降
22	SSH	B	<p>SSHが有効な状態でTCPポート22を使用してtelnet接続すると、CPU使用率が90近くに上昇する問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>TCPポート22を使用する場合は、SSHで接続してください。</p>	Ver.10.9.11以前	Ver.10.10.21以降

■Ver.10.9 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	DMVPN	B	ショートカットルート優先度を設定したダイナミックVPNの冗長環境で、優先度の高いトンネルと優先度の低いトンネルの両方のNHRP解決要求を送信した場合、優先度が低い経路の後に優先度の高い経路を学習しても両方の経路が有効となる問題を修正しました。 <回避方法> BGPの経路交換周期を短くすることにより発生確率が下がります。 推奨値はkeepalive 5秒、dead timer 15秒(timers 5 15)となります。	Ver.9.7.15～ Ver.10.9.20	Ver.10.9.22以降
1	WebUI	B	Webコンソールの脆弱性(コマンドインジェクションおよびCSRF)に対応しました。 本脆弱性問題によりWebコンソール画面を表示したブラウザ上で、任意のコマンドが実行可能となります。 <回避方法> 以下のいずれかの方法で回避してください。 ・"no http-server ip enable"コマンドによりWebコンソールを無効にして、Webコンソールを使用せずにコマンドラインからの入力のみを使用する。 ・IPフィルタまたはMACフィルタを使用して、接続元を信頼できるIPアドレス、MACアドレスだけに制限する。	Ver.9.0.14以降	Ver.10.9.20以降
2	UTM	B	UTM、URLオフロード、URLフィルタ、アプリケーション解析のいずれかの機能の使用時にリポートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避方法> 回避策はありません。 Ver.10.10.21、Ver.10.9.14およびVer.10.8.27のソフトウェアは使用しないでください。	Ver.10.9.14, Ver.10.8.27	Ver.10.9.20以降
3	DHCPv6	B	IPv6 PD使用時に割り当てのアドレスが変更となった場合、リポートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避方法> 以下のいずれかの方法で回避してください。 ・IPv6アドレスを固定で設定する。 ・Ver.10.9.11以降のソフトウェアを使用し、RAでアドレスを取得する。	Ver.10.9.14以前	Ver.10.9.20以降
4	APA	C	アプリケーション解析機能にて、HTTPS通信時に通知されるClient Helloメッセージが複数パケットに分割された場合に、アプリケーション解析の宛先毎の統計情報の宛先情報がURLでは表示されず、IPアドレスで表示される問題を修正しました。 <回避方法> TLS1.3対応ブラウザの「TLS 1.3 hybridized Kyber support」機能を無効にしてください。 本問題は統計情報の表示のみの問題であり、実際の運用には影響ありません。	Ver.10.9.14, Ver.10.8.27	Ver.10.9.20以降
5	DMVPN	B	ダイナミックVPNで、センタIX向けのVPNが拠点IXに複数あり"nhrrp shortcut-priority"コマンドにてトンネルの優先度を設定した構成にもかかわらず、拠点間接続の高優先のトンネルがUpした後に低優先のトンネルがUpした場合、高優先と低優先のトンネルの両方の経路が有効となりマルチパス状態となる問題を修正しました。 <回避方法> 拠点IXでダイナミックVPNを構築する際、センタIX向けの冗長構成を使用しないでください。	Ver.9.7.15以降	Ver.10.9.20以降
6	TCP	B	分割されたHTTPSメッセージ受信時、メッセージのリアセンブル用に確保したバッファが、監視時間(デフォルト5分)を経過しても解放されず残ったままとなる問題を修正しました。 <回避方法> リアセンブル時は古いバッファを解放して再利用するため、動作に影響はありません。	Ver.10.9.14, Ver.10.8.27	Ver.10.9.20以降
7	OSPFv2	B	OSPFv2にてタグ値が付与された優先度の異なる同一宛先の経路が複数存在する場合、最も大きいタグ値が設定される問題を修正しました。 <回避方法> 以下のいずれかの方法で回避してください。 ・タグ値を条件にせず、"match ip next-hop"などのその他のパラメータを使用する。 ・OSPF以外のルーティングプロトコルを使用する。	Ver.9.4 : Ver.9.4.19以降 Ver.9.5 : Ver.9.5.13以降	Ver.10.9.20以降
8	APA	B	Client Helloメッセージから取得したホスト名に不正な文字が含まれる場合に、ターミナルソフトに表示されるイベントログ(APA.054)の表示が異常となり、それ以降のターミナルソフトの画面表示が異常となる問題を修正しました。 <回避方法> 問題が発生した場合は、使用しているターミナルソフトを再起動してください。 本問題はイベントログの表示のみの問題であり、実際の運用には影響ありません。	Ver.10.9.14, Ver.10.8.24, Ver.10.8.27	Ver.10.9.20以降
9	APA	B	アプリケーション解析においてアドレスキャッシュが『ドメイン取得失敗』になった場合にURLオフロードが正しく行われない問題を修正しました。 <回避方法> データベースをIPアドレス指定のみとしてください。	Ver.10.6.21～ Ver.10.9.14	Ver.10.9.20以降
1	URL-Offload	B	NetMeisterのアプリケーション解析を有効にした状態で、"url-offload profile"コマンドでURLオフロードプロファイルを作成し、URLオフロード判定を実行するインタフェースで"ip url-offload profile"コマンドを設定するとリポートする問題を修正しました。 <回避方法> NetMeisterのアプリケーション解析を無効にした状態でURLオフロードを設定してください。	Ver.10.9.11	Ver.10.9.14以降
2	UTM	C	UTMのURLフィルタリング機能の廃棄カテゴリ設定コマンド"reject category"にてIDを62個以上設定した場合に、ヘルプ表示が異常となる場合がある問題を修正しました。 <回避策> ID設定は62個以内で設定してください。ヘルプ表示のみの問題であり、実際の運用には影響ありません。	Ver.10.0.14以前	Ver.10.9.14以降
3	TCP	B	IPv6 telnetサーバ機能でIPv6 TCP-SYNパケットを受信した際に、SYN/ACKの再送タイムアウトが発生またはSYN/ACKに対するRSTを受信した場合、IPv4 telnetサーバ機能に接続できない問題を修正しました。 <回避策> telnetサーバ機能を使用する際は、IPv4 telnetサーバのみまたはIPv6 telnetサーバのみを有効にしてください。	Ver.9.4.15以前	Ver.10.9.14以降

4	IPSec	B	<p>IKEv1 IPsecで対向装置から受信した1つのプロポーザルの中に同一アトリビュート(たとえば暗号化種別など)が複数存在する場合、64byteのメモリアリクが発生する問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>IKEv1 IPsecで対向する装置では1つのプロポーザルの中に同一アトリビュートを複数設定しないでください。IXルータは同一アトリビュートを複数設定できないため、IXルータが対向装置の場合は本問題は発生しません。</p>	Ver.10.9.11以前	Ver.10.9.14以降
5	IKEv2	B	<p>IKEv2 NATトラバーサルを"force"設定した場合、IKEv2による接続ができない場合がある問題を修正しました。SAプロポーザルのDHグループが一部のみ一致し、レスポンス側から不正な鍵交換ペロードのエラー(Invalid KE)エラーが返る場合、イニシエータ側がnat-traversalを"force"設定されていると接続できません。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>以下のいずれかにより、運用回避してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IKEv2 SAプロポーザルのDHグループ設定を、対向装置と同じ設定としてください。</li> <li>・NATトラバーサルの設定を"force"にしないでください。</li> </ul>	Ver.9.5.11以前	Ver.10.9.14以降
6	OSPFv2	B	<p>OSPFv2使用時、"originate-default"コマンドで指定したルートマップにメトリック条件"metric"およびタグ条件"tag"が設定されていても適用されない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>OSPFv2にてデフォルトルート生成時に"metric"または"tag"を付与する場合は、"originate-default"を使用しないでください。</p> <p>デフォルトルートをスタティックルートにて設定し、スタティックルートの再配信(redistribute)時に、ルートマップを適用して"metric"または"tag"を設定してください。</p>	Ver.10.9.11以前	Ver.10.9.14以降
7	NetMon	B	<p>ネットワークモニタ機能で以下の問題を修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホスト監視以外のイベントに対して"probe-mode"が指定できてしまう。</li> <li>・"passive"モード設定のイベントを "probe-mode traffic" コマンドによって"passive"モード設定を解除した後、他のイベントを"passive"モードに設定しようとしてもエラーとなる。</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>それぞれの問題に対して、以下のように回避してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホスト監視以外のイベントに対して"probe-mode"が指定できてしまう問題に対しては、ホスト監視以外のイベントには "probe-mode"を設定しないでください。設定した場合でも"probe-mode"は無効のため、ルータ動作には影響ありません。</li> <li>・ホスト監視イベントを passive モードに出来ない場合がある問題に対しては、回避策はありませんが、設定時は"probe-mode passive" モードとなっているホスト監視イベントを一旦削除し再設定を行ってください。</li> </ul>	Ver.10.9.11以前	Ver.10.9.14以降
8	IDS	B	<p>パケットがIPフラグメントされ、かつ以下のいずれかに一致する場合、IDSで誤検知する場合ある問題を修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分割されたパケットがICMPで4byte未満の場合</li> <li>・分割されたパケットがUDPで8byte未満の場合</li> <li>・分割されたパケットがTCPで20byte未満の場合</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>IDSを使用する場合は、IPヘッダまたはIPオプションのみ有効にしてください。</p>	Ver.8.10.11以前	Ver.10.9.14以降
9	Tunnel	C	<p>IPv6国内標準プロビジョニングでIPIP回線に接続する際に出力されるイベントログ(V6PV.033)に平文パスワードが出力される問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>イベントログでV6PV.033が出力されない設定としてください。</p> <p>本問題はイベントログ出力の問題のため実際の運用には影響ありません。</p>	Ver.10.8.21~ Ver.10.9.11	Ver.10.9.14以降
10	Tunnel	B	<p>IPv6国内標準プロビジョニング使用時、プロビジョニング情報を取得し、その情報を設定に反映する前に異常終了するとメモリアリクが発生する問題を修正しました。</p> <p>メモリアリクのサイズは取得するプロビジョニング情報により異なります。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>通常の運用手順で問題が発生することはありません。</p> <p>運用時間外に再起動してメモリを回復させてください。</p>	Ver.10.8.21~ Ver.10.9.11	Ver.10.9.14以降
11	Tunnel	B	<p>トンネルモードをIPv6国内標準プロビジョニングからIPv6国内標準プロビジョニング以外に変更した場合に、トンネルの動作が停止する場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>IPv6国内標準プロビジョニングに設定したトンネルモードは、IPv6国内標準プロビジョニング以外に変更しないでください。</p> <p>変更する場合は、運用時間外に実施してください。問題発生時には装置を再起動してください。</p>	Ver.10.8.21~ Ver.10.9.11	Ver.10.9.14以降
12	Tunnel	B	<p>IPv6国内標準プロビジョニングモードで、"tunnel adjust-mtu"が設定できない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>"ip mtu"コマンドを使用してください。</p>	Ver.10.8.21~ Ver.10.9.11	Ver.10.9.14以降
13	NetMeister	B	<p>リンクマネージャにて"default-action permit ignore-auth"を設定した場合、NetMeisterのデバイスリスタブにて「拒否」の表示となる問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>許可の場合は、"default-action permit"を使用してください。</p>	Ver.10.4.141以前	Ver.10.9.14以降
14	NetMeister	C	<p>"interface range"コマンドを設定し、"system information"コマンドを設定した後に保存および再起動すると、"system information"コマンドがインタフェースのコンフィグとしても表示される問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>"interface range"コマンドは使用せず、個別にインタフェース設定を行ってください。</p> <p>表示のみの問題であり、実際の運用には影響ありません。</p>	Ver.10.6.21以前	Ver.10.9.14以降
15	NetMeister	B	<p>NetMeisterとの接続にプロキシを経由する場合に、CONNECTメッセージをHTTP1.0で接続しているために、プロキシの仕様によってはNetMeisterとの接続ができない場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>NetMeisterとの通信は、プロキシを経由せず直接アクセスするようにしてください。</p>	Ver.10.1.14以前	Ver.10.9.14以降

16	IPv4	B	NATまたはIPv4パケットフィルタ利用時、リアセンブルバッファが残り3以下になるとリアセンブルされず、パケットが廃棄される問題を修正しました。 現在のリアセンブルバッファの残数は、"show ip protocols"コマンドで確認できます。 <回避策> 現在のリアセンブルバッファの残数は、"show ip protocols"コマンドで確認できます。 "show ip protocols"で表示される、Reassemble buffersのpeak値がmax-3を超えないように運用してください。	Ver.10.6.21以前	Ver.10.9.14以降
17	NetMeister	B	証明書のエラーのため、NetMeisterと接続できない場合がある問題を修正しました。 <回避策> 発生頻度が低く実際に運用時に発生することはほとんどありません。 問題発生時は、NetMeisterの設定を削除("no nm ip enable"または、"no nm ipv6 enable" 現状設定に合わせてコマンドを実行してください)した後、2分後に再度NetMeisterの設定を行ってください。	Ver.10.0.14以前	Ver.10.9.14以降
18	IPSec	B	L2TP使用時、SAの作成が短い時間で発生した場合、Tunnelが切断される場合がある問題を修正しました。 <回避策> クライアントのライフバイト設定を大きい値に設定してください。切断発生時には再接続を行ってください。	Ver.9.1.24以前	Ver.10.9.14以降
19	WebUI	B	Webコンソールのプロバイダの設定で、IPv6を選択時に通信セキュリティの設定でレベル2を選択すると、IPv6のパケットが廃棄されIPv6通信に失敗する問題を修正しました。 <回避策> IPv6の通信セキュリティを設定する場合は、レベル1またはレベル3を利用してください。	Ver.10.3.10以前	Ver.10.9.14以降
20	URL-Offload	B	URLオフロードにて"url-offload compatibility"コマンドが未設定の場合、HTTP/HTTPSの通信がURLオフロードのデータベースに該当しない場合、アドレスキャッシュのネガティブキャッシュが作成されない問題を修正しました。 <回避策> "url-offload compatibility"コマンドを設定してください。ネガティブキャッシュが作成されない場合、再度データベースの検索を行うため、動作には影響ありません。	Ver.10.8.21～ Ver.10.9.11	Ver.10.9.14以降
21	WebUI	B	WebコンソールでダイナミックVPNのセンタ側の設定を行った場合、設定に失敗する場合がある問題を修正しました。 <回避策> CLIで設定を行ってください。	Ver.10.9.11	Ver.10.9.14以降
22	SSH	B	SSHが有効な状態でTCPポート22を使用してtelnet接続すると、CPU使用率が90近くに上昇する問題を修正しました。 <回避策> TCPポート22を使用する場合は、SSHで接続してください。	Ver.10.9.11以前	Ver.10.9.14以降
1	IPv6	B	アドレス自動設定(ipv6 address autoconfig)が有効状態で、IPv6アドレス変化時にリポートする可能性がある問題を修正しました。 <回避方法> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.8.21以前	Ver.10.9.11以降
2	URL-Offload	B	URLオフロードプロファイルを削除した後、同じ名前に登録した場合、URLオフロードが動作しない問題を修正しました。 <回避策> URLオフロードプロファイルを削除した後、同じ名前を登録した場合は、装置の再起動してください。	Ver.10.6.21～ Ver.10.8.21	Ver.10.9.11以降
3	IKEv2	B	ダイナミックVPNにてMTU無視(ikev2 ipsec mtu ignore)を設定した場合に、DFビットONのMTUサイズを超えたパケットを受信してもフラグメントされない問題を修正しました。内部的にDFビット強制OFFとして動作する仕様ですが、DFビットONのMTUサイズを超えるパケットを受信してもフラグメントせずに送信します。 <回避策> [ip forced-fragment]コマンドを設定してください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.8.21	Ver.10.9.11以降
4	URL-Filter	B	HTTP/HTTPSパケット内の宛先ドメインに大文字が含まれる場合、URLオフロードのデータベースのURL(ドメイン)指定やURLリストのドメイン指定にマッチせず、URLオフロードおよびURLフィルタリングが正常に動作しない問題を修正しました。 <回避策> ドメイン名に大文字を含む場合にはURLリストにIPアドレスを指定してください。	Ver.9.4.15～ Ver.10.8.21	Ver.10.9.11以降
5	IPsec	B	PPPoE(no auto-connect)上でIPsec(IKEv1/IKEv2)使用時、IPsecパケット送信時にPPPoEの無通信時間がクリアされない問題を修正しました。 通信がIPsecパケット送信のみの場合、またはPPPoEインタフェースのidle-timeコマンドの監視方向設定をoutboundに指定した場合は、idle-time時間経過後にPPPoEが切断されます。 <回避策> IKE keepalive送信を行ってください。	Ver.10.8.21以前	Ver.10.9.11以降
6	APA	B	URLオフロード使用時にroute-mapに一致してUFSキャッシュが作成された場合、該当するアドレスへの通信があっても、アドレスキャッシュの保持時間が更新されない問題を修正しました。 <回避策> UFSキャッシュを使用しないでください。 ただし、UFSキャッシュを使用しない場合には性能が低下するためご注意ください。	Ver.10.6.21～ Ver.10.8.21	Ver.10.9.11以降
7	NetMeister	B	IPsecが切断されても、NetMeisterの装置情報の「VPN」タブの「最終切断日時」に切断日時が表示されない問題を修正しました。 <回避策> 「最終切断日時」は[show nm information]コマンドで確認してください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.8.21	Ver.10.9.11以降
8	ARP	B	SNMPマネージャがgetnextで複数インタフェースのARPエントリを取得した場合、最初のインタフェースのARPエントリのIPアドレスよりもその後続くインタフェースのARPエントリのIPアドレスが小さい場合、該当のインタフェースのARPエントリを取得できない問題を修正しました。 <回避策> getにて値を取得してください。	Ver.10.2.35, Ver.10.5.22, Ver.10.6.63	Ver.10.9.11以降



9	NetMeister	C	<p>フレッツ光閉域網にてNetMeisterを接続する場合に、「show nm information」コマンドで「NGN Access」が表示されない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 表示のみの問題であり、実際の運用には影響ありません。</p>	Ver.10.8.21以降	Ver.10.9.11以降
10	APA	C	<p>「show app-analytics status」コマンドで表示される「DataBase Information」のUpdate時刻が、実際の時刻より9時間後の時刻で表示される問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 表示のみの問題であり、実際の運用には影響ありません。 Update時刻を9時間前の時刻に換算してください。</p>	Ver.10.7.17～ Ver.10.8.21	Ver.10.9.11以降
11	URL-Offload	B	<p>自ルータをNetMeister親機として設定されている場合、対象のNetMeister子機のNetMeister通信がURLオフロード対象にならない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; NetMeister子機のNetMeister通信はURLオフロード対象にはなりません、NetMeister宛のペケットに経路到達性がある場合は、NetMeisterとの通信は可能です。 NetMeister親機以外にIXあるいはWAが存在する場合は、そのルータにてURLオフロードすることもできます。</p>	Ver.10.5.13～ Ver.10.8.21	Ver.10.9.11以降
12	URL-Offload	B	<p>URLオフロードのデータベースのURL(ドメイン)に該当する通信がオフロード対象と判定されず、オフロードされない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 「url-offload compatibility」コマンドを設定してください。</p>	Ver.10.8.21以降	Ver.10.9.11以降
13	NetMeister	B	<p>NetMeisterのコマンド実行にて、設定済みのVRF名でBGPのピアグループを設定した場合、ベースルータにも同じピアグループが作成される問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; VRFのピアグループを設定する場合は、CLI(コンソール、telnet)にて設定してください。</p>	Ver.9.2.20～ Ver.10.8.21	Ver.10.9.11以降
14	NAT	B	<p>NATアクセスログのタイプを"normal"に設定し、IPアドレスの桁数が「XXX.XXX.XXX.XXX」のように15文字となるログアクセス開始のログが発生した場合、メモリの不正アクセスが発生する問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; NATアクセスログのタイプを"compact"に設定してください。</p>	Ver.9.2.20～ Ver.10.8.21	Ver.10.9.11以降
15	ACL	B	<p>IPv4/IPv6アクセスリストの最適化オプション(option optimize)設定時、アクセスリスト名に大文字が含まれている場合、ワイルドカードを指定してもエラーとならない問題を修正しました。 また、設定後には装置がリポートする可能性があります。</p> <p>&lt;回避策&gt; 最適化オプションを使用する場合は、アクセスリスト名は小文字を使用してください。または、ワイルドカードは設定しないでください。</p>	Ver.9.6.12～ Ver.10.8.21	Ver.10.9.11以降
16	DMVPN	B	<p>TunnelインタフェースにGRE over IPsecトンネルを設定した直後および再起動直後、インタフェースMTU値が正常値よりもGREヘッダサイズ分大きい値となる問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 問題発生時には一旦IPsec SAを削除し、IPsecを切断した後に再度IPsec接続を行うことで正しい値となります。</p>	・IKEv1 :Ver.10.8.21以前 ・IKEv2 :Ver.9.2.20～ Ver.10.8.21	Ver.10.9.11以降
17	URL-Offload	C	<p>URLプロファイル削除後、アプリケーション解析機能参照用のダミープロファイルを参照してしまう問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 問題が発生しても、実際の運用には影響ありません。URLプロファイル削除後には、コンフィグを保存し装置の再起動を行ってください。</p>	Ver.10.6.21～ Ver.10.8.21	Ver.10.9.11以降
18	UTM	B	<p>UTMとポリシールーティング併用時に、ポリシールーティングのroute-mapにnexthopの指定が無い場合、ポリシールーティング対象のペケットを受信すると送信先が、トンネル、PPPoEなどのポイントツーポイントインタフェース以外の場合には、そのペケットの送信に失敗する問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; route-mapにnexthopを設定(set ip nexthop)してください。</p>	Ver.10.0.14～ Ver.10.8.21	Ver.10.9.11以降
19	USB	B	<p>UX302NC/UX302NC-Rを使用し、device shutdown実行時、端末からの応答内容によってはリポートする可能性がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 実際の運用でリポートが発生したことはありません。 UX302NC/UX302NC-Rを使用し、device shutdownを実行する場合は、運用時間帯以外の時間帯で実施してください。</p>	Ver.10.1.14～ Ver.10.8.21	Ver.10.9.11以降

■Ver.10.8 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	IPv6	B	アドレス自動設定 (ipv6 address autoconfig) が有効状態で、IPv6アドレス変化時にリポートする可能性がある問題を修正しました。 <回避方法> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.8.21以前	Ver.10.8.24以降
2	URL-Offload	B	URLオフロードプロファイルを削除した後、同じ名前に登録した場合、URLオフロードが動作しない問題を修正しました。 <回避策> URLオフロードプロファイルを削除した後、同じ名前を登録した場合は、装置の再起動してください。	Ver.10.6.21～ Ver.10.8.21	Ver.10.8.24以降
3	IKEv2	B	ダイナミックVPNにてMTU無視 (ikev2 ipsec mtu ignore) を設定した場合に、DFビットONのMTUサイズを超えたパケットを受信してもフラグメントされない問題を修正しました。内部的にDFビット強制OFFとして動作する仕様ですが、DFビットONのMTUサイズを超えるパケットを受信してもフラグメントせずに送信します。 <回避策> 「ip forced-fragment」コマンドを設定してください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.8.21	Ver.10.8.24以降
4	URL-Filter	B	HTTP/HTTPSパケット内の宛先ドメインに大文字が含まれる場合、URLオフロードのデータベースのURL(ドメイン)指定やURLリストのドメイン指定にマッチせず、URLオフロードおよびURLフィルタリングが正常に動作しない問題を修正しました。 <回避策> ドメイン名に大文字を含む場合にはURLリストにIPアドレスを指定してください。	Ver.9.4.15～ Ver.10.8.21	Ver.10.8.24以降
5	IPsec	B	PPPoE (no auto-connect) 上でIPsec (IKEv1/IKEv2) 使用時、IPsecパケット送信時にPPPoEの無通信時間がクリアされない問題を修正しました。 通信がIPsecパケット送信のみの場合、またはPPPoEインタフェースのidle-timeコマンドの監視方向設定をoutboundに指定した場合は、idle-time時間経過後にPPPoEが切断されます。 <回避策> IKE keepalive送信を行ってください。	Ver.10.8.21以前	Ver.10.8.24以降
6	APA	B	URLオフロード使用時にroute-mapに一致してUFSキャッシュが作成された場合、該当するアドレスへの通信があっても、アドレスキャッシュの保持時間が更新されない問題を修正しました。 <回避策> UFSキャッシュを使用しないでください。 ただし、UFSキャッシュを使用しない場合には性能が低下するためご注意ください。	Ver.10.6.21～ Ver.10.8.21	Ver.10.8.24以降
7	NetMeister	B	IPsecが切断されても、NetMeisterの装置情報の「VPN」タブの「最終切断日時」に切断日時が表示されない問題を修正しました。 <回避策> 「最終切断日時」は「show nm information」コマンドで確認してください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.8.21	Ver.10.8.24以降
8	ARP	B	show nm コマンドで getnext で複数インタフェースのARPエントリを取得した場合、最初のインタフェースのARPエントリのIPアドレスよりもその後続くインタフェースのARPエントリのIPアドレスが小さい場合、該当のインタフェースのARPエントリを取得できない問題を修正しました。 <回避策> getにて値を取得してください。 または、後のインタフェースのIPアドレスが大きい場合にIPアドレス設定時に「NGN」フラグを光閉域網にてNetMeisterを接続する場合に、「show nm information」コマンドで「NGN Access」が表示されない問題を修正しました。	Ver.10.2.35, Ver.10.5.22, Ver.10.6.63	Ver.10.8.24以降
9	NetMeister	C	表示のみの問題であり、実施の運用には影響ありません。	Ver.10.8.21以降	Ver.10.8.24以降
10	APA	C	「show app-analytics status」コマンドで表示される「DataBase Information」のUpdate時刻が、実際の時刻より9時間後の時刻で表示される問題を修正しました。 <回避策> 表示のみの問題であり、実施の運用には影響ありません。 Update時刻を9時間前の時刻に換算してください。	Ver.10.7.17～ Ver.10.8.21	Ver.10.8.24以降
11	URL-Offload	B	ルータをNetMeister親機として設定されている場合、対象のNetMeister子機のNetMeister通信がURLオフロード対象にならない問題を修正しました。 <回避策> NetMeister子機のNetMeister通信はURLオフロード対象にはなりませんが、NetMeister宛のパケットに経路到達性がある場合は、NetMeisterとの通信は可能です。 NetMeister親機以外にIXあるいはWAが存在する場合は、そのルータにてURLオフロードすることもできます。	Ver.10.5.13～ Ver.10.8.21	Ver.10.8.24以降
12	URL-Offload	B	URLオフロードのデータベースのURL(ドメイン)に該当する通信がオフロード対象と判定されず、オフロードされない問題を修正しました。 <回避策> 「url-offload compatibility」コマンドを設定してください。	Ver.10.8.21以降	Ver.10.8.24以降
13	NetMeister	B	NetMeisterのコマンド実行にて、設定済みのVRF名でBGPのピアグループを設定した場合、ベースルータにも同じピアグループが作成される問題を修正しました。 <回避策> VRFのピアグループを設定する場合は、CLI(コンソール、telnet)にて設定してください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.8.21	Ver.10.8.24以降
14	NAT	B	NATアクセスログのタイプを"normal"に設定し、IPアドレスの桁数が「XXX.XXX.XXX.XXX」のように15文字となるログアクセス開始のログが発生した場合、メモリの不正アクセスが発生する問題を修正しました。 <回避策> NATアクセスログのタイプを"compact"に設定してください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.8.21	Ver.10.8.24以降
15	ACL	B	IPv4/IPv6アクセスリストの最適化オプション(option optimize)設定時、アクセスリスト名に大文字が含まれている場合、ワイルドカードを指定してもエラーとならない問題を修正しました。 また、設定後には装置がリポートする可能性があります。 <回避策> 最適化オプションを使用する場合は、アクセスリスト名は小文字を使用してください。または、ワイルドカードは設定しないでください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.8.21	Ver.10.8.24以降

16	DMVPN	B	<p>TunnelインタフェースにGRE over IPsecトンネルを設定した直後および再起動直後、インタフェースMTU値が正常値よりもGREヘッダサイズ分大きい値となる問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 問題発生時には一旦IPsec SAを削除し、IPsecを切断した後に再度IPsec接続を行うことで正しい値となります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IKEv1 :Ver.10.8.21以前</li> <li>・IKEv2 :Ver.9.2.20～ Ver.10.8.21</li> </ul>	Ver.10.8.24以降
17	URL-Offload	C	<p>URLプロファイル削除後、アプリケーション解析機能参照用のダミープロファイルを参照してしまう問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 問題が発生しても、実施の運用には影響ありません。URLプロファイル削除後には、コンフィグを保存し装置の再起動を行ってください。</p>	Ver.10.6.21～ Ver.10.8.21	Ver.10.8.24以降
18	UTM	B	<p>UTMとポリシールーティング併用時に、ポリシールーティングのroute-mapにnexthopの指定が無い場合、ポリシールーティング対象の packets を受信すると送信先が、トンネル、PPPoEなどのポイントツーポイントインタフェース以外の場合には、そのパケットの送信に失敗する問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; route-mapにnexthopを設定(set ip nexthop)してください。</p>	Ver.10.0.14～ Ver.10.8.21	Ver.10.8.24以降
19	USB	B	<p>UX302NC/UX302NC-Rを使用し、device shutdown実行時、端末からの応答内容によってはリポートする可能性がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 実際の運用でリポートが発生したことはありません。</p> <p>UX302NC/UX302NC-Rを使用し、device shutdownを実行する場合は、運用時間帯以外の時間帯で実施してください。</p>	Ver.10.1.14～ Ver.10.8.21	Ver.10.8.24以降
1	APA	B	<p>アプリケーション解析の通信情報に関して、規定された上限以上にメモリを確保される場合がある問題を修正しました。</p> <p>メモリを100%まで使用する可能性は低いですが、メモリ使用量が多くなる場合があります。</p> <p>&lt;回避方法&gt; 宛先(データベースに登録されたアドレス、URL)と送信元アドレスの組み合わせにより、情報を作成します。宛先、送信元アドレスの組み合わせが多ならないような環境で使用してください。</p> <p>メモリの使用量が多くなった場合は、「clear app-analytics statistics」コマンドを実行し、統計情報のクリアを行ってください。</p>	Ver.10.6.21～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
2	URL-Offload	B	<p>URLオフロード使用時、NetMeisterからURLオフロードのデータベースの保存を一度も実行していない場合に、route-mapでのURLオフロードの負荷が上昇する問題を修正しました</p> <p>&lt;回避策&gt; NetMeisterからURLオフロードのデータベースを取得してください。</p>	Ver.9.4.15～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
3	APA	B	<p>NetMeisterにてURLオフロードのデータベースの保存を一度も実行していない状態でアプリケーション解析を使用した場合、アプリケーション解析のグラフ表示が「その他」のみならず、各アプリケーションに「その他」と同じ値が表示される問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 条件に該当する場合には必ず発生します。「その他」以外の情報は無視してください。</p>	Ver.10.6.59～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
4	DNS	B	<p>「nm ipv6 enable ngn-private」コマンドを設定している状態で、以下のコマンドによりNGN以外のインタフェースを指定した場合、「*.nmddns.jp」の名前解決が行えない問題を修正しました</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ikev2 outgoing-interface</li> <li>・tunnel outgoing-interface</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt; 「nm ipv6 enable ngn-private」コマンドを設定している場合には、「dns transport-routing」コマンドの設定を行ってください。</p>	Ver.10.7.17～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
5	MP-BGP	B	<p>BGP隣接機器が再起動中であるなどのデータ送信ができない状態にもかかわらず、大量の経路情報を送信しようとした場合に、ホールドタイムの満了を検出してもBGPのピアが3分程度EASTBLISHEDのままとなる問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; ホールドタイム満了の検出後3分程度でピアはダウンとなり、その後は正常に動作します。</p>	Ver.10.7.18以前	Ver.10.8.21以降
6	Socket	B	<p>複数のWindows端末等からプロキシ設定のPACファイル取得を同時に行うような環境でPACファイルが取得が行えない場合がある問題を修正しました。プロキシ設定が取得できない状態となった端末は、その後も復旧ができず、インターネット接続に失敗します。</p> <p>&lt;回避策&gt; 大量の端末から同時にPACファイルの取得を行わないでください。問題が発生した場合は「http-server restart」コマンドを実行してください。</p> <p>但し、問題が発生する条件となる確率は極めて低いため、実際の運用で問題になることはほぼありません。</p>	Ver.9.2.20～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
7	URL-Offload	B	<p>URLオフロードの proxy-config pac-file で指定したPACの取得において、「404 NotFound」などHTTP応答ありの失敗になった場合、そのエラー応答のhtmlをベースにPACファイルが作成されるためにPACファイルの内容が不正となり、その後はURLオフロードが動作しない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 外部から取得したファイルをベースにPACファイルを生成する場合には、ファイル取得時にエラーが発生しないようにしてください。</p> <p>エラー発生時は、エラーが発生しない状態で再度PACファイルの取得を行ってください。</p>	Ver.9.6.12～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
8	NetMeister	B	<p>NetMeisterのコマンド実行から、途中に空行を含むコマンドを実行した場合、空行以降のコマンドが実行されない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; NetMeisterからコマンド実行を行う場合は、空行を含めないでください。</p>	Ver.10.3.10～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
9	IPv4	B	<p>Tunnelインタフェースにて「tunnel df-bit ignore」を設定してもDFビットが設定されてしまい、カプセル化時にMTUを超えてもフラグメントされない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 「ip forced-fragment」コマンドを設定してください。</p>	Ver.10.3.10～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降

10	Tunnel	B	<p>「tunnel destination」コマンドにてFQDN指定している場合に、「clear tunnel status」コマンドを実行するとトンネルインタフェースがdownしたままとなる問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>「tunnel destination」コマンドにてFQDN指定している場合には、「clear tunnel status」コマンドを実行しないでください。また、問題発生時には、「tunnel destination fqdn」の設定を一度削除し、再度設定を行ってください。</p>	Ver9.2.20～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
11	SNMP	B	<p>インタフェースに「snmp-agent ip enable/snmp-agent ipv6 enable」コマンドを設定した後に保存・再起動を行うと、グローバルコンフィグにも「snmp-agent ip enable/snmp-agent ipv6 enable」コマンドが設定されてしまう問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>アクセスリスト指定により、アクセス先を制限してください。装置の再起動後に、グローバルコンフィグの「snmp-agent ip enable/snmp-agent ipv6 enable」コマンドを削除してください。</p>	Ver.10.4.14～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
12	APA	B	<p>アプリケーション解析使用時、選択したアプリケーションの条件と同じ条件をポリシールーティングにて設定し、該当する通信を行った場合、アドレスキャッシュの時間が更新されない問題を修正しました。</p> <p>アドレスキャッシュに該当する通信が存在する場合でもアドレスキャッシュが削除される場合があります。アドレスキャッシュが削除されると、最初の通信はオフロードされずにルーティングに従って転送が行われます。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>アプリケーションの条件と同じ条件となるポリシールーティングの設定を行わないでください。</p>	Ver.10.6.21～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
13	DNS	B	<p>WANインタフェース以外にIPv6アドレスを設定したMAP-E/IPv4 over IPv6/IPv6 over IPv6トンネルの環境で「outgoing-interface」コマンドを指定したときに通信ができない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>WANインタフェースにIPv6アドレスを設定してください。</p>	Ver.10.7.17～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
14	URL-Offload	B	<p>URLデータは、データベースにそのまま形式で登録されるため、「*」が複数存在する状態で登録されたURLデータは正常にURLオフロードが動作しない問題を修正しました。</p> <p>仕様上の動作として、一番右の"*"より左の文字列は全て無視してデータベースに登録されます。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>NetMeisterの追加URL指定には、「*」を1つのみ指定したURLデータを登録してください。</p>	Ver.10.1.15～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
15	NetMeister	C	<p>「nm ipv6 enable ngn-private」コマンド設定時に「*.nmddn.jp」の解決をする場合には、「nm outgoing-interface」コマンドで指定したインタフェースを使用しますが、「show dns fqdn-database」コマンドで表示される内容には以下の設定で指定したインタフェースが表示されてしまう問題を修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ tunnel outgoing-interface</li> <li>・ ikev2 outgoing-interface</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>表示のみの問題であり、実施の運用には影響ありません。</p>	Ver.10.7.17～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
16	NetMeister	B	<p>フレッツ光閉域網利用時、nmddns.jpのドメインをフレッツ光閉域網のプロキシサーバにDNS問い合わせの際、プロキシサーバへの負担を軽減するため更新頻度を5分間隔の仕様としているところ、IPv4は仕様通り動作しておらず短い間隔での問い合わせが発生する問題を修正しました。本問題によりFQDNの表示と実際の通知との差異が発生します。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>更新の周期が短いのみで、実施の運用には影響ありません。</p>	Ver.10.0.14～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
17	DNS	B	<p>「ip name-server」コマンドでインタフェースを指定した場合、その後該当のIPアドレスでの登録も削除もできない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>一度入力したDNSサーバの変更は行わないでください。インタフェース指定を行った後に変更を行う場合は、変更したコンフィグを保存し、startup-configに書き込んでください。</p>	Ver.10.7.17～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
18	NetMeister	B	<p>NetMeisterの接続を冗長化している構成にて、NetMeisterへの情報更新を頻繁に行った場合、プライマリ回線でNetMeisterとの通信が正常であっても、スタンバイ回線に切り替わってしまう場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>スタンバイ回線に切り替わっても、スタンバイ回線による通信によりNetMeisterとの接続には問題ありません。</p> <p>スタンバイ回線でのNetMeiseter接続が切断されるとプライマリ回線へ切り戻ります。</p>	Ver.10.7.17～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
19	NetMeister	B	<p>NetMeisterの冗長化接続構成時に、NetMeisterへの接続処理が完了する以前にNetMeisterとのプライマリ回線/スタンバイ回線の状態に切り替わりが発生するとNetMeisterへの通信に失敗する問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>問題発生時には、「nm update」コマンドを実行し復旧を行ってください。</p>	Ver.10.7.17～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
20	Bootstrap	C	<p>ブートモードでのrcコマンドによる時刻設定ができない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>clockコマンドでの時刻設定が可能のため、実際の運用には影響ありません。</p>	Ver.10.6.21～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降

■Ver.10.7ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	APA	B	アプリケーション解析の通信情報に関して、規定された上限以上にメモリを確保される場合がある問題を修正しました。 メモリを100%まで使用する可能性は低いです、メモリ使用量が多くなる場合があります。 <回避方法> 宛先(データベースに登録されたアドレス、URL)と送信元アドレスの組み合わせにより、情報を作成します。宛先、送信元アドレスの組み合わせが多くなるような環境で使用してください。 メモリの使用量が多くなった場合は、「clear app-analytics statistics」コマンドを実行し、統計情報のクリアを行ってください。	Ver.10.6.21～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
2	URL-Offload	B	URLオフロード使用時、NetMeisterからURLオフロードのデータベースの保存を一度も実行していない場合に、route-mapでのURLオフロードの負荷が上昇する問題を修正しました <回避策> NetMeisterからURLオフロードのデータベースを取得してください。	Ver.9.4.15～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
3	APA	B	NetMeisterにてURLオフロードのデータベースの保存を一度も実行していない状態でアプリケーション解析を使用した場合、アプリケーション解析のグラフ表示が「その他」のみとならず、各アプリケーションに「その他」と同じ値が表示される問題を修正しました。 <回避策> 条件に該当する場合には必ず発生します。「その他」以外の情報は無視してください。	Ver.10.6.59～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
4	DNS	B	「nm ipv6 enable ngn-private」コマンドを設定している状態で、以下のコマンドによりNGN以外のインタフェースを指定した場合、「*.nmddns.jp」の名前解決が行えない問題を修正しました ・ikev2 outgoing-interface ・tunnel outgoing-interface <回避策> 「nm ipv6 enable ngn-private」コマンドを設定している場合には、「dns transport-routing」コマンドの設定を行ってください。	Ver.10.7.17～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
5	MP-BGP	B	BGP隣接機器が再起動中であるなどのデータ送信ができない状態にもかかわらず、大量の経路情報を送信しようとした場合に、ホールドタイムの満了を検出してもBGPのピアが3分程度EASTBLISHEDのままとなる問題を修正しました。 <回避策> ホールドタイム満了の検出後3分程度でピアはダウンとなり、その後は正常に動作します。	Ver.10.7.18以前	Ver.10.8.21以降
6	Socket	B	複数のWindows端末等からプロキシ設定のPACファイル取得を同時に行うような環境でPACファイルが取得が行えない場合がある問題を修正しました。プロキシ設定が取得できない状態となった端末は、その後も復旧ができず、インターネット接続に失敗します。 <回避策> 大量の端末から同時にPACファイルの取得を行わないでください。問題が発生した場合は「http-server restart」コマンドを実行してください。 但し、問題が発生する条件となる確率は極めて低いため、実際の運用で問題になることはほぼありません。	Ver.9.2.20～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
7	URL-Offload	B	URLオフロードの proxy-config pac-file で指定したPACの取得において、「404 NotFound」などHTTP応答ありの失敗になった場合、そのエラー応答のhtmlをベースにPACファイルが作成されるためにPACファイルの内容が不正となり、その後はURLオフロードが動作しない問題を修正しました。 <回避策> 外部から取得したファイルをベースにPACファイルを生成する場合には、ファイル取得時にエラーが発生しないようにしてください。 エラー発生時は、エラーが発生しない状態で再度PACファイルの取得を行ってください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
8	NetMeister	B	NetMeisterのコマンド実行から、途中に空行を含むコマンドを実行した場合、空行以降のコマンドが実行されない問題を修正しました。 <回避策> NetMeisterからコマンド実行を行う場合は、空行を含めないでください。	Ver.10.3.10～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
9	IPv4	B	Tunnelインタフェースにて「tunnel df-bit ignore」を設定してもDFビットが設定されてしまい、カプセル化時にMTUを超えてもフラグメントされない問題を修正しました。 <回避策> 「ip forced-fragment」コマンドを設定してください。	Ver.10.3.10～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
10	Tunnel	B	「tunnel destination」コマンドにてFQDN指定している場合に、「clear tunnel status」コマンドを実行するとトンネルインタフェースがdownしたままとなる問題を修正しました。 <回避策> 「tunnel destination」コマンドにてFQDN指定している場合には、「clear tunnel status」コマンドを実行しないでください。また、問題発生時には、「tunnel destination fqdn」の設定を一度削除し、再度設定を行ってください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
11	SNMP	B	インタフェースに「snmp-agent ip enable/snmp-agent ipv6 enable」コマンドを設定した後に保存・再起動を行うと、グローバルコンフィグにも「snmp-agent ip enable/snmp-agent ipv6 enable」コマンドが設定されてしまう問題を修正しました。 <回避策> アクセスリスト指定により、アクセス先を制限してください。装置の再起動後に、グローバルコンフィグの「snmp-agent ip enable/snmp-agent ipv6 enable」コマンドを削除してください。	Ver.10.4.14～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
12	APA	B	アプリケーション解析使用時、選択したアプリケーションの条件と同じ条件をポリシールーティングにて設定し、該当する通信を行った場合、アドレスキャッシュの時間が更新されない問題を修正しました。 アドレスキャッシュに該当する通信が存在する場合でもアドレスキャッシュが削除される場合があります。アドレスキャッシュが削除されると、最初の通信はオフロードされずにルーティングに従って転送が行われます。 <回避策> アプリケーションの条件と同じ条件となるポリシールーティングの設定を行わないでください。	Ver.10.6.21～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
13	DNS	B	WANインタフェース以外にIPv6アドレスを設定したMAP-E/IPv4 over IPv6/IPv6 over IPv6トンネルの環境で「outgoing-interface」コマンドを指定したときに通信ができない問題を修正しました。 <回避策> WANインタフェースにIPv6アドレスを設定してください。	Ver.10.7.17～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降

14	URL-Offload	B	URLデータは、データベースにそのまま形式で登録されるため、"*"が複数存在する状態で登録されたURLデータは正常にURLオフロードが動作しない問題を修正しました。 仕様上の動作として、一番右の"*"より左の文字列は全て無視してデータベースに登録されます。 <回避策> NetMeisterの追加URL指定には、"*"を1つのみ指定したURLデータを登録してください。	Ver.10.1.15～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
15	NetMeister	C	「nm ipv6 enable ngn-private」コマンド設定時に「*.nmddn.jp」の解決をする場合には、「nm outgoing-interface」コマンドで指定したインタフェースを使用しますが、「show dns fqdn-database」コマンドで表示される内容には以下の設定で指定したインタフェースが表示されてしまう問題を修正しました。 ・ tunnel outgoing-interface ・ ikev2 outgoing-interface <回避策> 表示のみの問題であり、実施の運用には影響ありません。	Ver.10.7.17～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
16	NetMeister	B	フレックス光閉域網利用時、nmddns.jpのドメインをフレックス光閉域網のプロキシサーバにDNS問い合わせする際、プロキシサーバへの負担を軽減するため更新頻度を5分間隔の仕様としているところ、IPv4は仕様通り動作しておらず短い間隔での問い合わせが発生する問題を修正しました。本問題によりFQDNの表示と実際の通知との差異が発生します。 <回避策> 更新の周期が短いのみで、実施の運用には影響ありません。	Ver.10.0.14～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
17	DNS	B	「ip name-server」コマンドでインタフェースを指定した場合、その後該当のIPアドレスでの登録も削除もできない問題を修正しました。 <回避策> 一度入力したDNSサーバの変更は行わないでください。インタフェース指定を行った後に変更を行う場合は、変更したコンフィグを保存し、startup-configに書き込んでください。	Ver.10.7.17～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
18	NetMeister	B	NetMeisterの接続を冗長化している構成にて、NetMeisterへの情報更新を頻繁に行った場合、プライマリ回線でNetMeisterとの通信が正常であっても、スタンバイ回線に切り替わってしまう場合がある問題を修正しました。 <回避策> スタンバイ回線に切り替わっても、スタンバイ回線による通信によりNetMeisterとの接続には問題ありません。 スタンバイ回線でのNetMeister接続が切断されるとプライマリ回線へ切り戻ります。	Ver.10.7.17～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
19	NetMeister	B	NetMeisterの冗長化接続構成時に、NetMeisterへの接続処理が完了する以前にNetMeisterとのプライマリ回線/スタンバイ回線の状態に切り替わりが発生するとNetMeisterへの通信に失敗する問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時には、「nm update」コマンドを実行し復旧を行ってください。	Ver.10.7.17～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
20	Bootstrap	B	ブートモードでのrcコマンドによる時刻設定ができない問題を修正しました。 <回避策> clockコマンドでの時刻設定が可能のため、実際の運用には影響ありません。	Ver.10.6.21～ Ver.10.7.18	Ver.10.8.21以降
1	NetMeister	B	Ver.10.7.17使用時にNetMeisterに接続できない場合がある問題を修正しました。 <発生条件> 以下の条件に全て合致する場合、この不具合の影響を受ける可能性があります。 [a] IPv6によるNetMeister接続が設定されている。 nm ipv6 enable [b] NetMeisterとのMQTT通信用インタフェースが指定されている。 nm outgoing-interface XXX <回避方法> [a] Ver.10.7.17にて新規にコンフィグを設定する場合 NetMeisterの packets の送信インタフェースを指定する場合は、IPv4、IPv6 それぞれに適切な送信インタフェースを設定してください。 nm outgoing-interface [IPv4のインタフェース] [nextrhop] protocol ip nm outgoing-interface [IPv6のインタフェース] [nextrhop] protocol ipv6 [b] Ver.10.6以前からVer.10.7.17にバージョンアップする場合 バージョンアップ前に以下のいずれかを実行してください。 [b-1] IPv4にてプロバイダ契約下回線に可能な場合は、接続されているIXの場合は、NetMeisterの接続にIPv6を使用せず、IPv4を使用してください。 [b-2] nm outgoing-interface設定が無くてもIPv4にてNetMeisterとの接続性が確保でき、また利用している機能に影響が無い場合は、nm outgoing-interface設定を削除してください。 no nm outgoing-interface [b-3] Ver.10.7.17にバージョンアップ後はNetMeisterからの操作ができなくなるため、NetMeister以外の方法で復旧できるようバージョンアップ前に	Ver.10.7.17以前	Ver.10.7.18以降
2	ProxyDNS	B	プロキシDNS使用時、TCPによる端末からのDNSクエリを処理中にサーバからのTCPセグメント(TCPパケット)を端末に対して送信しても、端末からその応答を受信できなかった場合にリポートが発生する問題を修正しました。Webコンソールから再起動した場合、起動中にWebアクセスを行うため発生しやすくなります。 <回避策> 以下のいずれかにより回避可能となります。 ・プロキシDNSを使用せず、IX配下の端末からDNSサーバに直接問い合わせるようにする ・端末からのDNSの問い合わせをUDPで行う。	Ver.10.3.10～ Ver.10.6.64	Ver.10.7.17以降

3	APA	B	<p>URLオフロードまたはアプリケーション解析機能使用時、以下を実行した際にリポートが発生する 場合がある問題を修正しました。</p> <p>特にVer.10.6使用時に高頻度で発生する可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドレスキャッシュ、セッションキャッシュのクリアを実行する。</li> <li>・ip url-offload profileコマンドのパラメータに "no-negative-cache"を設定する(Ver.10.6のみ発生)。</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt; 以下により回避可能となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Ver.10.6使用時 - ip url-offload profileコマンドのパラメータに"no-negative-cache"の設定を行わない。</li> </ul> <p>同時にclear url-offload address-cacheコマンド、または clear url-offload session-cacheコマンドを実行しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Ver.10.5以前使用時 - clear url-offload address-cacheコマンド、または clear url-offload session-cacheコマンドを実行しない。</li> </ul>	Ver.9.4.15～ Ver.10.6.64	Ver.10.7.17以降
4	APA	C	<p>イベントログAPA_53表示の際、不要な情報が表示される問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 通常の運用では発生しません。問題発生時でもイベントログ表示の問題のため、運用に影響ありま せん。</p>	Ver.10.6.21～ Ver.10.6.64	Ver.10.7.17以降
5	DHCPv6	B	<p>IPv6でIPsec(IKEv2)を冗長している場合、一方の回線のアドレス(アウター)が変更されると、アドレ スが変更されていない送信元アドレスを使用しているIPsecが切断されてしまう問題を修正しまし た。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.1.14～ Ver.10.6.64	Ver.10.7.17以降
6	WebUI	C	<p>基本インタフェースがshutdown状態のとき、WANにPPPoEを設定してGREで接続している場合、 接続状態であってもWebコンソールのVPN情報の接続状態が「接続されていません」と表示される 問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; GigaEthernet0.0インタフェースをno shutdownとしてください。</p>	Ver.10.3.21, Ver.10.4.19, Ver.10.5.13～ Ver.10.6.64	Ver.10.7.17以降
7	APA	B	<p>アプリケーション解析設定がNetMeisterからIXに設定され、かつNetMeisterのオフロードリストが 更新されている状態で 「nm update」を実行すると、アプリケーション解析設定が解除され、アプリケーション解析機能 が動作しない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; nm updateを実行しないでください。 問題発生時は、再度 NetMeisterにてアプリケーション解析設定 を行うことで再度動作が行われます。</p>	Ver.10.6.21	Ver.10.7.17以降
8	SSH	B	<p>SSHパケット受信時にメッセージタイプが不正な値となっている場合、不正な内部処理を実行しリ ポートする場合がある問題を修正しました。</p> <p>本問題は内部状態にも依存するため、発生頻度は不定になります。</p> <p>&lt;回避策&gt; 以下のいずれかにより回避可能となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SSHサーバ機能(ssh-server ip enable)を使用しない。</li> <li>・特定のアドレスからのみSSHの受信を可能とする。</li> </ul>	Ver.10.6.64以前	Ver.10.7.17以降
9	ZTP	B	<p>NetMeister接続設定がある状態で、ゼロタッチプロビジョニング機能が有効の場合、再起動による NetMeister接続時に 403 forbidden となり接続に失敗する場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 再起動しても本現象が発生する場合は、ゼロタッチプロビジョニング機能を無効化し、コンフィグ をルータに保存して再起動してください。</p>	Ver.10.4.14～ Ver.10.6.64	Ver.10.7.17以降
10	ZTP	B	<p>IPv6 NDプロキシを設定したインタフェースにおいて、IPv6アドレスが付与されない状態でゼロタッ チプロビジョニング機能を動作させた場合、ゼロタッチプロビジョニングが終了しない問題を修正 しました。</p> <p>本問題が発生していてもコンフィグのダウンロードは成功しており、動作には影響ありません。</p> <p>&lt;回避策&gt; GigaEthernet0.0にIPv6アドレスが付与されない場合は、以下の手順にて、ゼロタッチプロビジョ ニングを使用してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゼロタッチプロビジョニングでダウンロードするコンフィグには、 nm provisioning enableを設定しないようにする。</li> <li>2. 起動時のコンフィグにnm provisioning enableを設定する。</li> <li>3. MODEスイッチをOFFにして、再起動する。</li> <li>4. ゼロタッチプロビジョニングを毎回実行するモードの場合は、再起動後、nm provisioning enableコマンドを入力し、ゼロタッチプロビジョニング有効にする。</li> </ol>	Ver.10.4.14～ Ver.10.6.64	Ver.10.7.17以降
11	UTM	C	<p>WebコンソールのUTM基本設定ページにて、以下の「ライセンスキー」の設定を変更した場合、 「反映」ボタンを実行した直後に遷移する画面上で「ライセンスキー情報」の「ライセンス満了日 時」に設定変更前のライセンス情報が表示される問題を修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・UTMライセンス自動設定機能有効 → ライセンスキー手動入力設定</li> <li>・ライセンスキー手動入力設定 → UTMライセンス自動設定機能有効</li> <li>・ライセンスキー手動入力設定 → 別ライセンスキー手動入力設定</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt; Webコンソールの表示問題であり、実際の運用に影響はありません。 また、本題発生時には表示更新ボタンを押すことにより、正しい情報が表示されます。</p>	Ver.10.0.14～ Ver.10.6.64	Ver.10.7.17以降
12	APA	C	<p>アプリケーション解析使用時、統計のレート情報が実際の値よりも低い値で表示される場合がある 問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 統計情報の表示上の問題であり、実際の運用には影響ありません。</p>	Ver.10.6.21～ Ver.10.6.64	Ver.10.7.17以降

■Ver.10.6 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	ProxyDNS	B	<p>プロキシDNS使用時、TCPによる端末からのDNSクエリを処理中にサーバからのTCPセグメント(TCPパケット)を端末に対して送信しても、端末からその応答を受信できなかった場合にリポートが発生する問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 以下のいずれかにより回避可能となります。 ・プロキシDNSを使用せず、IX配下の端末からDNSサーバに直接問い合わせるようにする ・端末からのDNSの問い合わせをUDPで行う。</p>	10.3.10～ Ver.10.6.64	Ver.10.6.67以降
2	APA	B	<p>URLオフロードまたはアプリケーション解析機能使用時、以下を実行した際にリポートが発生する場合があります問題を修正しました。 特にVer.10.6使用時に高頻度で発生する可能性があります。 ・アドレスキャッシュ、セッションキャッシュのクリアを実行する。 ・ip url-offload profileコマンドのパラメータに"no-negative-cache"を設定する(Ver.10.6のみ発生)。</p> <p>&lt;回避策&gt; ・Ver.10.6使用時 - ip url-offload profileコマンドのパラメータに"no-negative-cache"の設定を行わない。 同時にclear url-offload address-cacheコマンド、または clear url-offload session-cacheコマンドを実行しない。 ・Ver.10.5以前使用時 - clear url-offload address-cacheコマンド、または clear url-offload session-cacheコマンドを実行しない。</p>	Ver.9.4.15～ Ver.10.6.64	Ver.10.6.67以降
3	APA	C	<p>イベントログAPA_53表示の際、不要な情報が表示される問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 通常の運用では発生しません。問題発生時でもイベントログ表示の問題のため、運用に影響ありません。</p>	Ver.10.6.21～ Ver.10.6.64	Ver.10.6.67以降
4	DHCPv6	B	<p>IPv6でIPsec(IKEv2)を冗長している場合、一方の回線のアドレス(アウトター)が変更されると、アドレスが変更されていない送信元アドレスを使用しているIPsecが切断されてしまう問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.1.14～ Ver.10.6.64	Ver.10.6.67以降
5	WebUI	C	<p>基本インタフェースがshutdown状態のとき、WANにPPPoEを設定してGREで接続している場合、接続状態であってもWebコンソールのVPN情報の接続状態が「接続されていません」と表示される問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; GigaEthernet0.0インタフェースをno shutdownとしてください。</p>	Ver.10.3.21, Ver.10.4.19, Ver.10.5.13～ Ver.10.6.64	Ver.10.6.67以降
6	APA	B	<p>アプリケーション解析設定がNetMeisterからIXに設定され、かつNetMeisterのオフロードリストが更新されている状態で「nm update」を実行すると、アプリケーション解析設定が解除され、アプリケーション解析機能が動作しない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; nm updateを実行しないでください。問題発生時は、再度 NetMeisterにてアプリケーション解析設定を行うことで再度動作が行われます。</p>	Ver.10.6.21	Ver.10.6.67以降
7	SSH	B	<p>SSHパケット受信時にメッセージタイプが不正な値となっている場合、不正な内部処理を実行しリポートする場合があります問題を修正しました。 本問題は内部状態にも依存するため、発生頻度は不定になります。</p> <p>&lt;回避策&gt; 以下のいずれかにより回避可能となります。 ・SSHサーバ機能(ssh-server ip enable)を使用しない。 ・特定のアドレスからのみSSHの受信を可能とする。</p>	Ver.10.6.64以前	Ver.10.6.67以降
8	ZTP	B	<p>NetMeister接続設定がある状態で、ゼロタッチプロビジョニング機能が有効の場合、再起動によるNetMeister接続時に 403 forbidden となり接続に失敗する場合があります問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 再起動しても本現象が発生する場合は、ゼロタッチプロビジョニング機能を無効化し、コンフィグをルータに保存して再起動してください。</p>	Ver.10.4.14～ Ver.10.6.64	Ver.10.6.67以降
9	ZTP	B	<p>IPv6アドレスを設定したインタフェースにおいて、IPv6アドレスが付与されない状態でゼロタッチプロビジョニング機能を動作させた場合、ゼロタッチプロビジョニングが終了しない問題を修正しました。 本問題が発生していてもコンフィグのダウンロードは成功しており、動作には影響ありません。</p> <p>&lt;回避策&gt; GigaEthernet0.0にIPv6アドレスが付与されない場合は、以下の手順にて、ゼロタッチプロビジョニングを使用してください。 1. ゼロタッチプロビジョニングでダウンロードするコンフィグには、 nm provisioning enableを設定しないようにする。 2. MODEスイッチをOFFにして、再起動する。 3. 再起動後、nm provisioning enableコマンドを入力しゼロタッチプロビジョニングを有効にする。</p>	Ver.10.4.14～ Ver.10.6.64	Ver.10.6.67以降
10	UTM	C	<p>WebコンソールのUTM基本設定ページにて、以下の「ライセンスキー」の設定を変更した場合、「反映」ボタンを実行した直後に遷移する画面上で「ライセンスキー情報」の「ライセンス満了日時」に設定変更前のライセンス情報が表示される問題を修正しました。 ・UTMライセンス自動設定機能有効 → ライセンスキー手動入力設定 ・ライセンスキー手動入力設定 → UTMライセンス自動設定機能有効 ・ライセンスキー手動入力設定 → 別ライセンスキー手動入力設定</p> <p>&lt;回避策&gt; Webコンソールの表示問題であり、実際の運用に影響はありません。 また、本題発生時には表示更新ボタンを押すことにより、正しい情報が表示されます。</p>	Ver.10.0.14～ Ver.10.6.64	Ver.10.6.67以降



11	APA	C	<p>アプリケーション解析使用時、統計のレート情報が実際の値よりも低い値で表示される場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 統計情報の表示上の問題であり、実際の運用には影響ありません。</p>	Ver.10.6.21～ Ver.10.6.64	Ver.10.6.67以降
1	Tunnel	B	<p>Biglobe IPv6オプション、OCNバーチャルコネクタ(動的IP)回線接続時、IPv4通信ができない場合がある問題を修正しました。</p> <p>本問題は払い出されるMAPルールに依存します。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.2.16～ Ver.10.6.63	Ver.10.6.64以降
1	WebUI	B	<p>装置起動中に装置に対してWebアクセスを行うと、コンフィグ読み込みが中断されコンフィグの一部が反映されない場合がある問題を修正しました。</p> <p>Webコンソールから再起動した場合、起動中にWebアクセスを行うため発生しやすくなります。</p> <p>&lt;回避策&gt; 装置起動中はWebアクセスを行なわないでください。 Webから装置再起動を行なった場合は、ブラウザを閉じてください。</p>	Ver.9.2.20～ Ver.10.6.21	Ver.10.6.63以降
2	Tunnel	B	<p>OCN バーチャルコネクタ 固定IPモード使用時、プロバイダの動作仕様に準拠していない処理を修正しました。運用での動作に影響はありません。</p> <p>&lt;回避策&gt; 本問題による通常の運用には問題ありません。</p>	Ver.10.2.16～ Ver.10.6.21	Ver.10.6.63以降
3	Tunnel	B	<p>OCN バーチャルコネクタ 固定IPモード使用時にMAP-E設定にてhostname指定した場合、以下を行った後に指定したホスト名にてDDNS通知を行わなくなる問題を修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ clear map-e statusコマンドを実行</li> <li>・ WAN側インタフェースがdown状態</li> </ul> <p>(LAN側にIPv6アドレスが付与されている場合はLAN側も該当します)</p> <p>&lt;回避策&gt; 以下のいずれかにより回避可能となります。 問題が発生した場合は、該当のトンネルインタフェースの設定を一旦削除し再設定を行ってください。(no tunnel modeコマンド実行)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ clear map-e statusコマンドを実行しない。</li> <li>・ 該当のインタフェースのdeviceモードでno keepaliveコマンドを設定し、インタフェースがdownしないようにする。</li> </ul>	Ver.10.5.22, Ver.10.6.21	Ver.10.6.63以降
4	WebUI	B	<p>NetMeisterおよびWebコンソールから任意コマンドによって情報を取得する際、結果取得に20秒以上要する場合、情報取得に失敗する場合が問題を修正しました。1コマンドの結果表示に20秒以上要する場合に本問題が発生します。</p> <p>&lt;回避策&gt; ローカルコンソール、telnetまたはsshを使用し、コマンドを実行することで情報取得を行ってください。</p>	Ver.9.2.20～ Ver.10.6.21	Ver.10.6.63以降
5	SNMP	B	<p>RRRPを有効にしてSNMPトラップ送信を設定していない状態のとき、RRRPがmasterへの遷移、または、RRRPの認証が失敗した場合に768バイトのメモリリークが発生する問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; RRRP設定時には、SNMPトラップ送信の設定を行ってください。</p>	Ver.10.4.14～ Ver.10.6.21	Ver.10.6.63以降
6	Tunnel	B	<p>system information wan/system information lanコマンドによってデフォルト値以外を設定した場合、WANインタフェース名とLANインタフェース名がNetMeisterに正常に通知されず、NetMeisterのWANインタフェース名/LANインタフェース名に反映されない問題を修正しました。</p> <p>これにより以下の問題が発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NetMeisterから本装置へのリモートログインが失敗する。</li> <li>・ NetMeisterから本装置へのダイナミックVPNが正常に設定できない。</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt; WANインタフェースはGigaEthernet0.0、LANインタフェースはGigaEthernet[最老番].0を使用してください。</p>	Ver.10.6.21	Ver.10.6.63以降
7	WebUI	C	<p>system informationコマンドにて設定したWANインタフェース設定の内容が、Webコンソールのログイン前の装置状態の「WAN情報」に反映されない問題を修正しました。</p> <p>ログイン状態で表示される装置状態画面には設定した内容が反映されます。</p> <p>&lt;回避策&gt; ログイン前のWebコンソール表示には反映されませんが、設定された動作には問題ありません。設定情報を表示させるためには、Webコンソールにログインしてください。</p>	Ver.10.6.21	Ver.10.6.63以降
8	UTM	B	<p>UTM脅威分析通知機能有効であり、UTMのURLフィルタリング機能が有効かつセキュリティログ出力が有効の場合に、URLフィルタリング機能により検出されたパケットが、プロキシサーバやロードバランサなどを經由してxff(X-Forwarded-For)が付与されていたものである場合、NetMeister上でログの検索が失敗する問題を修正しました。</p> <p>条件に該当して検索に失敗した場合、該当するログを含まない条件で検索を行ってください。</p> <p>本問題の対処版にバージョンアップした場合でも、それ以前に上記のログが含まれている場合は、バージョンアップ以降の日付を指定してください。</p> <p>&lt;回避策&gt; URLフィルタ機能のログを無効としてください。 (utm security-logにてurl-filterを指定せずに設定してください)</p>	Ver.10.1.14～ Ver.10.6.21	Ver.10.6.63以降
9	NetMeister	B	<p>NetMeisterの子機装置のゼロタッチプロビジョニング(ZTP)が実行できない場合がある問題を修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NetMeisterプロキシ(nm proxy)未設定の場合は必ず失敗します。</li> <li>・ NetMeisterプロキシ(nm proxy)設定の場合は、内部状態に依存します。</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.6.21	Ver.10.6.63以降

10	NetMeister	B	<p>NetMeisterからダイナミックVPN設定を行う際に、センター装置が300秒以内にNetMeisterに情報の反映を行っていた場合、拠点装置に一部設定が反映されない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>NetMeisterの情報更新を行なった場合は、300秒以上経過後にダイナミックVPNの設定を行ってください。</p>	Ver.10.6.21	Ver.10.6.63以降
11	WebUI	B	<p>Webコンソールでの設定時に「設定の確認」ページで設定情報が空で表示され、そのまま実行すると誤ったコンフィグが設定されてしまう場合がある問題を修正しました。</p> <p>本問題はMicrosoft Edgeのバージョンが99以降で発生頻度が高くなっています。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>問題発生時には1ページ戻り、再度設定を行ってください。</p>	Ver.10.6.21以前	Ver.10.6.63以降
1	IPv6	B	<p>不正なIPv6パケット受信によりリポートが発生する可能性がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>該当パケットを受信した場合は発生しますが、通常の運用では発生しないパケットとなるために問題となることはありません。</p>	Ver.10.3.10～ Ver.10.5.20	Ver.10.6.21以降
2	NetMon	B	<p>ネットワークモニタでIPv6によるホスト監視を行い、さらにネットワークモニタのパケット送信インタフェースにIPv6 MSS調整コマンドを設定すると、パケットが送信されず、送信バッファリークとなる問題を修正しました。</p> <p>送信バッファリークによるバッファ枯渇時は、ネットワークモニタ以外にも、全ての機能の自発パケットの送信が不可となります。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>ネットワークモニタのIPv6ホスト監視を行うインタフェースではIPv6 MSS調整は設定せず、ユーザパケットが通過する他のインタフェースで設定してください。</p>	Ver.10.5.20以前	Ver.10.6.21以降
3	Tunnel	B	<p>v6プラス使用時のMAP-Eサーバへの通知内容を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>本問題による通常の運用には問題ありません。</p>	Ver.10.5.20	Ver.10.6.21以降

■Ver.10.5 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	Tunnel	B	Biglobe IPv6オプション、OCNバーチャルコネクト(動的IP)回線接続時、IPv4通信ができない場合がある問題を修正しました。 本問題は払い出されるMAPルールに依存します。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.5.27	Ver.10.5.28以降
1	WebUI	B	装置起動中に装置に対してWebアクセスを行うと、コンフィグ読み込みが中断されコンフィグの一部が反映されない場合がある問題を修正しました。 Webコンソールから再起動した場合、起動中にWebアクセスを行うため発生しやすくなります。 <回避策> 装置起動中はWebアクセスを行わないでください。 Webから装置再起動を行なった場合は、ブラウザを閉じてください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.5.22	Ver.10.5.27以降
2	Tunnel	B	OCN バーチャルコネクト 固定IPモード使用時、プロバイダの動作仕様に準拠していない処理を修正しました。運用での動作に影響はありません。 <回避策> 本問題による通常の運用には問題ありません。	Ver.10.2.16～ Ver.10.5.22	Ver.10.5.27以降
3	Tunnel	B	OCN バーチャルコネクト 固定IPモード使用時にMAP-E設定にてhostname指定した場合、以下を行った後に指定したホスト名にてDDNS通知を行わなくなる問題を修正しました。 ・ clear map-e statusコマンドを実行 ・ WAN側インタフェースがdown状態 (LAN側にIPv6アドレスが付与されている場合はLAN側も該当します) <回避策> 以下のいずれかにより回避可能となります。 問題が発生した場合は、該当のトンネルインタフェースの設定を一旦削除し再設定を行ってください。(no tunnel modeコマンド実行) ・ clear map-e statusコマンドを実行しない。 ・ 該当のインタフェースのdeviceモードでno keepaliveコマンドを設定し、インタフェースがdownしないようにする。	Ver.10.5.22	Ver.10.5.27以降
4	WebUI	B	NetMeisterおよびWebコンソールから任意コマンドによって情報を取得する際、結果取得に20秒以上要する場合、情報取得に失敗する場合が問題を修正しました。1コマンドの結果表示に20秒以上要する場合に本問題が発生します。 <回避策> ローカルコンソール、telnetまたはsshを使用し、コマンドを実行することで情報取得を行ってください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.5.22	Ver.10.5.27以降
5	SNMP	B	VRRPを有効にしてSNMPトラップ送信を設定していない状態のとき、VRRPがmasterへの遷移、または、VRRPの認証が失敗した場合に768バイトのメモリーークが発生する問題を修正しました。 <回避策> VRRP設定時には、SNMPトラップ送信の設定を行ってください。	Ver.10.4.14～ Ver.10.5.22	Ver.10.5.27以降
6	UTM	B	UTM脅威分析通知機能有効であり、UTMのURLフィルタリング機能が有効かつセキュリティログ出力が有効の場合に、URLフィルタリング機能により検出されたパケットが、プロキシサーバーやロードバランサなどを經由してxff(X-Forwarded-For)が付与されていたものである場合、NetMeister上でログの検索が失敗する問題を修正しました。 条件に該当して検索に失敗した場合、該当するログを含まない条件で検索を行ってください。 本問題の対処版にバージョンアップした場合でも、それ以前に上記のログが含まれている場合は、バージョンアップ以降の日付を指定してください。 <回避策> URLフィルタ機能のログを無効としてください。 (utm security-logにてurl-filterを指定せずに設定してください)	Ver.10.1.14～ Ver.10.5.22	Ver.10.5.27以降
7	WebUI	B	Webコンソールでの設定時に「設定の確認」ページで設定情報が空で表示され、そのまま実行すると誤ったコンフィグが設定されてしまう場合がある問題を修正しました。 本問題はMicrosoft Edgeのバージョンが99以降で発生頻度が高くなっています。 <回避策> 問題発生時には1ページ戻り、再度設定を行ってください。	Ver.10.5.22以前	Ver.10.5.27以降
1	IPv6	B	不正なIPv6パケット受信によりリポートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 該当パケットを受信した場合は発生しますが、通常の運用では発生しないパケットとなるために問題となることはありません。	Ver.10.3.10～ Ver.10.5.20	Ver.10.5.22以降
2	NetMon	B	ネットワークモニターでIPv6によるホスト監視を行い、さらにネットワークモニターのパケット送信インタフェースにIPv6 MSS調整コマンドを設定すると、パケットが送信されず、送信バッファリークとなる問題を修正しました。 送信バッファリークによるバッファ枯渇時は、ネットワークモニター以外にも、全ての機能の自発パケットの送信が不可となります。 <回避策> ネットワークモニターでIPv6ホスト監視を行うインタフェースではIPv6 MSS調整は設定せず、ユーザパケットが通過する他のインタフェースで設定してください。	Ver.10.5.20以前	Ver.10.5.22以降
3	Tunnel	B	v6プラス使用時のMAP-Eサーバーへの通知内容を修正しました。 <回避策> 本問題による通常の運用には問題ありません。	Ver.10.5.20	Ver.10.5.22以降
1	Tunnel	B	JPNE v6プラス、Biglobe IPv6オプション使用時、v6プラス動作が停止した際の停止動作報告を送付しない問題を修正しました。 <回避策> 本問題が発生しても運用に問題はありません。	Ver.10.1.14～ Ver.10.5.13	Ver.10.5.20以降

2	OpenSSL	B	<p>pki cert importコマンドにてssl-protocolオプション入力後、TAB補完、ヘルプ表示、改行によるエラー表示を行うとそれ以降IXルータのバージョンアップ機能の実行不可、またはメモリリークが発生する問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>pki cert importコマンドにて"ssl-protocol"オプションの入力後、TAB補完や"?によるヘルプ表示、改行等は行わずに、"ssl-protocol ssl3.0"まで入力してください。</p>	<p>Ver.8.9.21A, Ver.8.9.23, Ver.9.0.14A, Ver.9.0.54, Ver.9.1.10~ Ver.10.5.13</p>	Ver.10.5.20以降
3	Tunnel	B	<p>OCNバーチャルコネクタ(固定IP)にて、網側でリナンバリングが発生した場合に、MAP-Eトンネルが開始せず、IPv4通信ができない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>clear map-e statusコマンドにて復旧します。</p>	<p>Ver.10.3.21, Ver.10.4.19, Ver.10.5.13</p>	Ver.10.5.20以降
4	SNMP	C	<p>snmpv3 vrfコマンドにてVRFの最大文字列(31文字)が入力できない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>VRF名は30文字以下に設定してください。</p>	<p>Ver.10.4.14, Ver.10.4.19, Ver.10.5.13</p>	Ver.10.5.20以降
5	SNMP	C	<p>SNMPv3を使用してGetBulkリクエストを行う場合、snmp-agent message-sizeコマンドの値をデフォルト値の1280より大きい値に設定し、GetBulkを実行すると100件までのMIBしか取得できない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>SNMPv3を使用してGetBulkを行う場合には、snmp-agent message-sizeコマンドの値はデフォルト値の1280以下で設定してください。</p>	<p>Ver.10.4.14~ Ver.10.5.13</p>	Ver.10.5.20以降
6	SNMP	B	<p>SNMPv3においてmax-repetationsの数を多く設定し、GetBulkを実行するとリポートが発生する場面がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>以下のいずれかにより回避可能となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ snmpbulkgetを使用しない。(get/walkでは事象は発生しません)</li> <li>・ getbulkを使用する場合は、出力行数を40行程度に抑える。</li> </ul> <p>(SNMPマネージャからのgetbulkの出力行数を40行未満で指定してください)</p>	<p>Ver.10.4.14~ Ver.10.5.13</p>	Ver.10.5.20以降
7	WebUI	B	<p>Webコンソール使用時に、以下の場合に4,472byteのメモリリークが発生する問題を修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ proxy.pac以外の名前 pac取得</li> <li>・ proxy.pac 未生成時にpac取得</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>正しいファイル名でPACファイルを取得してください。</p>	<p>Ver.10.2.16~ Ver.10.5.13</p>	Ver.10.5.20以降
8	IPv4	B	<p>IPsec環境にて、暗号化前のパケットがフラグメントされ、更に暗号化後もフラグメントされた場合に、パケットに受信順序が入れ替わりとリポートする場面がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>通信途中でフラグメントが発生しないようにMTUを小さめに設定してください。</p>	<p>Ver.10.3.10~ Ver.10.5.13</p>	Ver.10.5.20以降
9	NetMeister	B	<p>IXルータのメモリ残量が少ない状態でNetMeisterの装置登録・更新に失敗した場合にリポートする場面がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>IXルータのメモリ使用量が95%以上にならないように運用してください。</p>	<p>Ver.10.3.10~ Ver.10.5.13</p>	Ver.10.5.20以降
10	NetMeister	B	<p>NetMeister Prime未加入でNGN環境を利用している場合、NetMeisterのインベントリ情報収集機能の情報が表示されない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>NetMeisterと接続する場合は、IPv4を使用してください。</p>	<p>Ver.10.4.14~ Ver.10.5.13</p>	Ver.10.5.20以降
11	NetMeister	B	<p>NetMeisterから以下の操作を行った場合、メモリリークが発生する問題を修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不正端末アラーム通知(4096byte)</li> <li>・ ダイナミックVPN設定(512byte)</li> <li>・ コマンド実行(表示) (14byte)</li> <li>・ コマンド実行(設定) (14byte)</li> <li>・ ライセンス登録 (最大51byte)</li> <li>・ リモートログイン (52byte)</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>"不正端末アラーム通知"については、リンクマネージャに登録されていない端末の通信を行う場合は、端末登録を行ってください。</p> <p>その他のメモリリークについては操作実行時のみ発生し、メモリリーク量も小さいために実際の運用に与える影響はほぼありません。</p>	<p>Ver.10.3.10~ Ver.10.5.13</p>	Ver.10.5.20以降
12	ZTP	B	<p>ゼロタッチプロビジョニング設定用のフラッシュメモリ領域の上限(完全に空きが無い状態)まで書き込みが行われている状態で、更に設定を行いwrite memoryを実行するとゼロタッチプロビジョニングのID書き込み情報が消失してしまい、再起動後にゼロタッチプロビジョニングが正常に動作しない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>フラッシュメモリを全て書き込んだ状態で発生する問題のため、通常の運用では発生しません。</p> <p>また、問題発生時にはerase startup-configコマンドにより復旧可能です。</p>	<p>Ver.10.4.14~ Ver.10.5.13</p>	Ver.10.5.20以降
13	Tunnel	B	<p>JPNE v6プラス(動的IP)またはBiglobe IPv6オプションを利用しているとき、一部のエラー処理がサービス仕様準拠していなかった問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>運用に影響はありません。</p>	<p>Ver.10.1.14~ Ver.10.5.13</p>	Ver.10.5.20以降
1	SNMP	B	<p>VRFを関連づけたトラップ送信先グループについて、no snmpv3 groupコマンドを実行してもグループとユーザの設定が削除されない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>no snmpv3 vrfコマンドで個別にアドレスを削除した後グループを削除するしてください。</p>	<p>Ver.10.4.14</p>	Ver.10.5.13以降
2	SNMP	B	<p>SNMP設定コマンド入力の際にメモリ枯渇エラーを検出した場合、本来反映すべきではないSNMP設定が入力された状態となる問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	<p>Ver.10.4.14</p>	Ver.10.5.13以降
3	SNMP	B	<p>VRFを関連づけたトラップ送信先アドレスを同じIPアドレスで2件以上設定した後、no snmpv3 groupまたはno snmpv3 userコマンドで設定を削除しても、再度削除されたユーザ名でユーザ設定を行うと削除されていないIPアドレスへトラップが送信されてしまう問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	<p>Ver.10.4.14</p>	Ver.10.5.13以降

4	SNMP	B	<p>SNMP設定コマンド入力の際にメモリ枯渇エラーを検出した場合、設定した内容とその設定に関連する設定がコンフィグとして表示されなくなる問題を修正しました。</p> <p>以下のコマンドで問題が発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ snmp-agent ip community (コミュニティの設定)</li> <li>・ snmpv3 group (グループの設定)</li> <li>・ snmpv3 user (ユーザの設定)</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
5	MP-BGP	B	<p>BGPにおいて、peer-groupモードでneighborを個別アドレス指定設定した場合、BGPパケットを正しい送信インターフェースではなくGigaEthernet0.0へ送信するため、正しい宛先へパケットが送信されない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; BGPにおけるneighbor設定をpeer-groupモード内ではなくBGPコンフィグモードで行ってください。</p>	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
6	WebUI	C	<p>Webコンソールのping実行画面で、送信先IPv4アドレスに[::]を設定してもエラーが表示されない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; WebGUIでのping実行時における異常アドレス入力時に発生する問題であり、通常の運用には問題ありません。</p>	Ver.10.3.10～ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
7	WebUI	C	<p>WebコンソールでIPv6 IPoE設定後、GigaEthernet0.0をshutdownすると装置情報が表示されなくなる問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; WebGUIでの表示のみの問題であり、通常の運用には問題ありません。</p>	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
8	WebUI	C	<p>MAP-E接続時、MAP-E通信が確立していなくてもWebコンソールのステータス画面のVPN接続状態が「接続」と表示される問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; WebGUIでの表示のみの問題であり、通常の運用には問題ありません。</p>	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
9	NAT	B	<p>MAP-E(動的IP)でFTPアクティブモードで接続すると、リポートする場合があります問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; MAP-E(動的IP)ではFTPをパッシブモードで行ってください。</p>	Ver.10.1.14～ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
10	NAT	B	<p>FTPアクティブモードでクライアントがNATの内側から通信する際、FTPが高負荷状態になると、FTPコントロールセッション(UDP/21)のNAPTキャッシュが残ってしまう問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.4.14以前	Ver.10.5.13以降
11	URL-Offload	B	<p>URLオフロードでプロキシありの場合、TCP/443であっても通信スキームがWebSocketのwss://であるとURLオフロードされない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.9.6.12～ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
12	URL-Offload	B	<p>URLオフロードで外部リストの設定を変更した場合、showコマンド実行時またはイベントログ表示時にリポートが発生する場合があります問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; clear url-offload address-cacheコマンド、clear url-offload session-cacheコマンドの両方のコマンドによりキャッシュをクリアし、設定変更を行ってください。</p>	Ver.9.4.15～ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
13	URL-Offload	B	<p>URLオフロードで外部リストと内部リストを併用し、外部リストと内部リスト両方のキャッシュがある場合に、no listコマンドにより内部リスト指定を削除すると、残ったキャッシュの有効期限満了(expire)時にリポートが発生する場合があります問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 以下のいずれかにて回避可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ clear url-offload address-cacheコマンド、clear url-offload session-cacheコマンドの両方のコマンドによりキャッシュをクリアし、設定変更を行う。</li> <li>・ URLオフロードのプロファイルごと削除する。</li> </ul>	Ver.9.5.11～ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
14	NetMeister	C	<p>NetMeisterのIKEv1を利用したVPN表示で、peeridの表示の末尾に不要な表示が含まれてしまう場合があります問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 以下のいずれかにて回避可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ peer-idの長さを統一する。</li> <li>・ IKEv1ではなくIKEv2を利用する。</li> </ul>	Ver.10.1.14～ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
15	SNMP	B	<p>ネットワークモニタのトラップ(picoNetmonWatchgroupStatus)のOIDに誤りがある問題を修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正：1.3.6.1.4.1.119.2.3.84.7.1.1.1.4.1</li> <li>・ 誤：1.3.6.1.4.1.119.2.3.84.7.1.1.1.3.1</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
16	TCP	B	<p>TCPヘッダ長フィールドの値が実際のTCPパケット長より大きい不正なTCPパケットを受信すると、リポートする可能性がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; IDS機能のTCP検知を有効にすることで不正TCPパケットを廃棄を行ってください。</p>	Ver.10.4.14以前	Ver.10.5.13以降
17	Tunnel	B	<p>OCNパチャルコネクットの固定IP利用時、IPv6リナンバリングが発生した際にDDNS通知できないことがある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; DDNSプロファイルにVNEから指定したパラメータを手動で設定してください。</p>	Ver.10.4.14以前	Ver.10.5.13以降
18	UTM	B	<p>UTMで、extended-inspection protocol-anomaly log-onlyコマンドを設定した場合、IPSスキャンによるWebサイトアクセスの脅威検出時に96byteのメモリーークが発生する場合があります問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; extended-inspection protocol-anomalyコマンドでignoreを設定してください。</p>	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
19	Tunnel	B	<p>MAP-E利用中、clear map-e statusコマンドによって再接続を行った場合、最大384byteのメモリーークが発生する問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.2.16～ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降

20	IKEv2	B	IKEv2 NATトラバーサルのキープアライブを256秒以上に設定すると、設定したキープアライブ値で動作しない問題を修正しました。 <回避策> IKEv2 NATトラバーサルのキープアライブは255秒以下で設定してください。	Ver.9.2.20~ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
21	NetMeister	B	NetMeisterの通知設定で、ネットワークモニタのdescriptionに「¥」または「 」の半角記号を設定すると、アラームの通知に失敗する問題を修正しました。 <回避策> ネットワークモニタのdescriptionに「¥」や「 」の半角記号を使用しないでください。	Ver.10.1.14~ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
22	ZTP	B	起動時自動ファームウェアアップデート機能とゼロタッチプロビジョニング機能を併用した際、WANインタフェース(GigabitEthernet0.x)がno shutdown状態になっていると、起動時自動ファームウェアアップデート実行後にゼロタッチプロビジョニングが動作しない問題を修正しました。 <回避策> startup-configのWANインタフェース(GigabitEthernet0.x)をshutdown状態とし、ゼロタッチプロビジョニングによる最小構成コンフィグが動作するようにしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
23	NetMeister	B	NetMeisterからIXへリモートアクセスする際、NetMeister用NAPTサービス機能のサービス数(エントリ数)が上限に達していると、IXにリモートアクセスできない問題を対処しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.16~ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
24	DHCPv4	C	DHCPのoptionコマンドで、設定可能なアドレス数が上限に達しても、「?」によるヘルプ表示ではさらに入力可能なように表示される問題を修正しました。 <回避策> コマンド入力時のヘルプの表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.6.12~ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
25	NetMeister	B	NetMeisterやUTMの通信において、その通信がNAPTによりアドレスやポートの変換が行われると、受信フィルタの回避がされない問題を修正しました。 NAPTでのアドレスやポートの変換は、主に以下の場合に行われます。 ・ ip napt address コマンドで、NAPTで使用するアドレスを指定した場合 ・ MAP-Eを使用した場合 ・ source-addressコマンドで、LAN側のアドレスまたはインタフェースを指定した場合 (NetMeisterのみ) ・ ip napt serviceコマンドやip napt staticコマンドで1024以降のポートを指定した場合で、乱数で決まるsrc-portが指定したポートと一致した場合 <回避策> 受信フィルタ (ダイナミックフィルタを含む) を設定しているインタフェースで、NAPT変換前のアドレスが宛先を許可した静的な受信フィルタを設定してください。 設定例: nm source-address で指定したアドレスが宛先を許可	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
26	SNMP	B	ISDNのトラップ(picolsdnLapdOperStatusChange)の値に誤りがある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
27	SNMP	C	clear snmp-agent statisticsコマンドを実行しても一部の統計情報がクリアされない問題を修正しました。 以下のパラメータが対象となります。 ・ total reqvars ・ total setvars ・ traps <回避策> showコマンドで表示される統計情報がクリアできない問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
28	SNMP	B	以下のIKEv1 Phase1、Phase2 確立/停止のトラップに含まれるOIDに誤りがある問題を修正しました。 ・ pikeTunnelStart (IPv4), pikeTunnelStop (IPv4) - pikePeerLocalAddr - pikePeerRemoteAddr ・ pikeTunnelStart (IPv6), pikeTunnelStop (IPv6) - pikePeerLocalAddr.idIpv6Addr - pikePeerRemoteAddr.idIpv6Addr <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
29	SNMP	B	Mobileトラップに含まれるpicoMobileDeviceNameの文字列に誤りがある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
30	SNMP	B	以下のVRRPトラップに含まれているOIDに誤りがある問題を修正しました。 ・ vrrpTrapNewMaster - 正: 1.3.6.1.2.1.68.0.1 - 誤: 1.3.6.1.2.1.68.0.0.1 ・ vrrpTrapAuthFailure - 正: 1.3.6.1.2.1.68.0.2 - 誤: 1.3.6.1.2.1.68.0.0.2 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
31	TCP	B	TCP通信時にFINフラグパケットを受信した後にPUSHフラグのパケットを受信するとリポートする場合があります。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.3.17, Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降

■Ver.10.4 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	SNMP	B	VRFを関連づけたトラップ送信先グループについて、no snmpv3 groupコマンドを実行してもグループとユーザの設定が削除されない問題を修正しました。 <回避策> no snmpv3 vrfコマンドで個別にアドレスを削除した後にグループを削除するしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
2	SNMP	B	VRFを関連づけたトラップ送信先アドレスを同じIPアドレスで2件以上設定した後、no snmpv3 groupまたはno snmpv3 userコマンドで設定を削除しても、再度削除されたユーザ名でユーザ設定を行うと削除されていないIPアドレスへトラップが送信されてしまう問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
3	MP-BGP	B	BGPにおいて、peer-groupモードでneighborを個別アドレス指定設定した場合、BGPパケットを正しい送信インターフェースではなくGigaEthernet0.0へ送信するため、正しい宛先へパケットが送信されない問題を修正しました。 <回避策> BGPにおけるneighbor設定をpeer-groupモード内ではなくBGPコンフィグモードで行ってください。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
4	WebUI	C	Webコンソールのping実行画面で、送信先IPv4アドレスに「::」を設定してもエラーが表示されない問題を修正しました。 <回避策> WebGUIでのping実行時における異常アドレス入力時に発生する問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.3.10～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
5	WebUI	C	WebコンソールでIPv6 IPoE設定後、GigaEthernet0.0をshutdownすると装置情報が表示されなくなる問題を修正しました。 <回避策> WebGUIでの表示のみの問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
6	WebUI	C	MAP-E接続時、MAP-E通信が確立していなくてもWebコンソールのステータス画面のVPN接続状態が「接続」と表示される問題を修正しました。 <回避策> WebGUIでの表示のみの問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
7	NAT	B	MAP-E(動的IP)でFTPアクティブモードで接続すると、リポートする場合がある問題を修正しました。 <回避策> MAP-E(動的IP)ではFTPをパッシブモードで行ってください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
8	NAT	B	FTPアクティブモードでクライアントがNATの内側から通信する際、FTPが高負荷状態になると、FTPコントロールセッション(UDP/21)のNAPTキャッシュが残ってしまう問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14以前	Ver.10.4.19以降
9	URL-Offload	B	URLオフロードでプロキシありの場合、TCP/443であっても通信スキームがWebSocketのwss://であるとURLオフロードされない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
10	URL-Offload	B	URLオフロードで外部リストの設定を変更した場合、showコマンド実行時またはイベントログ表示時にリポートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> clear url-offload address-cacheコマンド、clear url-offload session-cacheコマンドの両方のコマンドによりキャッシュをクリアし、設定変更を行ってください。	Ver.9.4.15～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
11	URL-Offload	B	URLオフロードで外部リストと内部リストを併用し、外部リストと内部リスト両方のキャッシュがある場合に、no listコマンドにより内部リスト指定を削除すると、残ったキャッシュの有効期限満了(expire)時にリポートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 以下のいずれかにて回避可能です。 ・clear url-offload address-cacheコマンド、clear url-offload session-cacheコマンドの両方のコマンドによりキャッシュをクリアし、設定変更を行う。 ・URLオフロードのプロファイルごと削除する。	Ver.9.5.11～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
12	NetMeister	C	NetMeisterのIKEv1を利用したVPN表示で、peeridの表示の末尾に不要な表示が含まれてしまう場合がある問題を修正しました。 <回避策> 以下のいずれかにて回避可能です。 ・peer-idの長さを統一する。 ・IKEv1ではなくIKEv2を利用する。	Ver.10.1.14～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
13	SNMP	B	ネットワークモニタのトラップ(picoNetmonWatchgroupStatus)のOIDに誤りがある問題を修正しました。 ・正：1.3.6.1.4.1.119.2.3.84.7.1.1.1.4.1 ・誤：1.3.6.1.4.1.119.2.3.84.7.1.1.1.3.1 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
14	TCP	B	TCPヘッダ長フィールドの値が実際のTCPパケット長より大きい不正なTCPパケットを受信すると、リポートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> IDS機能のTCP検知を有効にすることで不正TCPパケットを廃棄を行ってください。	Ver.10.4.14以前	Ver.10.4.19以降
15	Tunnel	B	OCNバーチャルネットワークの固定IP利用時、IPv6リナランバリングが発生した際にDDNS通知できないことがある問題を修正しました。 <回避策> DDNSプロファイルにVNEから指定したパラメータを手動で設定してください。	Ver.10.4.14以前	Ver.10.4.19以降
16	UTM	B	UTMで、extended-inspection protocol-anomaly log-onlyコマンドを設定した場合、IPSスキャンによるWebサイトアクセスの脅威検出時に96byteのメモリーリークが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> extended-inspection protocol-anomalyコマンドでignoreを設定してください。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降

17	Tunnel	B	MAP-E利用中、clear map-e statusコマンドによって再接続を行った場合、最大384byteのメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
18	IKEv2	B	IKEv2 NATトラバーサルのキープアライブを256秒以上に設定すると、設定したキープアライブ値で動作しない問題を修正しました。 <回避策> IKEv2 NATトラバーサルのキープアライブは255秒以下で設定してください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
19	NetMeister	B	NetMeisterの通知設定で、ネットワークモニタのdescriptionに「¥」または「」の半角記号を設定すると、アラームの通知に失敗する問題を修正しました。 <回避策> ネットワークモニタのdescriptionに「¥」や「」の半角記号を使用しないでください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
20	ZTP	B	起動時自動ファームウェアアップデート機能とゼロタッチプロビジョニング機能を併用した際、WANインタフェース(GigabitEthernet0.x)がno shutdown状態になっていると、起動時自動ファームウェアアップデート実行後にゼロタッチプロビジョニングが動作しない問題を修正しました。 <回避策> startup-configのWANインタフェース(GigabitEthernet0.x)をshutdown状態とし、ゼロタッチプロビジョニングによる最小構成コンフィグが動作するようにしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
21	NetMeister	B	NetMeisterからIXへリモートアクセスする際、NetMeister用NAPTサービス機能のサービス数(エントリ数)が上限に達していると、IXにリモートアクセスできない問題を対処しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
22	DHCPv4	C	DHCPのoptionコマンドで、設定可能なアドレス数が上限に達しても、「?」によるヘルプ表示ではさらに入力可能なように表示される問題を修正しました。 <回避策> コマンド入力時のヘルプの表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.6.12～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
23	NetMeister	B	NetMeisterやUTMの通信において、その通信がNAPTによりアドレスやポートの変換が行われると、受信フィルタの回避がされない問題を修正しました。 NAPTでのアドレスやポートの変換は、主に以下の場合に行われます。 ・ ip napt address コマンドで、NAPTで使用するアドレスを指定した場合 ・ MAP-Eを使用した場合 ・ source-addressコマンドで、LAN側のアドレスまたはインタフェースを指定した場合 (NetMeisterのみ) ・ ip napt serviceコマンドやip napt staticコマンドで1024以降のポートを指定した場合で、乱数で決まるsrc-portが指定したポートと一致した場合 <回避策> 受信フィルタ (ダイナミックフィルタを含む) を設定しているインタフェースで、NAPT変換前のアドレスが宛先を許可した静的な受信フィルタを設定してください。 設定例: nm source-address で指定したアドレスが宛先を許可	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
24	SNMP	B	ISDNのトラップ(picolnsdnLapdOperStatusChange)の値に誤りがある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
25	SNMP	C	clear snmp-agent statisticsコマンドを実行しても一部の統計情報がクリアされない問題を修正しました。 以下のパラメータが対象となります。 ・ total reqvars ・ total setvars ・ traps <回避策> showコマンドで表示される統計情報がクリアできない問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
26	SNMP	B	以下のIKEv1 Phase1、Phase2 確立/停止のトラップに含まれるOIDに誤りがある問題を修正しました。 ・ pikeTunnelStart (IPv4), pikeTunnelStop (IPv4) - pikePeerLocalAddr - pikePeerRemoteAddr ・ pikeTunnelStart (IPv6), pikeTunnelStop (IPv6) - pikePeerLocalAddr.idlIpv6Addr - pikePeerRemoteAddr.idlIpv6Addr <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
27	SNMP	B	Mobileトラップに含まれるpicoMobileDeviceNameの文字列に誤りがある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
28	SNMP	B	以下のVRRPトラップに含まれているOIDに誤りがある問題を修正しました。 ・ vrrpTrapNewMaster - 正: 1.3.6.1.2.1.68.0.1 - 誤: 1.3.6.1.2.1.68.0.0.1 ・ vrrpTrapAuthFailure - 正: 1.3.6.1.2.1.68.0.2 - 誤: 1.3.6.1.2.1.68.0.0.2 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
29	URL-Offload	B	NetMeister連携時に、offload-protocolを変更すると、次のデータベース更新後に、データベースが空になる問題を修正しました。 <回避策> NetMeisterでオフロード対象の更新(変更なしで保存する)を行ってください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
30	TCP	B	TCP通信時にFINフラグパケットを受信した後にPUSHフラグのパケットを受信するとリポートする場合があります。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.3.17, Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降



1	MP-BGP	B	<p>VRF上でのBGP使用時にeBGPピアへ広告する経路のnexthopはピアアドレスと同一ネットワークの場合のみnexthopアドレスを変更せずにそのまま広告すべきところnexthopアドレスを更新してしまう問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; BGPによる経路広告にroute-mapを適用しnexthopアドレスを正しい値に変更してください。</p>	Ver.9.6.12～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
2	MP-BGP	B	<p>BGPのCOMMUNITY属性条件(match communityコマンド)及びBGPのCOMMUNITY属性を指定(set community)でオプションを設定する場合に複数回同一オプションが入力できてしまう問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; BGPのCOMMUNITY属性条件(match communityコマンド)及びBGPのCOMMUNITY属性を指定(set community)でオプションを設定する場合には同一オプションを入力しないでください。</p>	Ver.8.9.17～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
3	IKEv2	B	<p>IKEv2のNAT-T Keepaliveパケットが outgoing-interface 設定に従わずにルーティングテーブルに従って送信される問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.3.13以前	Ver.10.4.14以降
4	DHCPv4	B	<p>DHCPサーバが動作しているポートとDHCPクライアントが動作しているポートをケーブルにより直接接続するなどのループ接続を行うと、装置自身に対するアドレスの払い出しが行なわれ、その後リブートが発生する問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; ループ接続となるようなケーブル接続は行わないでください。</p>	Ver.9.5.11～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
5	SNMP	B	<p>「no snmp-agent」で始まるコマンドを設定し保存を行っても、装置を再起動すると設定が反映されず"show running-config"でも設定が表示されない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 装置再起動後には再度「no snmp-agent」コマンドによる設定を行ってください。</p>	Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
6	NTP	B	<p>ntp serverコマンドにより複数のNTPサーバを指定している場合で最初に設定されたサーバとの同期確認にNTPパケットの生成が失敗した場合、パケット送信が成功するまで同じサーバとの同期確認が行われるため、連続してNTPパケットの生成に失敗する場合には次のサーバにパケット送信ができず時刻同期ができなくなる問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; ntp serverコマンドにより最初に設定したNTPサーバ、または一番高いプライオリティに設定したNTPサーバに対してパケット送信が失敗するような設定を行わないでください。</p>	Ver.10.3.13以前	Ver.10.4.14以降
7	NetMeister	C	<p>NetMeister設定場面で、ダイナミックDNSへの通知でIPv4アドレスの通知インタフェースとIPv6アドレスの通知インタフェースを設定した後にWebブラウザでNetMeisterの設定を表示させるとダイナミックDNSのIPv6登録部分の表示が崩れる問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 表示のみの問題であり、通常の運用には問題ありません。</p>	Ver.10.3.10～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
8	PIM	C	<p>PIMのRP設定でグループアドレスのマスクは/4以上の設定のところ、/3が設定できてしまう問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; PIMのRP設定でグループアドレスのマスクは/4以上を設定してください。</p>	Ver.10.3.13以前	Ver.10.4.14以降
9	WebUI	B	<p>Webコンソールにてdigest認証時にguest設定があると、Webコンソールを開いた際に複数回ログインID/Passwordを求められてしまう問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 以下の何れかで回避可能となります。 ・BASIC認証に変更する。 ・guest認証を使用しない。</p>	Ver.10.0.14～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
10	OSPFv2	B	<p>OSPFv2にて以下の問題を修正しました。 ・NSSAレンジ設定と同一のNSSA経路を学習した場合に外部経路(Type5-LSA)がバックボーンエリアに広告されないことがある。 ・NSSAレンジ設定と同一のNSSA経路と集約対象の経路を同時に学習していると、レンジ指定したプレフィックス宛経路が数秒おきに廃棄経路とNSSA経路が交互に変化する。 ・レンジ設定を削除すると、有効なOSPF経路であってもルーティングテーブルから削除されてしまう。</p> <p>&lt;回避策&gt; レンジ設定と同一のプレフィックスを広告しないようにしてください。</p>	Ver.10.3.13以前	Ver.10.4.14以降
11	NetMeister	B	<p>コンピュータ名等端末の名前に「¥」や「」が含まれているとNetMeisterのデバイスリストタブで正常に表示されないことがある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 該当のMACアドレスをリンクマネージャでdesc付きにより明示的に設定してください。</p>	Ver.10.3.10～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
12	NetMeister	B	<p>NetMeisterで複数のプロキシがあっても1つ目のプロキシしか使用しない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
13	Tunnel	B	<p>JPNE MAP-EでMAPルール問合せ時にIDパラメータを付与していない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.1.14～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
14	TCP	B	<p>接続するHTTPSサーバによって、HTTPSセッションの終了シーケンスが正しく行われない場合がある問題を修正しました。</p> <p>ただし、HTTPSの接続性には問題がありません。</p> <p>&lt;回避策&gt; 接続性には問題ないため、通常の運用には問題ありません。</p>	Ver.10.3.13以前	Ver.10.4.14以降
15	WebUI	C	<p>WebコンソールにてIPoEかんたん設定後、ステータス画面のVPN接続状態に「」が表示される問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; Webコンソールにおける表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。</p>	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
16	WebUI	C	<p>WebコンソールでのIPoEかんたん設定画面の下部に表示される「BIGLOBE」の記載内容が適切でない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; Webコンソールにおける表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。</p>	Ver.10.3.10～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降

17 UTM	C	<p>show utm status allコマンドでグループコンフィグの有無に関わらずUTMのステータス情報が表示される問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; showコマンドにおける表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。</p>	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
18 UTM	B	<p>UTMにて、デフォルトのscan compress-file設定を変更しても、装置再起動時にコンフィグ変更がある旨の表示が行われない場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
19 UTM	C	<p>UTMアンチウイルス機能のignore idにマイナスとなる数値を登録すると異常値が登録される問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; ignore idにはマイナス符号のない数値を登録してください。</p>	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
20 UTM	B	<p>UTMにてIPS無効状態でもグループIPS有効時にスキャン行われることがある問題を修正しました。</p> <p>発生条件:以下の手順により本問題が発生します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初期状態はIPS有効、IPSグループ有効。</li> <li>2. IPS機能を無効化。IPSグループは有効のまま。</li> <li>3. IPSスキャン対象パケットを送信。</li> </ol> <p>以上の操作が行われると、本来無効であるはずのIPS機能によるスキャンがグループに対して行われます。アンチウイルス機能でも同様の問題が発生します。</p> <p>&lt;回避策&gt; utm enableコマンドで無効の機能をグループで有効とする設定を行わないでください。</p>	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
21 UTM	B	<p>UTMの処理負荷によりインタフェースのバッファが滞留している状態でUTM機能の無効化を行うと、一部のバッファが解放されない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 過負荷トラフィックを対象としないようUTM設定を変更し、バッファが滞留していない状態でUTMの無効化を行ってください。</p>	Ver.10.0.14～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降

■Ver.10.3 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	WebUI	C	Webコンソールのping実行画面で、送信先IPv4アドレスに[::]を設定してもエラーが表示されない問題を修正しました。 <回避策> WebGUIでのping実行時における異常アドレス入力時に発生する問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.3.10～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
2	WebUI	C	WebコンソールでIPv6 IPoE設定後、GigaEthernet0.0をshutdownすると装置情報が表示されなくなる問題を修正しました。 <回避策> WebGUIでの表示のみの問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
3	WebUI	C	MAP-E接続時、MAP-E通信が確立していなくてもWebコンソールのステータス画面のVPN接続状態が「接続」と表示される問題を修正しました。 <回避策> WebGUIでの表示のみの問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
4	NAT	B	MAP-E(動的IP)でFTPアクティブモードで接続すると、レポートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> MAP-E(動的IP)ではFTPをパッシブモードで行ってください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
5	NAT	B	FTPアクティブモードでクライアントがNATの内側から通信する際、FTPが高負荷状態になると、FTPコントロールセッション(UDP/21)のNAPTキャッシュが残ってしまう問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.3.17以前	Ver.10.3.21以降
6	URL-Offload	B	URLオフロードでプロキシありの場合、TCP/443であっても通信スキームがWebSocketのwss://であるとURLオフロードされない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
7	URL-Offload	B	URLオフロードで外部リストの設定を変更した場合、showコマンド実行時またはイベントログ表示時にリポートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> clear url-offload address-cacheコマンド、clear url-offload session-cacheコマンドの両方のコマンドによりキャッシュをクリアし、設定変更を行ってください。	Ver.9.4.15～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
8	URL-Offload	B	URLオフロードで外部リストと内部リストを併用し、外部リストと内部リスト両方のキャッシュがある場合に、no listコマンドにより内部リスト指定を削除すると、残ったキャッシュの有効期限満了(expire)時にリポートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 以下のいずれかに回避可能です。 ・ clear url-offload address-cacheコマンド、clear url-offload session-cacheコマンドの両方のコマンドによりキャッシュをクリアし、設定変更を行う。 ・ URLオフロードのプロファイルごと削除する。	Ver.9.5.11～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
9	NetMeister	C	NetMeisterのIKEv1を利用したVPN表示で、peeridの表示の末尾に不要な表示が含まれてしまう可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 以下のいずれかに回避可能です。 ・ peer-idの長さを統一する。 ・ IKEv1ではなくIKEv2を利用する。	Ver.10.1.14～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
10	TCP	B	TCPヘッダ長フィールドの値が実際のTCPパケット長より大きい不正なTCPパケットを受信すると、レポートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> IDS機能のTCP検知を有効にすることで不正TCPパケットを廃棄を行ってください。	Ver.10.3.17以前	Ver.10.3.21以降
11	Tunnel	B	OCNパチャルコネクの固定IP利用時、IPv6リナンバリングが発生した際にDDNS通知できないことがある問題を修正しました。 <回避策> DDNSプロファイルにVNEから指定したパラメータを手動で設定してください。	Ver.10.3.17以前	Ver.10.3.21以降
12	Tunnel	B	MAP-E利用中、clear map-e statusコマンドによって再接続を行った場合、最大384byteのメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
13	IKEv2	B	IKEv2 NATトラバーサルキーブアライブを256秒以上に設定すると、設定したキーブアライブ値で動作しない問題を修正しました。 <回避策> IKEv2 NATトラバーサルキーブアライブは255秒以下で設定してください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
14	NetMeister	B	NetMeisterの通知設定で、ネットワークモニタのdescriptionに「¥」または「?」の半角記号を設定すると、アラームの通知に失敗する問題を修正しました。 <回避策> ネットワークモニタのdescriptionに「¥」や「?」の半角記号を使用しないでください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
15	NetMeister	B	NetMeisterからIXへリモートアクセスする際、NetMeister用NAPTサービス機能のサービス数(エントリ数)が上限に達していると、IXにリモートアクセスできない問題を対処しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
16	DHCPv4	C	DHCPのoptionコマンドで、設定可能なアドレス数が上限に達しても、「?」によるヘルプ表示ではさらに入力可能なように表示される問題を修正しました。 <回避策> コマンド入力時のヘルプの表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.6.12～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
17	URL-Offload	B	NetMeister連携時に、offload-protocolを変更すると、次のデータベース更新後に、データベースが空になる問題を修正しました。 <回避策> NetMeisterでオフロード対象の更新(変更なしで保存する)を行ってください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降

18	TCP	B	TCP通信時にFINフラグパケットを受信した後にPUSHフラグのパケットを受信するとリポートする場合があります問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
1	MP-BGP	B	VRF上でBGP使用時にeBGPピアへ広告する経路のnexthopはピアアドレスと同一ネットワークの場合のみnexthopアドレスを変更せずにそのまま広告すべきところnexthopアドレスを更新してしまう問題を修正しました。 <回避策> BGPによる経路広告にroute-mapを適用しnexthopアドレスを正しい値に変更してください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
2	IKEv2	B	IKEv2のNAT-T Keepaliveパケットが outgoing-interface 設定に従わずにルーティングテーブルに従って送信される問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.3.13以前	Ver.10.3.17以降
3	DHCPv4	B	DHCPサーバが動作しているポートとDHCPクライアントが動作しているポートをケーブルにより直接接続するなどのループ接続を行うと、装置自身に対するアドレスの払い出しが行なわれ、その後リポートが発生する問題を修正しました。 <回避策> ループ接続となるようなケーブル接続は行わないでください。	Ver.9.5.11～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
4	SNMP	B	[no snmp-agent] で始まるコマンドを設定し保存を行っても、装置を再起動すると設定が反映されず "show running-config"でも設定が表示されない問題を修正しました。 <回避策> 装置再起動後には再度[no snmp-agent]コマンドによる設定を行ってください。	Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
5	NTP	B	ntp serverコマンドにより複数のNTPサーバを指定している場合で最初に設定されたサーバとの同期確認にNTPパケットの生成が失敗した場合、パケット送信が成功するまで同じサーバとの同期確認が行われるため、連続してNTPパケットの生成に失敗する場合には次のサーバにパケット送信ができず時刻同期ができなくなる問題を修正しました。 <回避策> ntp serverコマンドにより最初に設定したNTPサーバ、または一番高いプライオリティに設定したNTPサーバに対してパケット送信が失敗するような設定を行わないでください。	Ver.10.3.13以前	Ver.10.3.17以降
6	NetMeister	C	NetMeister設定場面にて、ダイナミックDNSへの通知でIPv4アドレスの通知インタフェースとIPv6アドレスの通知インタフェースを設定した後にWebブラウザでNetMeisterの設定を表示させるとダイナミックDNSのIPv6登録部分の表示が崩れる問題を修正しました。 <回避策> 表示のみの問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.3.10～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
7	PIM	C	PIMのRP設定でグループアドレスのマスクは/4以上の設定のところ、/3が設定できてしまう問題を修正しました。 <回避策> PIMのRP設定でグループアドレスのマスクは/4以上を設定してください。	Ver.10.3.13以前	Ver.10.3.17以降
8	WebUI	B	Webコンソールにてdigest認証時にguest設定があると、Webコンソールを開いた際に複数回ログインID/Passwordを求められてしまう問題を修正しました。 <回避策> 以下の何れかで回避可能となります。 ・BASIC認証に変更する。 ・guest認証を使用しない。	Ver.10.0.14～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
9	OSPFv2	B	OSPFv2にて以下の問題を修正しました。 ・NSSAレンジ設定と同一のNSSA経路を学習した場合に外部経路(Type5-LSA)がバックボーンエリアに広告されることがある。 ・NSSAレンジ設定と同一のNSSA経路と集約対象の経路を同時に学習していると、レンジ指定したプレフィックス宛経路が数秒おきに廃棄経路とNSSA経路が交互に変化する。 ・レンジ設定を削除すると、有効なOSPF経路であってもルーティングテーブルから削除されてしまう。 <回避策> レンジ設定と同一のプレフィックスを広告しないようにしてください。	Ver.10.3.13以前	Ver.10.3.17以降
10	NetMeister	B	コンピュータ名等端末の名前に「¥」や「】」が含まれているとNetMeisterのデバイスリストタブで正常に表示されないことがある問題を修正しました。 <回避策> 該当のMACアドレスをリンクマネージャでdesc付きにより明示的に設定してください。	Ver.10.3.10～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
11	NetMeister	B	NetMeisterで複数のプロキシがあっても1つ目のプロキシしか使用しない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
12	Tunnel	B	JPNE MAP-EでMAPルール問合せ時にIDパラメータを付与していない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
13	TCP	B	接続するHTTPSサーバによって、HTTPSセッションの終了シーケンスが正しく行われないうちにある問題を修正しました。 ただし、HTTPSの接続性には問題がありません。 <回避策> 接続性には問題ないため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.3.13以前	Ver.10.3.17以降
14	WebUI	C	WebコンソールにてIPoEかんたん設定後、ステータス画面のVPN接続状態に「-」が表示される問題を修正しました。 <回避策> Webコンソールにおける表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
15	WebUI	C	WebコンソールでのIPoEかんたん設定画面の下部に表示される「BIGLOBE」の記載内容が適切でない問題を修正しました。 <回避策> Webコンソールにおける表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.3.10～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
16	UTM	C	show utm status allコマンドでグループコンフィグの有無に関わらずUTMのステータス情報が表示される問題を修正しました。 <回避策> showコマンドにおける表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降

17	UTM	B	<p>UTMにて、デフォルトのscan compress-file設定を変更しても、装置再起動時にコンフィグ変更がある旨の表示が行われない場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
18	UTM	C	<p>UTMアンチウイルス機能のignore idにマイナスとなる数値を登録すると異常値が登録される問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; ignore idにはマイナス符号のない数値を登録してください。</p>	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
19	UTM	B	<p>UTMにてIPS無効状態でもグループIPS有効時にスキャン行われることがある問題を修正しました。</p> <p>発生条件:以下の手順により本問題が発生します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初期状態はIPS有効、IPSグループ有効。</li> <li>2. IPS機能を無効化。IPSグループは有効のまま。</li> <li>3. IPSスキャン対象パケットを送信。</li> </ol> <p>以上の操作が行われると、本来無効であるはずのIPS機能によるスキャンがグループに対して行われます。アンチウイルス機能でも同様の問題が発生します。</p> <p>&lt;回避策&gt; utm enableコマンドで無効の機能をグループで有効とする設定を行わないでください。</p>	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
20	UTM	B	<p>UTMの処理負荷によりインタフェースのバッファが滞留している状態でUTM機能の無効化を行うと、一部のバッファが解放されない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 過負荷トラフィックを対象としないようUTM設定を変更し、バッファが滞留していない状態でUTMの無効化を行ってください。</p>	Ver.10.0.14～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
1	PPP	B	<p>PPPoEタグRelay-Session-Idを受信してもそれを応答に含めて送信していないためにPPPoEリレーに対応できていない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.3.10以前	Ver.10.3.13以降
2	SNMP	B	<p>startup-configが以下の様な状態で装置の再起動を行い、装置起動後にインタフェースでのUp/Downが発生するとレポートが発生する場合がある問題を修正しました。ただし、write memoryによるコンフィグ保存時には本問題は発生しません。</p> <p>発生条件:以下の全ての条件を満たしている場合に本問題が発生する場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ snmp-agent mib-2 ifindexコマンドよりも前にinterfaceコマンドを設定している。</li> <li>・ snmp-agent ip trap test snmp link-up 又は link-down を設定している。</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt; startup-configの内容をsnmp-agent mib-2 ifindexコマンドがinterfaceコマンドよりも前に来るように設定してください。</p>	Ver.10.3.10以前	Ver.10.3.13以降
3	OpenFlow	B	<p>複数のコンソールからOpenFlowコマンドを同時実行すると、コンソールがフリーズし操作が行えなくなる場合がある問題を修正しました。</p> <p>本問題は複数のコンソールから同時実行することでまれに発生します。</p> <p>表示コマンドを使用した場合は表示内容が多いほど発生確率が高まります。</p> <p>&lt;回避策&gt; OpenFlowコマンドは単一のコンソール画面からのみ実行してください。</p>	Ver.8.11.11～ Ver.10.3.10	Ver.10.3.13以降
4	WebUI	B	<p>Webコンソールの「クラウド接続を設定」でAWSを選択し、「IPsec Tunnel #2」を使用する設定を行った場合、AWSの副側ポリシー名が誤っているために接続が不可となる問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; AWS選択時には「IPsec Tunnel #2」を使用しないでください。</p>	Ver.9.3.11～ Ver.10.3.10	Ver.10.3.13以降
5	OSPFv2	B	<p>OSPFv2において、以下の条件ではOSPFの隣接関係が確立しない問題を修正しました。</p> <p>発生条件:以下の全ての条件を満たしている場合に本問題が発生する場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブロードキャストイーサネットインタフェースでOSPFが動作している。(PPPoE等のポイントツーポイントでは発生しない)</li> <li>・ インタフェースサブネットの上位経路が同一インタフェース向きに存在し、かつネクストホップのルータが存在しないもしくはパケットが転送されない。</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt; 隣接関係が確立しないOSPFルータへのスタティックルートを設定してください。</p>	Ver.10.2.20～ Ver.10.3.10	Ver.10.3.13以降
6	WebUI	B	<p>Webコンソールでセッションがタイムアウトせず残り続ける場合がある問題を修正しました。本問題発生時には、残ったセッションと同一IPアドレスからのセッションが生成できなくなります。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.9.2.20～ Ver.10.3.10	Ver.10.3.13以降
7	UTM	B	<p>UTM使用時に、Webガード/URLフィルタでブロックし続けるとフラグメントパケットが通過しなくなる場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.2.23～ Ver.10.3.10	Ver.10.3.13以降
1	NetMeister	B	<p>NetMeisterを無効から有効に設定変更を行うとレポートが発生する場合がある問題を修正しました。</p> <p>発生条件: 以下の全ての条件を満たしている場合に本問題が発生する場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NetMeisterを一度でも有効にしたことがある。</li> <li>・ NetMeisterを無効にし、再度有効に設定変更するまでの時間間隔が短い。(数十秒間隔)</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt; NetMeisterを無効にしてから再度有効に設定変更する場合には1分以上の間隔をあけてください。</p>	Ver.10.0.14～ Ver.10.2.20	Ver.10.3.10以降
2	UTM	B	<p>高負荷通信時にshow running-config sizeコマンドを実行すると通信中のトラフィックでパケットロスが発生する場合がある問題を修正しました。</p> <p>[回避策] 最大転送レートの90%以上で数分通信が継続するような場合に発生する問題のため、通常の運用で発生することはほとんどありません。</p>	Ver.10.0.14～ Ver.10.2.20	Ver.10.3.10以降
3	UTM	B	<p>高負荷通信時にshow tech-supportコマンドを実行すると通信中のトラフィックでパケットロスが発生する場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 最大転送レートの90%以上で数分通信が継続するような場合に発生する問題のため、通常の運用で発生することはほとんどありません。</p>	Ver.10.2.16～ Ver.10.2.20	Ver.10.3.10以降

4	NetMeister	B	<p>NetMeisterにおいてoutgoing-interfaceやddns notify interfaceで指定したインタフェースと、web-console system informationで設定したWANインタフェースが異なる装置をセンター装置(HUB装置)に指定してダイナミックVPN設定を行うと、ダイナミックVPNが正常に接続できない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; NetMeisterによるダイナミックVPN設定時には、outgoing-interfaceやnotify-interfaceで設定したインタフェースとweb-console system informationのWANインタフェースを同じインタフェースに設定してください。</p>	Ver.10.2.16～ Ver.10.2.20	Ver.10.3.10以降
5	WebUI	C	<p>Webコンソールにて数値入力を行う箇所に「100」や「+100」のような不正値を入力してもエラー表示されない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 数値入力箇所では[0-9]の数値のみで入力してください。</p>	Ver.9.2.20～ Ver.10.2.20	Ver.10.3.10以降
6	ProxyDNS	C	<p>連続したDNS要求などによるDNS処理の継続中にshow proxy-dnsコマンドを実行するとセッションリストが表示され続けることがある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 数百件の連続したDNS要求などによるDNS処理継続中のみで発生する問題のため、通常の運用で発生することはほとんどありません。</p>	Ver.10.2.20以前	Ver.10.3.10以降
7	WebUI	C	<p>WebコンソールのNGN網VPNかんたん設定を使用してVPNを構築後、Webコンソールのトップページにおける装置情報-VPN情報-通信量の受信量表示に異常値が表示される問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; Webコンソールにおける表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。</p>	Ver.10.2.16～ Ver.10.2.20	Ver.10.3.10以降
8	Tunnel	B	<p>MAP-E使用時に、IPv6ダイナミックフィルタが動作しない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; MAP-E使用時には、IPv6スタティックフィルタを使用してください。</p>	Ver.10.1.14～ Ver.10.2.20	Ver.10.3.10以降
9	IPv6	B	<p>NDプロキシ利用時、Router Lifetimeが満了してもグローバルアドレスが削除されない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; NDプロキシのUpstreamまたはDownstreamインターフェースリセットによるアドレス削除を行ってください。</p>	Ver.10.0.14～ Ver.10.2.20	Ver.10.3.10以降
10	NetMeister	B	<p>body部のあるHTTPメッセージを受信後に、body部のないHTTPメッセージを受信するとリポートが発生する場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.0.14～ Ver.10.2.20	Ver.10.3.10以降
11	NetMon	A	<p>ネットワークモニタ機能のアクションで、USBデータ通信端末のリセットを設定すると、装置がリポートする問題を修正しました。</p> <p>発生条件: 以下のいずれかのコマンドが設定されている場合に本問題が発生します。 ・ action SEQ reset-device USB0 ・ action SEQ reset-device USB1</p> <p>また、旧バージョンで上記の設定が保存されている状態で、Ver.10.2.20またはVer.10.1.22へバージョンアップした場合にも、装置起動の設定情報の読み込み中に再起動します。 この状態となると、正常に立ち上がらず、リポートを繰り返す状態となります。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.1.22 Ver.10.2.20	Ver.10.3.10以降

■Ver.10.2 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	PPP	B	PPPoEタグRelay-Session-Idを受信してもそれを応答に含めて送信していないためにPPPoEリレーに対応できていない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.23以前	Ver.10.2.26以降
2	SNMP	B	startup-configが以下の様な状態で装置の再起動を行い、装置起動後にインタフェースでのUp/Downが発生するとリポートが発生する場面がある問題を修正しました。ただし、write memoryによるコンフィグ保存時には本問題は発生しません。 発生条件:以下の全ての条件を満たしている場合に本問題が発生する場合があります。 ・snmp-agent mib-2 ifindexコマンドよりも前にinterfaceコマンドを設定している。 ・snmp-agent ip trap test snmp link-up 又は link-down を設定している。 <回避策> startup-configの内容をsnmp-agent mib-2 ifindexコマンドがinterfaceコマンドよりも前に来るように設定してください。	Ver.10.2.23以前	Ver.10.2.26以降
3	OpenFlow	B	複数のコンソールからOpenFlowコマンドを同時実行すると、コンソールがフリーズし操作が行えなくなる場面がある問題を修正しました。 本問題は複数のコンソールから同時実行することでまれに発生します。 表示コマンドを使用した場合は表示内容が多いほど発生確率が高まります。 <回避策> OpenFlowコマンドは単一のコンソール画面からのみ実行してください。	Ver.8.11.11～ Ver.10.2.23	Ver.10.2.26以降
4	WebUI	B	Webコンソールの「クラウド接続を設定」でAWSを選択し、「IPsec Tunnel #2」を使用する設定を行った場合、AWSの副副ポリシー名が誤っているために接続が不可となる問題を修正しました。 <回避策> AWS選択時には「IPsec Tunnel #2」を使用しないでください。	Ver.9.3.11～ Ver.10.2.23	Ver.10.2.26以降
5	OSPFv2	B	OSPFv2において、以下の条件ではOSPFの隣接関係が確立しない問題を修正しました。 発生条件:以下の全ての条件を満たしている場合に本問題が発生する場合があります。 ・ブロードキャストイーサネットインタフェースでOSPFが動作している。(PPPoE等のポイントツーポイントでは発生しない) ・インタフェースサブネットの上位経路が同一インタフェース向きに存在し、かつネクストホップのルータが存在しないもしくはパケットが転送されない。 <回避策> 隣接関係が確立しないOSPFルータへのスタティックルートを設定してください。	Ver.10.2.20～ Ver.10.2.23	Ver.10.2.26以降
6	WebUI	B	Webコンソールでセッションがタイムアウトせず残り続ける場面がある問題を修正しました。本問題発生時には、残ったセッションと同一IPアドレスからのセッションが生成できなくなります。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.2.23	Ver.10.2.26以降
7	UTM	B	UTM使用時に、Webガード/URLフィルタでブロックし続けるとフラグメントパケットが通過しなくなる場面がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.23	Ver.10.2.26以降
1	NetMeister	B	NetMeisterを無効から有効に設定変更を行うとリポートが発生する場面がある問題を修正しました。 発生条件: 以下の全ての条件を満たしている場合に本問題が発生する場合があります。 ・NetMeisterを一度でも有効にしたことがある。 ・NetMeisterを無効にし、再度有効に設定変更するまでの時間間隔が短い。(数十秒間隔) <回避策> NetMeisterを無効にしてから再度有効に設定変更する場合には1分以上の間隔をあけてください。	Ver.10.0.14～ Ver.10.2.20	Ver.10.2.23以降
2	UTM	B	高負荷通信時にshow running-config sizeコマンドを実行すると通信中のトラフィックでパケットロスが発生する場面がある問題を修正しました。 [回避策] 最大転送レートの90%以上で数分通信が継続するような場合に発生する問題のため、通常の運用で発生することはほとんどありません。	Ver.10.0.14～ Ver.10.2.20	Ver.10.2.23以降
3	UTM	B	高負荷通信時にshow tech-supportコマンドを実行すると通信中のトラフィックでパケットロスが発生する場面がある問題を修正しました。 <回避策> 最大転送レートの90%以上で数分通信が継続するような場合に発生する問題のため、通常の運用で発生することはほとんどありません。	Ver.10.2.16～ Ver.10.2.20	Ver.10.2.23以降
4	NetMeister	B	NetMeisterにおいてoutgoing-interfaceやddns notify interfaceで指定したインタフェースと、web-console system informationで設定したWANインタフェースが異なる装置をセンター装置(HUB装置)に指定してダイナミックVPN設定を行うと、ダイナミックVPNが正常に接続できない問題を修正しました。 <回避策> NetMeisterによるダイナミックVPN設定時には、outgoing-interfaceやnotify-interfaceで設定したインタフェースとweb-console system informationのWANインタフェースを同じインタフェースに設定してください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.2.20	Ver.10.2.23以降
5	ProxyDNS	C	連続したDNS要求などによるDNS処理の継続中にshow proxy-dnsコマンドを実行するとセッションリストが表示され続けることがある問題を修正しました。 <回避策> 数百件の連続したDNS要求などによるDNS処理継続中のみで発生する問題のため、通常の運用で発生することはほとんどありません。	Ver.10.2.20以前	Ver.10.2.23以降
6	WebUI	C	WebコンソールのNGN網VPNかんたん設定を使用してVPNを構築後、Webコンソールのトップページにおける装置情報-VPN情報-通信量の受信量表示に異常値が表示される問題を修正しました。 <回避策> Webコンソールにおける表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.2.16～ Ver.10.2.20	Ver.10.2.23以降
7	Tunnel	B	MAP-E使用時に、IPv6ダイナミックフィルタが動作しない問題を修正しました。 <回避策> MAP-E使用時には、IPv6スタティックフィルタを使用してください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.2.20	Ver.10.2.23以降

8	IPv6	B	NDプロキシ利用時、Router Lifetimeが満了してもグローバルアドレスが削除されない問題を修正しました。 <回避策> NDプロキシのUpstreamまたはDownstreamインターフェースリセットによるアドレス削除を行ってください。	Ver.10.0.14～ Ver.10.2.20	Ver.10.2.23以降
9	NetMeister	B	body部のあるHTTPメッセージを受信後に、body部のないHTTPメッセージを受信するとリポートが発生する問題がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.0.14～ Ver.10.2.20	Ver.10.2.23以降
10	NetMon	A	ネットワークモニタ機能のアクションで、USBデータ通信端末のリセットを設定すると、装置がリポートする問題を修正しました。 発生条件: 以下のいずれかのコマンドが設定されている場合に本問題が発生します。 ・ action SEQ reset-device USB0 ・ action SEQ reset-device USB1 また、旧バージョンで上記の設定が保存されている状態で、Ver.10.2.20またはVer.10.1.22へバージョンアップした場合にも、装置起動の設定情報の読み込み中に再起動します。 この状態となると、正常に立ち上がらず、リポートを繰り返す状態となります。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.1.22 Ver.10.2.20	Ver.10.2.23以降
1	IKv2	B	IKv2において、ikev2 outgoing-interface XXX autoコマンドによりNexthopを自動選択設定しても正しくNexthop選択が出来ずARPが失敗し接続できないことがある問題を修正しました。 <回避策> 以下のいずれかにより回避可能となります。 ・ outgoing-interface 設定を削除する。 ・ outgoing-interface 設定を行う場合にはauto指定ではなくNexthopアドレスで指定する。	Ver.10.2.16	Ver.10.2.20以降
2	IPv6	C	NDプロキシ動作時にclear interfaceコマンドなどにより上位ルータの情報削除後に再度上位ルータからRAを受信した場合、show ipv6 interfaceコマンドで表示されるAddress auto configurationのuptimeカウンタがクリアされないことがある問題を修正しました。 <回避策> show ipv6 interfaceコマンドでの表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.0.14～ Ver.10.2.16	Ver.10.2.20以降
3	WebGUI	B	http-server usernameコマンドでユーザ名を16文字で設定を行っても15文字目までしかコンフィグに反映されていない問題を修正しました。 <回避策> ユーザ名を15文字以内で設定してください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.2.16	Ver.10.2.20以降
4	DMVPN	B	同一の対地に対してダイナミックVPNによる連続した接続を行うとリポートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> ダイナミックVPNによる同一対地への接続を約13万回ほど連続で行うと問題が発生する可能性がありますが、通常の運用で問題が発生することはほとんどありません。	Ver.9.2.20～ Ver.10.2.16	Ver.10.2.20以降
5	NetMeister	B	NetMeister接続設定にてプロキシの設定がアドレス形式の場合にNetMeisterへの接続が一部繋がらなくなる場合がある問題を修正しました。 <回避策> プロキシの設定をFQDN形式で指定してください。	Ver.10.2.16	Ver.10.2.20以降
6	IPv6	B	IPv6でRA受信によってアドレスを設定する場合、近隣探索(ND)で不正なオプションが含まれるメッセージを受信するとリポートする問題がある問題を修正しました。 IPv6を利用していない場合には影響を受けません。 DHCPv6-PDでのアドレス設定使用時には影響を受けません。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.16以前	Ver.10.2.20以降
7	NetNon	B	ネットワークモニタのactionにSW-HUBデバイスのshutdownを指定しても、event発生時にSW-HUBデバイスがshutdownされない問題を修正しました。 <回避策> ネットワークモニタのactionには、SW-HUBのポートをshutdown指定してください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.2.16	Ver.10.2.20以降
8	DynDNS	B	NetMeisterが無効でUTMログ分析を有効にした状態で5分以上経過したのちにNetMeisterを有効にしても、送信されるはずのUTMログ分析が送信されない問題を修正しました。 <回避策> 先にNetMeisterを有効にしてからUTMログ分析を有効にしてください。	Ver.10.2.16	Ver.10.2.20以降
1	OpenFlow	B	OpenFlowを使用した場合に、フローエントリにDSCPを設定しても正しくマッチしない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.2.16以降
2	USB	B	ネットワークモニタによるUSB端末へのデバイスリセットを繰り返しているが端末認識ができなくなる問題がある問題を修正しました。<回避策>回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.9.0.14～Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
3	NAT	B	FTPクライアントからアクティブモードでFTP実行後にNAPTのキャッシュが消えず、ポート21のエントリがTime 0で残ったままとなることがある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
4	Tunnel	B	MAP-E利用中、MAPルール取得ごとにNAPTキャッシュがクリアされる問題を修正しました。 <回避策> MAP-E利用中、3時間～24時間に1度の頻度で発生しますが、通信への影響はありません。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
5	NetMon	B	ネットワークモニタにおいて、複数のshutdown-route実行中に複数のresume-routeを実行した場合、resume-routeのactionが復旧しないことがある問題を修正しました。 <回避策> 一つの経路に対して以下の様なアクション指定を行わないでください。 (1)複数のshutdown-route (2)複数のresume-route	Ver.10.1.16以前	Ver.10.2.16以降



6	MP-BGP	B	BGPにおいて、ネクストホップへの経路があっても、その経路が有効でない場合にBGPの経路が消えない場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.2.16以降
7	Tunnel	B	MAP-E動作中にBRアドレスの変更があった場合、通信不可となる可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 実際の運用中にBRアドレスが変更されたことがないため、問題が発生することはありません。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
8	Tunnel	B	特定のMAP-Eルールを取得すると正しいCEアドレスが割り当てられず、通信不可となる可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 現在問題が発生するマップルールは配信されていないため、実際の運用では問題は発生しません。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
9	Tunnel	B	MAP-E以外のトンネルインタフェースでコンフィグ変更を行うと、MAP-Eトンネルが停止状態となることがある問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時には、clear map-e statusコマンドで復旧します。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
10	OSPFv2	B	OSPFv2において、デッドタイム値が再送間隔の2倍以下となり、さらに接続Neighbor同士が送信するDDパケットのシーケンス番号が同じ場合にネイバ隣接関係が成立しないことがある問題を修正しました。 <回避策> 再送タイム値をデッドタイム値の2倍より大きい値に設定してください。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.2.16以降
11	NGN	B	NetMeisterのURLオフロード連携にて、特定の操作時にオフロードDBが空となる可能性がある問題を修正しました。 <回避策> nm updateコマンドと url-offload updateコマンドを1分程度時間を空けてから実行してください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
12	UTM	C	UTMが無効の状態、WebコンソールのUTMの詳細設定ページ内にある「脅威レポートの通知設定」の設定が表示されない場合がある問題を修正しました。 <回避策> UTMを有効にしてから脅威レポートの通知設定」の設定を行ってください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
13	UTM	C	Webコンソールのホワイトリスト設定でポート指定をした際にハイフン(-)を2つ以上入れてもエラーにならない問題を修正しました。 <回避策> ポート指定を正しく設定してください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
14	NGN	B	NGN網で、outgoing-interfaceを使用するとトンネルの複数対地接続ができない問題を修正しました。 <回避策> Tunnelインタフェースのインタフェースポリシーにikev2 outgoing-interfaceコマンドを設定しないでください。	Ver.9.5.11～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
15	UTM	B	UTM有効時に、UTM対象外のフラグメントパケットの通信が失敗することがある問題を修正しました。 <回避策> UTMパケットが通る送受信インタフェースにおいて以下のどちらかを設定してください。 ・NAPT(ip napt enable) ・IPフィルタ及び強制リアセンブル(ip filter forced-reassembly)	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
16	DynDNS	B	NetMeisterを使用したIPv4/IPv6混在環境で、「装置概要」のIPアドレスがIPv6アドレスにならないことがある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
17	DHCPv4	B	DHCPサーバプロファイル設定の任意IPアドレスオプションコマンドにIPアドレスを64個設定するとオプション長が255を超えてしまう場合がある問題を修正しました。 <回避策> DHCPサーバプロファイルの任意IPアドレスオプションコマンドのIPアドレスを63個以下で設定してください。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.2.16以降
18	PPPoE	C	PPPoEサーバ機能が無効化されているインタフェースでPPPoE接続要求を受信すると、PPOE.043のイベントログが出力される問題を修正しました。 <回避策> 誤ってイベントログが出力されますが、実際の運用には影響はありません。	Ver.9.7.15～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
19	Dialer	B	dialer restraintコマンドでコマンドの中断・ヘルプの表示、入力エラー発生、同一設定の上書きなどを行うとメモリ枯渇が発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> メモリ枯渇はコマンド設定時に64byte発生するのみなので、実際の運用で問題となることはありません。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.2.16以降
20	ACL	B	show ip access-listコマンドで特定のアクセスリストのエントリを--More--で表示停止中に、別コンソールからshow running-configコマンドもしくはshow ip access-listコマンドを実行し、その後にnoコマンドで該当のエントリを削除された場合、その後に--More--で停止している表示を続行するとリポートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.2.16以降
21	Gateway	C	以下のコマンドは設定時に要再起動メッセージが表示されますが、check configurationコマンドでは要再起動とならない問題を修正しました。 ・receive-buffers <回避策> コマンド設定時には要再起動メッセージが表示されるので、その指示に従い、装置を再起動してください。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.2.16以降
22	WebUI	C	WebコンソールでのNetMeister グループパスワードの入力可能文字が拡張されていない問題を修正しました。Ver.10.0では、『A-Za-z0-9_』のみであり、Ver.10.1では、『?』以外のASCII文字まで拡張予定でしたが、実際にはVer.10.1でも拡張されておらず『A-Za-z0-9_』のみ使用可能となっていました。 <回避策> NetMeister グループパスワードには『A-Za-z0-9_』を使用してください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
23	WebUI	C	コンソールから設定を行った後、Webコンソールから設定でDHCPの変更を行った際にDHCPのプロファイル名が追従できず、正しくDHCPプロファイルの設定が行えないことがある問題を修正しました。 <回避策> DHCPプロファイルの設定変更時には、コンソールからのCLI設定、もしくはWebコンソールの詳細設定を使用してください。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.2.16以降

24 UTM	B	utm license keyが未登録の状態です。utm enableコマンドを設定し、write memory後に装置の再起動を行うと、utm enableコマンドの設定が行われない場合があります。 <回避策> utm license keyの登録を行ってください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
--------	---	--	-----------------------------	---------------

■Ver.10.1ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	IPv6	C	NDプロキシ動作時にclear interfaceコマンドなどにより上位ルータの情報削除後に再度上位ルータからRAを受信した場合、show ipv6 interfaceコマンドで表示されるAddress auto configurationのuptimeカウンタがクリアされないことがある問題を修正しました。 <回避策> show ipv6 interfaceコマンドでの表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.0.14～ Ver.10.1.20	Ver.10.1.22以降
2	WebGUI	B	http-server usernameコマンドでユーザ名を16文字で設定を行っても15文字目までしかコンフィグに反映されていない問題を修正しました。 <回避策> ユーザ名を15文字以内で設定してください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.1.20	Ver.10.1.22以降
3	DMVPN	B	同一の対地に対してダイナミックVPNによる連続した接続を行うとリポートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> ダイナミックVPNによる同一対地への接続を約13万回ほど連続して行うと問題が発生する可能性があります、通常の運用で問題が発生することはほとんどありません。	Ver.9.2.20～ Ver.10.1.20	Ver.10.1.22以降
4	IPv6	B	IPv6でRA受信によってアドレスを設定する場合、近隣探索(ND)で不正なオプションが含まれるメッセージを受信するとリポートする場合があります問題を修正しました。 IPv6を利用していない場合には影響を受けません。 DHCPv6-PDでのアドレス設定使用時には影響を受けません。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.1.20以前	Ver.10.1.22以降
5	NetNon	B	ネットワークモニタのactionにSW-HUBデバイスのshutdownを指定しても、event発生時にSW-HUBデバイスがshutdownされない問題を修正しました。 <回避策> ネットワークモニタのactionには、SW-HUBのポートをshutdown指定してください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.1.20	Ver.10.1.22以降
1	OpenFlow	B	OpenFlowを使用した場合に、フローエントリにDSCPを設定しても正しくマッチしない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.1.20以降
2	USB	B	ネットワークモニタによるUSB端末へのデバイスリセットを繰り返していると端末認識ができなくなる可能性がある問題を修正しました。<回避策>回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.9.0.14～Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
3	NAT	B	FTPクライアントからアクティブモードでFTP実行後にNAPTのキャッシュが消えず、ポート21のエントリがTime 0で残ったままとなることがある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
4	Tunnel	B	MAP-E利用中、MAPルール取得ごとにNAPTキャッシュがクリアされる問題を修正しました。 <回避策> MAP-E利用中、3時間～24時間に1度の頻度で発生しますが、通信への影響はありません。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
5	NetMon	B	ネットワークモニタにおいて、複数のshutdown-route実行中に複数のresume-routeを実行した場合、resume-routeのactionが復旧しないことがある問題を修正しました。 <回避策> 一つの経路に対して以下の様なアクション指定を行わないでください。 (1)複数のshutdown-route (2)複数のresume-route	Ver.10.1.16以前	Ver.10.1.20以降
6	MP-BGP	B	BGPにおいて、ネクストホップへの経路があっても、その経路が有効でない場合にBGPの経路が消えない場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.1.20以降
7	Tunnel	B	MAP-E動作中にBRアドレスの変更があった場合、通信不可となる可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 実際の運用中にBRアドレスが変更されることがないため、問題が発生することはありません。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
8	Tunnel	B	特定のMAP-Eルールを取得すると正しいCEアドレスが割り当てられず、通信不可となる可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 現在問題が発生するマップルールは配信されていないため、実際の運用では問題は発生しません。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
9	Tunnel	B	MAP-E以外のトンネルインタフェースでコンフィグ変更を行うと、MAP-Eトンネルが停止状態となる可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時には、clear map-e statusコマンドで復旧します。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
10	OSPFv2	B	OSPFv2において、デッドタイム値が再送間隔の2倍以下となり、さらに接続Neighbor同士が送信するDDパケットのシーケンス番号が同じ場合にネイバ隣接関係が成立しないことがある問題を修正しました。 <回避策> 再送タイム値をデッドタイム値の2倍より大きい値に設定してください。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.1.20以降
11	NGN	B	NetMeisterのURLオフロード連携にて、特定の操作時にオフロードDBが空となる可能性がある問題を修正しました。 <回避策> nm updateコマンドと url-offload updateコマンドを1分程度時間を空けてから実行してください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
12	UTM	C	UTMが無効の状態、WebコンソールのUTMの詳細設定ページ内にある「脅威レポートの通知設定」の設定が表示されない場合がある問題を修正しました。 <回避策> UTMを有効にしてから脅威レポートの通知設定」の設定を行ってください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
13	UTM	C	Webコンソールのホワイトリスト設定でポート指定をした際にハイフン(-)を2つ以上入れてもエラーにならない問題を修正しました。 <回避策> ポート指定を正しく設定してください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降

14	NGN	B	<p>NGN網で、outgoing-interfaceを使用するとトンネルの複数対地接続ができない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; Tunnelインタフェースのインタフェースポリシーに ikev2 outgoing-interfaceコマンドを設定しないでください。</p>	Ver.9.5.11～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
15	UTM	B	<p>UTM有効時に、UTM対象外のフラグメントパケットの通信が失敗することがある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; UTMパケットが通る送受信インタフェースにおいて以下のどちらかを設定してください。 ・NAPT(ip napt enable) ・IPフィルタ及び強制リアセンブル(ip filter forced-reassembly)</p>	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
16	DHCPv4	B	<p>DHCPサーバプロファイル設定の任意IPアドレスオプションコマンドにIPアドレスを64個設定するとオプション長が255を超えてしまう場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; DHCPサーバプロファイルの任意IPアドレスオプションコマンドのIPアドレスを63個以下で設定してください。</p>	Ver.10.1.16以前	Ver.10.1.20以降
17	PPPoE	C	<p>PPPoEサーバ機能が無効化されているインタフェースでPPPoE接続要求を受信すると、PPOE.043のイベントログが出力される問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 誤ってイベントログが出力されますが、実際の運用には影響はありません。</p>	Ver.9.7.15～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
18	ACL	B	<p>show ip access-listコマンドで特定のアクセスリストのエントリを--More--で表示停止中に、別コンソールからshow running-configコマンドもしくはshow ip access-listコマンドを実行し、その後にnoコマンドで該当のエントリを削除された場合、その後に--More--で停止している表示を続行するとリポートする可能性がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.1.16以前	Ver.10.1.20以降
19	WebUI	C	<p>WebUIからDHCPプロファイルの設定を行った後、WebUIからDHCPプロファイルの設定を変更するとDHCPプロファイル名が追従できず、正しくDHCPプロファイルの設定が行えないことがある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; DHCPプロファイルの設定変更時には、コンソールからのCLI設定、もしくはWebUIの詳細設定を使用してください。</p>	Ver.10.1.16以前	Ver.10.1.20以降
20	UTM	B	<p>utm license keyが未登録の状態でもutm enableコマンドを設定しwrite memory後に装置の再起動を行うと、utm enableコマンドの設定が行われない場合がある</p> <p>&lt;回避策&gt; utm license keyの登録を行ってください。</p>	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
1	SNMP	B	<p>ネットワークモニタMIBを複数のSNMPマネージャーから同時に取得した場合に、誤った値を返すことがある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; ネットワークモニタMIBに対して複数のSNMPマネージャーから同時に取得を行わないでください。</p>	Ver.10.1.15以前	Ver.10.1.16以降
2	NAT	B	<p>NAPT機能において、2個以上のグローバルIPアドレスを設定し、それぞれに対応するプライベートIPアドレス空間が重複している場合に、装置が再起動する場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 異なるグローバルアドレスに同じプライベートアドレス空間が含まれないように設定してください。</p>	Ver.10.1.15以前	Ver.10.1.16以降
1	DynDNS	A	<p>NetMeisterで子機を接続した場合に正常に動作しない場合がある問題を修正しました。NetMeisterでSA3500G, NA1500A, Aspire WX、および今後リリースされる子機を利用する場合は必ずバージョンアップしてください。</p> <p>&lt;回避策&gt; NetMeisterで子機を接続した環境で正常動作しない場合があります。ソフトウェアを10.1.15以降にバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.1.14	Ver.10.1.15以降
1	Gateway	C	<p>以下のインターフェースモードでの機能有効化コマンドが、デバイスコンフィグモードでも設定できてしまう問題を修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・http-server</li> <li>・proxy-dns</li> <li>・ssh-server</li> <li>・telnet-server</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt; 該当するコマンドはインターフェースモードで設定してください。</p>	Ver.9.6.12～ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
2	URL-Offload	B	<p>URLオフロードプロファイル名が大文字の場合、route-mapで指定できない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; URLオフロードプロファイル名には大文字を使用しないでください。</p>	Ver.9.4.15～ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
3	URL-Offload	B	<p>以下のコマンド設定時、show running-configに反映するまで数分要する場合がある問題を修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・no url</li> <li>・no proxy-config pac-file</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt; コマンド設定後、5分程度待つことでshow running-configに反映されます。</p>	Ver.9.6.12～ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
4	VRF	B	<p>IKEv2/IPsecトンネル上でVRF機能を使用する環境において、IPsecトンネルのMTUを超えるDFビット付きパケットを転送した場合に、ICMPエラー(fragmentation needed)が送信元に送信されない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。また、IKEv1/IPsecトンネルでは問題は発生しません。</p>	Ver.9.5.11～ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
5	Gateway	C	<p>メモリ枯渇発生時のshow memoryコマンドの表示が、異常値となる場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; show memoryコマンドの表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。</p>	Ver.10.0.15以前	Ver.10.1.14以降
6	DNS	B	<p>NTTフレッツ光ネクストIPv6閉域網かつNetMeister環境で、IPv6アドレス変更時にFQDNのアドレスが更新されない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.0.14～ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降

7	IPsec	B	logging subsystem sec debugコマンド設定時にIPsec通信を行うと、再起動する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> logging subsystem secコマンドのイベントログレベルをinfo~errorで設定してください。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.1.14以降
8	IKEv2	B	IKEv2で利用しているグローバルIPv6アドレスが複数ある環境で、自装置のIPv6アドレスに削除(変更)が発生すると、その後のIPsec通信が不可となる場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.9.0.14~ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
9	Gateway	B	NetMeisterのファームウェア更新と、ローカルコンソール、TelnetまたはSSHからのsoftware-updateコマンドによるバージョンアップが同時に実行されると、再起動する場合がある問題を修正しました。 <回避策> NetMeisterのファームウェア更新と、Telnet/コンソールからのsoftware-updateコマンドによるバージョンアップを同時に行わないでください。	Ver.10.0.14~ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
10	WevUI	B	WebコンソールでL2TP接続の設定をした場合、GigaEthernet0.1インタフェースに設定すべきNAPTの設定がGigaEthernet0.0インタフェースに設定され、L2TPによる接続が行えない問題を修正しました。 <回避策> Webコンソールの任意コマンドの実行やコンソールからGigaEthernet0.1インタフェースにNAPTを追加設定してください。	Ver.9.3.11~ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
11	Gateway	B	terminal timeStampコマンドが設定されている場合、Webコンソールの表示の一部およびNetMeister上での一部の情報表示に失敗する問題を修正しました。 <回避策> terminal timeStampコマンドの設定は行わないでください。	Ver.9.2.20~ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
12	DNS	C	以下のDDNSのイベントログで、誤ったIPv4アドレス、IPv6アドレスが表示される問題を修正しました。 ・DDNS_16 ・DDNS_17 <回避策> イベントログの問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.7.15~ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
13	NAT	B	NATを有効(ip nat enable)にしていない場合でも、静的NATの設定が動作する場合がある問題を修正しました。 <回避策> NAT無効化時には、NATに関する設定をすべて削除してください。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.1.14以降
14	IKEv2	C	IKEv2使用時に、COOKIE送信のイベントログ(IKE2.095)のIPv4アドレスがIPv6アドレスとして表示される問題を修正しました。 <回避策> イベントログの問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.1.14以降
15	IKEv2	B	IKEv2において、不正なSA_INITを受信した場合、COOKIE制御用内部カウンタ値が異常となる問題を修正しました。その後正しいSA_INITを受信した場合は、正常に動作します。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.1.14以降
16	TrafficFilter	B	noコマンドでダイナミックフィルタのコンフィグが削除できない場合がある問題を修正しました。 <回避策> ダイナミックフィルタのコンフィグをnoコマンドにより削除するときにはオプションを未指定にして削除してください。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.1.14以降
17	IPv4	B	特定の条件を満たすパケットを受信したときに、再起動する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.1.14以降
18	UTM	B	UTMライセンス切れ警告が発生した後に、UTM脅威検出イベントが発生した場合、ALM LEDが点滅しない問題を修正しました。 <回避策> ALM LEDは点滅しませんが、運用には問題はありません。	Ver.10.0.14~ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
19	UTM	C	UTMライセンス延長処理のエラー表示での誤記を修正しました。 誤) Continue on background process 正) Continue on background process <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.0.14~ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
20	UTM	C	show utm statistics/statusコマンドで表示されるURL-Filter latest detectedの項目名に誤りがある問題を修正しました。 誤) uid 正) gid <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.0.14~ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
21	Gateway	B	UTM動作中にメモリ枯渇が発生すると、再起動する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.0.14~ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
22	UTM	B	UTMコマンド設定時あるいはUTM機能使用時にshow running-configコマンドを実行すると、32byteのメモリ枯渇が発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> メモリ枯渇が32byteと少ないため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.0.14~ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
23	UTM	B	特定のURLに、UTMを通して接続できない場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.0.14~ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
24	UTM	B	コンソールによる設定時に、utm url-filterモードにて設定するignore url コマンドの、URL内に"&"の文字があると再起動する問題を修正しました。 <回避策> Webコンソールから設定を行ってください。	Ver.10.0.14~ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
25	UTM	B	UTMのIPSによって特定の脅威パケットを検出した際に、192byteのメモリ枯渇が発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.0.14~ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降

26 UTM	B	)特定のDoS攻撃パケットを受信すると、UTMが停止してしまう場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.0.14~ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
27 USB	B	USB通信端末GL03Dが使用できない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.9.7.15~ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降

■Ver.10.0 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	SNMP	B	ネットワークモニタMIBを複数のSNMPマネージャーから同時に取得した場合に、誤った値を返すことがある問題を修正しました。 <回避策> ネットワークモニタMIBに対して複数のSNMPマネージャーから同時に取得を行わないでください。	Ver.10.0.17以前	Ver.10.0.18以降
2	NAT	B	NAPT機能において、2以上のグローバルIPアドレスを設定し、それぞれに対応するプライベートIPアドレス空間が重複している場合に、装置が再起動する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 異なるグローバルアドレスに同じプライベートアドレス空間が含まれないように設定してください。	Ver.10.0.17以前	Ver.10.0.18以降
1	Gateway	C	以下のインターフェースモードでの機能有効化コマンドが、デバイスコンフィグモードでも設定できてしまう問題を修正しました。 ・ http-server ・ proxy-dns ・ ssh-server ・ telnet-server <回避策> 該当するコマンドはインターフェースモードで設定してください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
2	Gateway	C	メモリ枯渇発生時のshow memoryコマンドの表示が、異常値となる場合がある問題を修正しました。 <回避策> show memoryコマンドの表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.0.17以降
3	DNS	B	NTTフレッツ光ネクストIPv6閉域網かつNetMeister環境で、IPv6アドレス変更時にFQDNのアドレスが更新されない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.0.14～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
4	IPsec	B	logging subsystem sec debugコマンド設定時にIPsec通信を行うと、再起動する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> logging subsystem secコマンドのイベントログレベルをinfo～errorで設定してください。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.0.17以降
5	IKEv2	B	IKEv2で利用しているグローバルIPv6アドレスが複数ある環境で、自装置のIPv6アドレスに削除(変更)が発生すると、その後のIPsec通信が不可となる場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.9.0.14～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
6	Gateway	B	NetMeisterのファームウェア更新と、ローカルコンソール、TelnetまたはSSHからのsoftware-updateコマンドによるバージョンアップが同時に実行されると、再起動する場合がある問題を修正しました。 <回避策> NetMeisterのファームウェア更新と、Telnet/コンソールからのsoftware-updateコマンドによるバージョンアップを同時に行わないでください。	Ver.10.0.14～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
7	DNS	C	以下のDDNSのイベントログで、誤ったIPv4アドレス、IPv6アドレスが表示される問題を修正しました。 ・ DDNS_16 ・ DDNS_17 <回避策> イベントログの問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.7.15～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
8	NAT	B	NATを有効(ip nat enable)にしていない場合でも、静的NATの設定が動作する場合がある問題を修正しました。 <回避策> NAT無効化時には、NATに関する設定をすべて削除してください。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.0.17以降
9	IKEv2	C	IKEv2使用時に、COOKIE送信のイベントログ(IKE2.095)のIPv4アドレスがIPv6アドレスとして表示される問題を修正しました。 <回避策> イベントログの問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.0.17以降
10	IKEv2	B	IKEv2において、不正なSA_INITを受信した場合、COOKIE制御用内部カウンタ値が異常となる問題を修正しました。その後正しいSA_INITを受信した場合は、正常に動作します。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.0.17以降
11	TrafficFilter	B	noコマンドでダイナミックフィルタのコンフィグが削除できない場合がある問題を修正しました。 <回避策> ダイナミックフィルタのコンフィグをnoコマンドにより削除するときにはオプションを未指定にして削除してください。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.0.17以降
12	IPv4	B	特定の条件を満たすパケットを受信したときに、再起動する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.0.17以降
13	UTM	B	UTMライセンス切れ警告が発生した後に、UTM脅威検出イベントが発生した場合、ALM LEDが点滅しない問題を修正しました。 <回避策> ALM LEDは点滅しませんが、運用には問題はありません。	Ver.10.0.14～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
14	UTM	C	UTMライセンス延長処理のエラー表示での誤記を修正しました。 誤) Continue on background process 正) Continue on background process <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.0.14～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
15	UTM	C	show utm statistics/statusコマンドで表示されるURL-Filter latest detectedの項目名に誤りがある問題を修正しました。 誤) uid 正) gid <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.0.14～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降

16	Getway	B	<p>)UTM動作中にメモリ枯渇が発生すると、再起動する場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.0.14～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
17	UTM	B	<p>UTMコマンド設定時あるいはUTM機能使用時にshow running-configコマンドを実行すると、32byteのメモリ枯渇が発生する場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; メモリ枯渇が32byteと少ないため、通常の運用には問題ありません。</p>	Ver.10.0.14～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
18	UTM	B	<p>特定のURLに、UTMを通して接続できない場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.0.14～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
19	UTM	B	<p>コンソールによる設定時に、utm url-filterモードにて設定するignore url コマンドの、URL内に"&amp;"の文字があると再起動する問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; Webコンソールから設定を行ってください。</p>	Ver.10.0.14～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
20	UTM	B	<p>UTMのIPSによって特定の脅威パケットを検出した際に、192byteのメモリ枯渇が発生する場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.0.14～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
21	UTM	B	<p>特定のDoS攻撃パケットを受信すると、UTMが停止してしまう場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.0.14～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
22	USB	B	<p>USB通信端末GL03Dが使用できない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.9.7.15～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
1	NAT	B	<p>WAN側インタフェースにヘアピンNAT設定時、DFbit onかつWANインタフェースのMTUを超えるパケットを送信した場合、ヘアピンNATが正常に動作しない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 以下のいずれかを実施することで回避可能となります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>DFbitをoffにする。</li> <li>LAN側でMSS調整する。 (LAN側MSS) = (WAN側MTU) - 40</li> </ol>	Ver.9.3.11～ Ver.10.0.14	Ver.10.0.15以降
2	UTM	B	<p>UTMの個別許可設定を複数設定すると、正常に判定されず装置がリポートする場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; UTMの個別許可設定を複数設定しないでください。</p>	Ver.10.0.14	Ver.10.0.15以降
3	UTM	B	<p>UTM使用時に特定のデータが含まれるメールを受信すると、装置がリポートする場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 特定のデータが含まれるメールの受信のみ発生する問題のため、発生頻度は低く、通常の運用で問題になることはほとんどありません。</p>	Ver.10.0.14	Ver.10.0.15以降
4	UTM	B	<p>UTM使用時にTCPの再送パケットをUTMで破棄する場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.10.0.14	Ver.10.0.15以降
1	AAA	B	<p>(1) リンクマネージャ機能の以下のコマンドにおいて、 &lt;desc-ascii/desc-base64&gt; &lt;説明文&gt;を省略して入力するとコマンドエラーとなる場合がある問題を修正しました。terminal &lt;MACアドレス&gt; &lt;permit/deny&gt; &lt;desc-ascii/desc-base64&gt; &lt;説明文&gt;</p> <p>&lt;回避策&gt; &lt;desc-ascii/desc-base64&gt; &lt;説明文&gt;を省略せずに入力してください。</p>	Ver.9.7.54以前	Ver.10.0.14以降
2	IRB	B	<p>telnetとコンソールによる同時ログイン時に以下の操作を行うとリポートが発生する可能性がある問題を修正しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>telnetでログインし、show bridgeコマンド実行後表示を--More--で停止させたままとする。</li> <li>コンソールでログインし、設定される全てのブリッジグループを削除する。</li> <li>telnet側で--More--で停止していた表示を再開する。</li> </ol> <p>以上の問題はtelnetとコンソールによる操作が逆の場合にも発生する可能性があります。</p> <p>&lt;回避策&gt; telnetとコンソールによるログイン時にはshow bridgeコマンドとブリッジグループの削除を同時に行わないでください。</p>	Ver.9.7.54以前	Ver.10.0.14以降
3	BRS	B	<p>大量のclassを登録したpolicy-mapのコンフィグ表示中に表示を中断させると、その後15秒程度コンソールが操作できなくなる問題を修正しました。&lt;回避策&gt;数十秒待つことで操作が可能になります。</p>	Ver.9.4.15～Ver.9.7.54	Ver.10.0.14以降
4	DMVPN	B	<p>ダイナミックVPN使用時に、回線の障害が発生すると設定されたnhrip nhsのコンフィグが消えてしまう場合がある問題を修正しました。&lt;回避策&gt;BGP keepaliveやIKE DPDの間隔を短くし、経路変更を検出しやすくしてください。また、ハブ自身の経路がダイナミックVPNトンネル内外間で切り替わるようなネットワーク構成にはしないでください。</p>	Ver.9.2.20～Ver.9.7.54	Ver.10.0.14以降
5	Gateway	B	<p>サブインタフェース一括設定(interface rangeコマンド)でencapsulation pppoe / encapsulation dot1qを2回以上設定すると、装置再起動後にshow running-configで表示されるencapsulationの設定が複数表示される問題を修正しました。&lt;回避策&gt;サブインタフェース一括設定にて、encapsulation設定を複数設定しないでください。</p>	Ver.9.7.15～Ver.9.7.54	Ver.10.0.14以降
6	VLAN	B	<p>タグVLANのインタフェースによる通信後、そのインタフェースのVLAN IDを変更しても変更前のVLAN IDでパケットが送信される問題を修正しました。&lt;回避策&gt;タグVLANのインタフェースによる通信後にVLAN IDを変更した場合には、該当インタフェースで以下のいずれかのコマンドを実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>interface shutdown/no shutdown</li> <li>clear interface</li> <li>reset interface</li> <li>no interface</li> </ul>	Ver.9.7.55以前	Ver.10.0.14以降
7	IKEv2	B	<p>以下の全て条件を満たす環境で、IKEv2でSAが作成されない場合がある問題を修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>接続先がany設定</li> <li>outgoing-interfaceを設定</li> <li>Nexthopをアドレス指定</li> <li>lowerがIPv4/IPv6が混在する環境&lt;回避策&gt;Nexthop指定にautoを使用してください。</li> </ul>	Ver.9.7.54以前	Ver.10.0.14以降



8	ELS	C	<p>イベントログ NMC.019、023の誤記を修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NMC.019</li> </ul> <p>正：NMC.019 Communication failure 誤：NMC.019 Communication failure</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NMC.023</li> </ul> <p>正：NMC.023 Verify cert signature failure 誤：NMC.023 Verify cert signature failure&lt;回避策&gt;イベントログの誤記問題のため、通常の運用には問題ありません。</p>	Ver9.7.15～Ver.9.7.54	Ver.10.0.14以降
9	MP-BGP	B	<p>BGPで経路変更回数が32ビット整数で一周するとリポートが発生する可能性がある問題を修正しました。</p> <p>本問題は過去全てのバージョンで発生します。&lt;回避策&gt;通常運用時にBGPで32ビット整数が一周するほどの経路変更が発生することはないため、問題となることはほぼありません。</p>	Ver.9.7.54以前	Ver.10.0.14以降
10	DMVPN	B	<p>nhrp localコマンドを投入すると、不正なメモリアクセスが発生する可能性のある問題を修正しました。&lt;回避策&gt;机上で確認されたコード上の問題の修正となります。実際に問題が発生することはありません。</p>	Ver9.2.20～Ver.9.7.54	Ver.10.0.14以降
11	MP-BGP	C	<p>BGP接続でコリジョン(passive/active双方の同時接続)が発生するとBGP接続のダウンが数回発生しているにもかかわらず、ピアとの接続時間が装置のuptimeと同じ時間になってしまうことがある問題を修正しました。&lt;回避策&gt;ピアグループを使用し、双方どちらかからのみBGP接続を開始してください。また接続時間表示の問題のため、通常の運用には影響はありません。</p>	Ver.9.7.54以前	Ver.10.0.14以降
12	WebUI	C	<p>WebコンソールにおけるNetMeisterの設定ページにある誤記を修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NetMeisterの設定反映時のwait用ページのタイトル</li> </ul> <p>正：NetMeisterの設定 誤：URLフィルターの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NetMeisterの設定入力表</li> </ul> <p>正：グループパスワード 誤：装置更新パスワード&lt;回避策&gt;Webコンソールにおける誤記のため、通常の運用には影響はありません。</p>	Ver9.7.15～Ver.9.7.54	Ver.10.0.14以降
13	ACL	B	<p>アクセスリストコマンドと高速化オプションコマンドの削除を同時に行くと、リポートする可能性がある問題を修正しました。&lt;回避策&gt;高速化オプションコマンドを先に削除してからアクセスリストコマンドの削除を行ってください。</p>	Ver9.6.12～Ver.9.7.54	Ver.10.0.14以降
14	DynDNS	C	<p>NetMeisterのDDNSリクエスト時に接続に失敗時に出力されるイベントログ(NMC.005)が正しく表示されない場合がある問題を修正しました。&lt;回避策&gt;イベントログ表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。</p>	Ver9.7.15～Ver.9.7.54	Ver.10.0.14以降
15	DynDNS	C	<p>show nm informationコマンドの表示でNext Requestの残り時間が不正となる場合がある問題を修正しました。発生します。&lt;回避策&gt;showコマンドの表示問題のため、通常の運用には問題ありません。</p>	Ver9.7.15～Ver.9.7.54	Ver.10.0.14以降
16	Ethernet	B	<p>SW-HUBインタフェースでの高トラフィックによる通信時に、SW-HUBインタフェースのポートで繰り返し10M Full/10M Halfの切り替えを行うとそのポートからの送信が停止する可能性がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; 通信中に10M Full/10M Halfの切り替えを行わないでください。問題発生時には該当ポートのケーブル抜き差し、速度変更、shutdown/no shutdownを行うことで通信が復旧します。</p>	Ver.9.7.54以前	Ver.10.0.14以降
17	Ethernet	B	<p>SW-HUBインタフェースで10M Halfに設定したポートでの高トラフィックによる通信中に、そのポートでshutdown/no shutdownを繰り返し行うとリポートが発生する可能性がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt; SW-HUBインタフェースを10M Halfで使用する場合には、通信中にポートのshutdown/no shutdownを行わないでください。</p>	Ver.9.7.54以前	Ver.10.0.14以降

■Ver.9.7ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	AAA	B	リンクマネージャ機能の以下のコマンドにおいて<desc-ascii/desc-base64> <説明文>を省略して入力するとコマンドエラーとなる場合がある問題を修正しました。terminal <MACアドレス> <permit/deny> <desc-ascii/desc-base64> <説明文><回避策><desc-ascii/desc-base64> <説明文>を省略せずに入力してください。	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
2	IRB	B	telnetとコンソールによる同時ログイン時に以下の操作を行うとリポートが発生する可能性がある問題を修正しました。 1. telnetでログインし、show bridgeコマンド実行後表示を--More--で停止させたままとする。 2. コンソールでログインし、設定される全てのブリッジグループを削除する。 3. telnet側で--More--で停止していた表示を再開する。 以上の問題はtelnetとコンソールによる操作が逆の場合にも発生する可能性があります。<回避策>telnetとコンソールによるログイン時にはshow bridgeコマンドとブリッジグループの削除を同時に行わないでください	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
3	BRS	B	大量のclassを登録したpolicy-mapのコンフィグ表示中に表示を中断させると、その後15秒程度コンソールが操作できなくなる問題を修正しました。 本問題は過去全てのバージョンで発生します。 <回避策> 数十秒待つことで操作が可能になります。	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
4	DMVPN	B	ダイナミックVPN使用時に、回線の障害が発生すると設定されたnhrp nhsのコンフィグが消えてしまう場合がある問題を修正しました。<回避策>BGP keepaliveやIKE DPDの間隔を短くし、経路変更を検出しやすくしてください。また、ハブ自身の経路がダイナミックVPNトンネル内外間で切り替わるようなネットワーク構成にはしないでください。	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
5	Gateway	B	サブインタフェース一括設定(interface rangeコマンド)でencapsulation pppoe / encapsulation dot1qを2回以上設定すると、装置再起動後にshow running-configで表示されるencapsulationの設定が複数表示される問題を修正しました。<回避策>サブインタフェース一括設定にて、encapsulation設定を複数設定しないでください。	Ver.9.7.15～Ver.9.7.54	Ver.9.7.55以降
6	VLAN	B	タグVLANのインタフェースによる通信後、そのインタフェースのVLAN IDを変更しても変更前のVLAN IDでパケットが送信される問題を修正しました。<回避策>タグVLANのインタフェースによる通信後にVLAN IDを変更した場合には、該当インタフェースで以下のいずれかのコマンドを実行してください。 ・interface shutdown/no shutdown ・clear interface ・reset interface	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
7	IKEv2	B	以下の全て条件を満たす環境で、IKEv2でSAが作成されない場合がある問題を修正しました。 ・接続先がany設定 ・outgoing-interfaceを設定 ・Nexthopをアドレス指定 ・lowerがIPv4/IPv6が混在する環境<回避策>Nexthop指定にautoを使用してください。	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
8	IKEv2	C	イベントログ NMC.019、023の誤記を修正しました。 ・ NMC.019 正：NMC.019 Communication failure 誤：NMC.019 Communication failure ・ NMC.023 正：NMC.023 Verify cert signature failure 誤：NMC.023 Verify cert signature failure<回避策>イベントログの誤記問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.7.15～Ver.9.7.54	Ver.9.7.55以降
9	MP-BGP	B	BGPで経路変更回数が32ビット整数で一周するとリポートが発生する場合がある問題を修正しました。<回避策>通常運用時にBGPで32ビット整数が一周するほどの経路変更が発生することはないので、問題となることはほぼありません。	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
10	DMVPN	B	nhrp localコマンドを投入すると、不正なメモリアクセスが発生する可能性のある問題を修正しました。<回避策>机上で確認されたコード上の問題の修正となります。実際に問題が発生することはありません。	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
11	MP-BGP	C	BGP接続でコリジョン(passive/active双方の同時接続)が発生するとBGP接続のダウンが数回発生しているにもかかわらず、ピアとの接続時間が装置のuptimeと同じ時間になってしまうことがある問題を修正しました。<回避策>ピアグループを使用し、双方どちらかからのみBGP接続を開始してください。また接続時間表示の問題のため、通常の運用には影響はありません。	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
12	WebUI	C	WebコンソールにおけるNetMeisterの設定ページにある誤記を修正しました。 ・ NetMeisterの設定反映時のwait用ページのタイトル 正：NetMeisterの設定 誤：URLフィルターの設定 ・ NetMeisterの設定入力表 正：グループパスワード 誤：装置更新パスワード<回避策>Webコンソールにおける誤記のため、通常の運用には影響はありません。	Ver.9.7.15～Ver.9.7.54	Ver.9.7.55以降
13	ACL	B	アクセスリストコマンドと高速化オプションコマンドの削除を同時に行くと、リポートする可能性がある問題を修正しました。<回避策>高速化オプションコマンドを先に削除してからアクセスリストコマンドの削除を行ってください。	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
14	DynDNS	C	NetMeisterのDDNSリクエスト時に接続に失敗時に出力されるイベントログ(NMC.005)が正しく表示されない場合がある問題を修正しました。<回避策>イベントログ表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.7.15～Ver.9.7.54	Ver.9.7.55以降
15	DynDNS	C	show nm informationコマンドの表示でNext Requestの残り時間が不正となる場合がある問題を修正しました。<回避策>showコマンドの表示問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.7.15～Ver.9.7.54	Ver.9.7.55以降
16	Ethernet	B	SW-HUBインタフェースでの高トラフィックによる通信時に、SW-HUBインタフェースのポートで繰り返し10M Full/10M Halfの切り替えを行うとそのポートからの送信が停止する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 通信中に10M Full/10M Halfの切り替えを行わないでください。問題発生時には該当ポートのケーブル抜き差し、速度変更、shutdown/no shutdownを行うことで通信が復旧します。	Ver.9.7.15～Ver.9.7.54	Ver.9.7.55以降

17	Ethernet	B	<p>SW-HUBインタフェースで10M Halfに設定したポートでの高トラフィックによる通信中に、そのポートで shutdown/no shutdownを繰り返し行うとリポートが発生する可能性がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>SW-HUBインタフェースを10M Halfで使用する場合には、通信中にポートのshutdown/no shutdownを行わないでください。</p>	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
1	OSPFv2	B	<p>BGPやRIPのサマリルートの廃棄経路を、OSPFの経路で上書きできない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>BGPやRIPとOSPFを併用する場合は、BGPやRIPのサマリルートがOSPFの経路情報で上書きされないような設定にしてください。</p>	Ver.9.7.16以前	Ver.9.7.54以降
2	OSPFv2	B	<p>OSPFでマスク長のみが異なる同一ネットワークが混在する場合、経路が削除されない場合があります。その場合、次回更新時に再配信経路をコスト無限大(16777215)で広告してしまう問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>OSPFでマスク長のみが異なる同一ネットワークを混在させないでください。</p>	Ver.9.5.11～ Ver.9.7.16	Ver.9.7.54以降
3	IKEv2	B	<p>一部の他社ルータとのIKEv2接続において、他社ルータ側からリキーが開始されたときにリポートが発生する可能性がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>IX側からリキーを開始するようにライフタイムの調整を行ってください。</p>	Ver.9.7.16以前	Ver.9.7.54以降
4	DHCPv4	B	<p>DHCPリレー使用時に、DHCPサーバからのofferがDHCPリレー端末にリレーされない場合がある問題を修正しました。</p> <p>本問題は以下のすべての条件に該当する場合に発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DHCPサーバからのDHCPパケットにブロードキャストフラグが設定されていない。</li> <li>・DHCPサーバからクライアントに割り当てようとしているIPアドレスをDHCPリレー端末がARP解決中である。</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>以下のいずれかにより回避可能となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・端末にてブロードキャストフラグを設定する。</li> <li>・DHCPサーバにて、強制的にブロードキャストフラグを設定する。</li> </ul>	Ver.9.6.12～ Ver.9.7.16	Ver.9.7.54以降
5	DynDNS	B	<p>NetMeisterで証明書検証をする毎に100byte程度のメモリリークが発生する問題を修正しました。本問題はnm updateコマンドで通知した場合も発生します。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>本問題の発生頻度は低く、発生しても100byte程度のメモリリークのため、通常の運用に影響はありません。</p>	Ver.9.7.15～ Ver.9.7.16	Ver.9.7.54以降
6	WebUI	B	<p>かんたん設定（IP電話サービス接続）のひかり電話オフィスAでは、FORCERENEWのためのDHCP(udp/68)が通らない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>『任意コマンドの実行』などを使用して、以下のようにスタティックnaptの設定を追加してください。</p> <pre>interface GigaEthernet0.0  ip napt static GigaEthernet0.0 udp 68</pre>	Ver.9.2.20～ Ver.9.7.16	Ver.9.7.54以降
7	RADIUS	B	<p>802.1X認証時、RADIUSサーバからTunnel-Private-Group-IDアトリビュートを含んだRADIUSパケットを受信した場合に数十byte程度のメモリリークが発生する問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>本問題の発生頻度は低く、発生しても数十byte程度のメモリリークのため、通常の運用に影響はありません。</p>	Ver.9.7.16以前	Ver.9.7.54以降
1	Tunnel	A	<p>L2TP-LNS接続が、網障害や端末操作で正常に切断されなかった場合にリポートが発生する可能性のある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。</p>	Ver.9.7.15	Ver.9.7.16以降
1	IPv6	B	<p>Loopback0.0を指定したIPv6スタティックルートが有効にならない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>ネクストホップをLoopback0.0ではなく、::1に設定してください。</p>	Ver.9.6.12以前	Ver.9.7.15以降
2	IPv6	B	<p>IPv6のping6とtraceroute6で、受信することができないアドレスを送信元アドレスとして指定できてしまう問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>送信元アドレスとして自分自身のアドレスを指定してください。</p>	Ver.9.6.12以前	Ver.9.7.15以降
3	IPv6	B	<p>IPv6でカプセル化を行うトンネルで、リンクアップ時にリンクローカルアドレスを送信元アドレスに設定してしまうことがある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>tunnel sourceコマンドにより送信元アドレス指定を行ってください。</p>	Ver.9.6.12以前	Ver.9.7.15以降
4	Gateway	B	<p>IPv6のネットワークモニター機能で、リンクローカルアドレスを隠蔽できない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>ネクストホップアドレスがグローバルアドレスになるようにして利用してください。</p>	Ver.9.6.12以前	Ver.9.7.15以降
5	NAT	B	<p>FTPのPORTコマンドに小文字が含まれていると、NAT/NAPT、ダイナミックフィルタ、IDS機能で正しく判定できない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>通常、FTPのPORT/EPRTコマンドは大文字で通知されていますが、まれに小文字で通信する装置があります。そのような場合にはPASVコマンドを利用してください。</p>	Ver.9.6.12以前	Ver.9.7.15以降
6	VRF	B	<p>VRF-Lite設定時、PPP以外のインタフェースでip address ipcpコマンドが設定できてしまう問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>VRF-Lite設定時には、PPPインタフェース以外では、ip address ipcpコマンドの設定は行わないでください。</p>	Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降
7	MP-BGP	B	<p>BGPにてpeer-group作成後に全体のタイマ(Keepalive/Hold)値の設定を変更しても、動的に生成したNeighborにそのタイマ値が反映されない問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>peer-groupを一旦削除し再設定する、もしくは、peer-groupのタイマーの設定を行ってください。</p>	Ver.9.2.20～ Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降
8	MP-BGP	B	<p>BGPで動的に生成したNeighborのセッション切断時に、エントリが消滅しない場合がある問題を修正しました。</p> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>clear ip bgpコマンドで不要なNeighborを指定して消去してください。</p>	Ver.9.2.20～ Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降

9	DMVPN	B	ダイナミックVPNの冗長構成で、障害からの復旧時に数分間ショートカットルートが作成されない場合がある問題を修正しました。 <回避策> 実際の運用に影響はありません。問題発生時には、ikev2 outgoing-interfaceコマンドの設定を行ってください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降
10	DMVPN	B	センタ側装置で複数のダイナミックVPNを利用しているとき、センタ側で最大接続数を設定しても、その制限が正常に動作しない場合がある問題を修正しました。 ダイナミックVPNを使用している最番のTunnelインタフェースで接続数制限が設定されている場合に、それ以外のダイナミックVPNで発生します。 <回避策> 複数ダイナミックVPNでは、接続数制限を使用しないでください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.7.15以降
11	GRE	B	GREトンネルのMTUが1280以下にならない問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時でも、実際の運用に影響はありません。	Ver.8.9.17～ Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降
12	PPPoE	C	show pppoe status/statisticsコマンドで表示されるretries値が、実際の再送数より多くカウントされる問題を修正しました。 <回避策> show pppoe status/statisticsコマンドでの表示問題のため、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.2.20～ Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降
13	Tunnel	B	L2TP/IPsecで複数の端末から同時に接続要求を受けると、まれに接続に失敗することがある問題を修正しました。 <回避策> 接続失敗時には再度接続を行ってください。	Ver.8.10.11～ Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降
14	Tunnel	B	L2TP/IPsecで特定のタイミングでHelloのSession IDが"0"にならないことがある問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時でも、実際の運用に影響はありません。	Ver.8.10.11～ Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降
15	DynDNS	B	ダイナミックDNS機能でサーバと通信できない時に、ddns updateコマンドを実行すると、64byte未満のメモリリークが発生することがある問題を修正しました。 <回避策> ddns updateコマンドを過度に実行しないでください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.7.15以降
16	DynDNS	B	ddns updateとshow ddnsコマンドの実行モードと権限が正しくない問題を修正しました。 <回避策> ddns updateとshow ddnsコマンドはAdministrator権限のグローバルコンフィグモードで実行してください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.7.15以降
17	WebUI	B	コンフィグを、tftpやWebコンソールの「設定データのアップロード」で設定する場合、web-console設定がコンフィグの先頭付近にある場合、設定が正しく反映されないことがある問題を修正しました。 <回避策> コンフィグをアップロードする場合、web-consoleの設定は、最初の数行には書かないでください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.7.15以降
18	Gateway	C	再起動が必要な設定を保存すると、show startup-configに要再起動メッセージが含まれてしまうことがある問題を修正しました。 <回避策> show startup-configで不要な再起動メッセージが表示されるだけで、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.5.11～ Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降
19	PPPoE	B	encapsulation pppoeコマンドでヘルプ表示を行うと、encapsulationの設定が消えてしまう問題を修正しました。 <回避策> encapsulation pppoe でヘルプ表示を行わないでください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.7.15以降
20	SNMP	C	MIBのipRouteAgeが、RIPの経路の場合に正しい値にならない問題を修正しました。 <回避策> MIBの問題のため、実際の運用に影響はありません。	Ver.8.10.11～ Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降
21	Diag	B	装置起動時のセルフテストで、SW-HUBポートの一部の通信試験でエラー検知できない場合がある問題を修正しました。 <回避策> 装置故障時の早期解析用ですので、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.7.15以降
22	USB	B	USBデータ通信端末を通信中にshutdownすると、それ以降、USBデータ通信端末での通信ができなくなる場合がある問題を修正しました。 <回避策> USBデータ通信端末を通信中にshutdownしないでください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.7.15以降

■Ver.9.6 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	IPv6	B	IPv6でカプセル化を行うトンネルで、リンクアップ時にリンクローカルアドレスを送信元アドレスに設定してしまうことがある。 <回避策> tunnel sourceコマンドにより送信元アドレス指定を行ってください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降
2	Gateway	B	IPv6のネットワークモニタ機能で、リンクローカルアドレスを隠蔽できない問題を修正しました。 <回避策> ネクストホップアドレスがグローバルアドレスになるようにして利用してください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降
3	NAT	B	FTPのPORTコマンドに小文字が含まれていると、NAT/NAPT、ダイナミックフィルタ、IDS機能で正しく判定できない問題を修正しました。 <回避策> 通常、FTPのPORT/EPRTコマンドは大文字で通知されていますが、まれに小文字で通信する装置があります。そのような場合にはPASVコマンドを利用してください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降
4	VRF	B	VRF-Lite設定時、PPP以外のインタフェースでip address ipcpコマンドが設定できてしまう問題を修正しました。 <回避策> VRF-Lite設定時には、PPPインタフェース以外では、ip address ipcpコマンドの設定は行わないでください。	Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
5	MP-BGP	B	BGPにてpeer-group作成後に全体のタイマ(Keepalive/Hold)値の設定を変更しても、動的に生成したNeighborにそのタイマ値が反映されない問題を修正しました。 <回避策> peer-groupを一旦削除し再設定する、もしくは、peer-groupのタイマーの設定を行ってください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
6	MP-BGP	B	BGPで動的に生成したNeighborのセッション切断時に、エントリが消滅しない場合がある問題を修正しました。 <回避策> clear ip bgpコマンドで不要なNeighborを指定して消去してください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
7	DMVPN	B	ダイナミックVPNの冗長構成で、障害からの復旧時に数分間ショートカットルートが作成されない場合がある問題を修正しました。 <回避策> 実際の運用に影響はありません。問題発生時には、ikev2 outgoing-interfaceコマンドの設定を行ってください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
8	DMVPN	B	センタ側装置で複数のダイナミックVPNを利用しているとき、センタ側で最大接続数を設定しても、その制限が正常に動作しない場合がある問題を修正しました。 ダイナミックVPNを使用している最善番のTunnelインタフェースで接続数制限が設定されている場合に、それ以外のダイナミックVPNで発生します。 <回避策> 複数ダイナミックVPNでは、接続数制限を使用しないでください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降
9	GRE	B	GREトンネルのMTUが1280以下にならない問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時でも、実際の運用に影響はありません。	Ver.8.9.17～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
10	Tunnel	B	L2TP/IPsecで複数の端末から同時に接続要求を受けると、まれに接続に失敗することがある問題を修正しました。 <回避策> 接続失敗時には再度接続を行ってください。	Ver.8.10.11～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
11	Tunnel	B	L2TP/IPsecで特定のタイミングでHelloのSession IDが"0"にならないことがある問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時でも、実際の運用に影響はありません。	Ver.8.10.11～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
12	DynDNS	B	ダイナミックDNS機能でサーバと通信できない時に、ddns updateコマンドを実行すると、64byte未満のメモリリークが発生することがある問題を修正しました。 <回避策> ddns updateコマンドを過度に実行しないでください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降
13	DynDNS	B	ddns updateとshow ddnsコマンドの実行モードと権限が正しくない問題を修正しました。 <回避策> ddns updateとshow ddnsコマンドはAdministrator権限のグローバルコンフィグモードで実行してください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降
14	WebUI	B	コンフィグを、tftpやWebコンソールの「設定データのアップロード」で設定する場合、web-console設定がコンフィグの先頭付近にある場合、設定が正しく反映されないことがある問題を修正しました。 <回避策> コンフィグをアップロードする場合、web-consoleの設定は、最初の数行には書かないでください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降
15	Gateway	C	再起動が必要な設定を保存すると、show startup-configに要再起動メッセージが含まれてしまうことがある問題を修正しました。 <回避策> show startup-configで不要な再起動メッセージが表示されるだけで、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.5.11～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
16	PPPoE	B	encapsulation pppoeコマンドでヘルプ表示を行うと、encapsulationの設定が消えてしまう問題を修正しました。 <回避策> encapsulation pppoe でヘルプ表示を行わないでください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降
17	SNMP	C	MIBのipRouteAgeが、RIPの経路の場合に正しい値にならない問題を修正しました。 <回避策> MIBの問題のため、実際の運用に影響はありません。	Ver.8.10.11～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
18	Gateway	B	装置電源投入時のセルフテストで、RTCの電池切れを検出できない問題を修正しました。 <回避策> 装置電源投入時のセルフテストの問題のため、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降
19	USB	B	USBデータ通信端末を通信中にshutdownすると、それ以降、USBデータ通信端末での通信ができなくなる場合がある問題を修正しました。 <回避策> USBデータ通信端末を通信中にshutdownしないでください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降

20	OSPFv2	B	BGPやRIPのサマリルートの廃棄経路を、OSPFの経路で書きできない問題を修正しました。 <回避策> BGPやRIPとOSPFを併用する場合は、BGPやRIPのサマリルートがOSPFの経路情報で書きされないような設定にしてください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降
21	OSPFv2	B	OSPFでマスク長のみが異なる同一ネットワークが混在する場合、経路が削除されない場合があります。その場合、次回更新時に再配信経路をコスト無限大(16777215)で広告してしまう問題を修正しました。 <回避策> OSPFでマスク長のみが異なる同一ネットワークを混在させないでください。	Ver.9.5.11～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
22	IKEv2	B	一部の他社ルータとのIKEv2接続において、他社ルータ側からリキーが開始されたときにリポートが発生する 場合がある問題を修正しました。 <回避策> IX側からリキーを開始するようにライフタイムの調整を行ってください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降
23	DHCPv4	B	DHCPリレー使用時に、DHCPサーバからのofferがDHCPリレー端末にリレーされない場合がある問題を修正 しました。 本問題は以下のすべての条件に該当する場合に発生します。 ・DHCPサーバからのDHCPパケットにブロードキャストフラグが設定されていない。 ・DHCPサーバからクライアントに割り当てようとしているIPアドレスをDHCPリレー端末がARP解決中である。 <回避策> 以下のいずれかにより回避可能となります。 ・端末にてブロードキャストフラグを設定する。 ・DHCPサーバにて、強制的にブロードキャストフラグを設定する。	Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
24	WebUI	B	かんたん設定 (IP電話サービス接続) のひかり電話オフィスAでは、FORCERENEWのためのDHCP(udp/68) が通らない問題を修正しました。 <回避策> 『任意コマンドの実行』などを使用して、以下のようにスタティックnaptの設定を追加してください。 interface GigaEthernet0.0 ip napt static GigaEthernet0.0 udp 68	Ver.9.2.20～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
25	RADIUS	B	802.1X認証時、RADIUSサーバからTunnel-Private-Group-IDアトリビュートを含んだRADIUSパケットを受信 した場合に数十byte程度のメモリアリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> 本問題の発生頻度は低く、発生しても数十byte程度のメモリアリークのため、通常の運用に影響はありません。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降
1	URL-Offload	B	url-offload updateコマンド実行時に、48byteのメモリアリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> url-offload updateコマンドを頻繁に使用しないでください。	Ver.9.4.15～ Ver.9.5.11	Ver.9.6.12以降
2	TCP	B	tcp ack-challengeコマンドで設定したrate-limitと異なるレートでACK応答する問題を修正しました。 通信量に応じて、rate-limitの約50%～200%のレートとなることがあります。 <回避策> 設定した値とは異なりますが、50%～200%のレートで制限がかかるため、通常運用における実害はありませ ん。	Ver.9.4.15～ Ver.9.5.11	Ver.9.6.12以降
3	IPv4	B	ポリシールーティングが設定されていて、そのポリシールーティングに該当しない通信に対しての等コストマ ルチパス(per flow)が動作しない問題を修正しました。 <回避策> マルチパス動作にはなりませんが、いずれかのルートでのパケットは転送は行われます。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降
4	IPv4	C	インタフェースの状態が変化するたびにスタティックルートの経過時間がリセットされてしまう問題を修正し ました。 <回避策> 実際の経路情報は消えていないため、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.4.15～ Ver.9.5.11	Ver.9.6.12以降
5	MP-BGP	B	BGP4において、router idコマンドあるいはcluster idコマンドで、Router-ID及びCluster-IDを変更しても、 BGPセッションを切断せず、そのセッションを張ったまま新しいIDを使用してしまう問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時には、clear ip bgp *コマンドで一旦BGPセッションをクリアしてください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降
6	SSH	B	SSHが無効の状態ですsh関連の設定(ポート変更やTOS設定)を行うとCPU使用率が上昇する場合がある問題を 修正しました。 <回避策> SSHが無効の状態ですshの設定を行わないでください。 また、CPU使用率が上昇している場合は、SSHを一旦有効にし、再度無効化の設定を行ってください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降
7	Gateway	B	syslogパケットが宛先到達不能などのICMPエラーで応答された場合、そのICMPエラーのイベントログ表示お よびsyslog送信を行ってしまうことで、その状態を繰り返してしまうことがある問題を修正しました。 <回避策> syslogサーバおよび経路上の装置からのICMPエラーをフィルタしてください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降
8	SNMP	B	SNMP(IPv6)で不正なSNMPパケットを受信すると、バッファリークが発生する場合がある問題を修正しまし た。 <回避策> SNMPはIPv4で利用する。もしくは、IPv6で利用する場合は、信頼できるSNMPマネージャとの通信に限定す るようにしてください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降
9	Ethernet	B	SNMPでdot3CollFrequenciesのみ取得した場合、現在の情報が取得できない問題を修正しました。 <回避策> dot3-MIB全体を順番に取得する等、dot3CollFrequencies以外のdot3-MIBを1つ以上先に取得するようにして ください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降
10	Ethernet	B	clear countersコマンドを使用しても、MIBのdot3CollFrequenciesがクリアされない問題を修正しました。 <回避策> MIBのdot3CollFrequenciesがクリアされないだけで、通常の動作は正常に行われます。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降
11	sFlow	B	USBデバイスでsFlowを利用した場合、誤ったifIndexが付与される問題を修正しました。 <回避策> USBデバイスでサンプリングを行わないか、異なるifIndexのまま利用してください。	Ver.8.9.17～ Ver.9.5.11	Ver.9.6.12以降

12	OpenFlow	B	OpenFlowにおいて、flow-entryコマンドで、存在しないinstructionを指定し、存在しないinstructionをnoコマンドで削除するとリポートが発生する場合があります問題を修正しました。 <回避策> 存在しないopenflow instructionsコマンドに対してnoコマンドで削除しないでください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.5.11	Ver.9.6.12以降
13	LoopDetection	B	SW-HUBインタフェースでブリッジを設定し、ループ検出を設定していない場合に、他のIXルータからのループ検出パケットを受信すると、リポートする場合があります問題を修正しました。 <回避策> SW-HUBインタフェース側に他のIXルータが接続されていて、かつ、そのIXルータでループ検出を行っている場合には、自ルータでもループ検出機能を設定してください。	Ver.8.9.17～ Ver.9.5.11	Ver.9.6.12以降
14	SNMP	C	snmp-agent ip trap-sourceコマンドで、全てのパラメータを入力した状態でヘルプを表示すると、コンフィグが設定されてしまう問題を修正しました。 <回避策> 入力完了後にヘルプ表示を行わないでください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降
15	Gateway	C	show tech-supportコマンドで、インタフェースのコンフィグが2回表示される問題を修正しました。 <回避策> show tech-supportコマンドでの表示問題のため、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.5.11	Ver.9.6.12以降
16	IPv4	C	インタフェースコンフィグモードでのshow ip cacheコマンドを実行してもなにも表示されない問題を修正しました。 <回避策> グローバルコンフィグモードでコマンドを実行してください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降
17	OpenFlow	C	show openflow flow-entryコマンドで表示されるヘッダの誤記を修正しました。 <回避策> show openflow flow-entryコマンドでの表示問題のため、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.2.20～ Ver.9.5.11	Ver.9.6.12以降
18	Telnet	C	no telnet-server ipv6 enableコマンドの表示されるヘルプの誤記を修正しました。 <回避策> no telnet-server ipv6 enableコマンドでの表示問題のため、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降
19	USB	B	電波状態の悪い不安定な環境で無線USB端末のFS020Uを使用時に、USB端末が接続不能状態になったり、この状態でUSBデバイスのshutdown/no shutdownを実行するとコンソール動作が停止する場合があります問題を修正しました。 <回避策> 電波状態の良い環境で利用してください。また、USB端末が接続不能状態になった場合は、USBデバイスでのshutdown/no shutdownを実行せず、装置の再起動を行ってください。	Ver.9.5.11	Ver.9.6.12以降
20	DHCPv4	B	DHCPリレー機能で、ブロードキャストフラグが正しく処理されていない問題を修正しました。 <回避策> DHCPリレー機能利用時は、DHCPクライアントのブロードキャストビットを有効にしてください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降
21	PPP	B	PPPのCHAP Responseの再送時に、認証情報を空で送信する場合があります問題を修正しました。 <回避策> PPPを再接続で正しく認証されます。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降

■Ver.9.5ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	URL-Offload	B	url-offload updateコマンド実行時に、48byteのメモリーリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> url-offload updateコマンドを頻繁に使用しないでください。	Ver.9.4.15～ Ver.9.5.11	Ver.9.5.13以降
2	TCP	B	tcp ack-challengeコマンドで設定したrate-limitと異なるレートでACK応答する問題を修正しました。 通信量に応じて、rate-limitの約50%～200%のレートとなることがあります。 <回避策> 設定した値とは異なりますが、50%～200%のレートで制限がかかるため、通常運用における実害はありません。	Ver.9.4.15～ Ver.9.5.11	Ver.9.5.13以降
3	IPv4	B	ポリシールーティングが設定されていて、そのポリシールーティングに該当しない通信に対しての等コストマルチパス(per flow)が動作しない問題を修正しました。 <回避策> マルチパス動作にはなりません、いずれかのルートでのパケットは転送は行われます。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.5.13以降
4	IPv4	C	インタフェースの状態が変化するたびにスタティックルートの経過時間がリセットされてしまう問題を修正しました。 <回避策> 実際の経路情報は消えていないため、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.4.15～ Ver.9.5.11	Ver.9.5.13以降
5	MP-BGP	B	BGP4において、router idコマンドあるいはcluster idコマンドで、Router-ID及びCluster-IDを変更しても、BGPセッションを切断せず、そのセッションを張ったまま新しいIDを使用してしまう問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時には、clear ip bgp *コマンドで一旦BGPセッションをクリアしてください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.5.13以降
6	SSH	B	SSHが無効の状態ですsh関連の設定(ポート変更やTOS設定)を行うとCPU使用率が上昇する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> SSHが無効の状態ですshの設定を行わないでください。 また、CPU使用率が上昇している場合は、SSHを一旦有効にし、再度無効化の設定を行ってください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.5.13以降
7	Gateway	B	syslogパケットが宛先到達不能などのICMPエラーで応答された場合、そのICMPエラーのイベントログ表示およびsyslog送信を行ってしまうことで、その状態を繰り返してしまうことがある問題を修正しました。 <回避策> syslogサーバおよび経路上の装置からのICMPエラーをフィルタしてください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.5.13以降
8	SNMP	B	SNMP(IPv6)で不正なSNMPパケットを受信すると、バッファリークが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> SNMPはIPv4で利用する。もしくは、IPv6で利用する場合は、信頼できるSNMPマネージャとの通信に限定するようにしてください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.5.13以降
9	Ethernet	B	SNMPでdot3CollFrequenciesのみ取得した場合、現在の情報が取得できない問題を修正しました。 <回避策> dot3-MIB全体を順番に取得する等、dot3CollFrequencies以外のdot3-MIBを1つ以上先に取得するようにしてください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.5.13以降
10	Ethernet	B	clear countersコマンドを使用しても、MIBのdot3CollFrequenciesがクリアされない問題を修正しました。 <回避策> MIBのdot3CollFrequenciesがクリアされないだけで、通常の動作は正常に行われます。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.5.13以降
11	sFlow	B	USBデバイスでsFlowを利用した場合、誤ったifIndexが付与される問題を修正しました。 <回避策> USBデバイスでサンプリングを行わないか、異なるifIndexのまま利用してください。	Ver.8.9.17～ Ver.9.5.11	Ver.9.5.13以降
12	OpenFlow	B	OpenFlowにおいて、flow-entryコマンドで、存在しないinstructionを指定し、存在しないinstructionをnoコマンドで削除するとリポートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 存在しないopenflow instructionsコマンドに対してnoコマンドで削除しないでください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.5.11	Ver.9.5.13以降
13	LoopDetection	B	SW-HUBインタフェースでブリッジを設定し、ループ検出を設定していない場合に、他のIXルータからのループ検出パケットを受信すると、リポートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> SW-HUBインタフェース側に他のIXルータが接続されていて、かつ、そのIXルータでループ検出を行っている場合には、自ルータでもループ検出機能を設定してください。	Ver.8.9.17～ Ver.9.5.11	Ver.9.5.13以降
14	SNMP	C	snmp-agent ip trap-sourceコマンドで、全てのパラメータを入力した状態でヘルプを表示すると、コンフィグが設定されてしまう問題を修正しました。 <回避策> 入力完了後にヘルプ表示を行わないでください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.5.13以降
15	Gateway	C	show tech-supportコマンドで、インタフェースのコンフィグが2回表示される問題を修正しました。 <回避策> show tech-supportコマンドでの表示問題のため、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.5.11	Ver.9.5.13以降
16	IPv4	C	インタフェースコンフィグモードでのshow ip cacheコマンドを実行してもなにも表示されない問題を修正しました。 <回避策> グローバルコンフィグモードでコマンドを実行してください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.5.13以降
17	OpenFlow	C	show openflow flow-entryコマンドで表示されるヘッダの誤記を修正しました。 <回避策> show openflow flow-entryコマンドでの表示問題のため、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.2.20～ Ver.9.5.11	Ver.9.5.13以降
18	USB	B	電波状態の悪い不安定な環境で無線USB端末のFS020Uを使用時に、USB端末が接続不能状態になったり、この状態でUSBデバイスのshutdown/no shutdownを実行するとコンソール動作が停止する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 電波状態の良い環境で利用してください。また、USB端末が接続不能状態になった場合は、USBデバイスでのshutdown/no shutdownを実行せず、装置の再起動を行ってください。	Ver.9.5.11	Ver.9.5.13以降
19	DHCPv4	B	DHCPリレー機能で、ブロードキャストフラグが正しく処理されていない問題を修正しました。 <回避策> DHCPリレー機能利用時は、DHCPクライアントのブロードキャストビットを有効にしてください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.5.13以降



20	PPP	B	PPPのCHAP Responseの再送時に、認証情報を空で送信する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> PPPを再接続で正しく認証されます。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.5.13以降
1	OSPFv2	B	複数のOSPFルータが同一の外部経路を広告しており、そのTAG値が異なる場合、経路が消えないのにAgeが0にリセットされることがある問題を修正しました。 <回避策> Ageがリセットされるのみで、ルータ動作には影響ありません。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.5.11以降
2	MP-BGP	B	BGPにおいて、aggregate-addressコマンドを実行した時に経路集約を行うAS-PATH数が48を超えているとメモリの不正アクセスが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> aggregateされる経路のAS数を48までとしてください。または、aggregateコマンドを使用しないでください。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.5.11以降
3	MP-BGP	B	BGPにおいて、マルチパス経路を使った通信がある状態で、なんらかの経路変化が発生すると全てのマルチパス経路についてBGP経路広告が行われる問題を修正しました。 <回避策> 経路広告時に負荷が高くなりますが、ルータ動作には影響ありません。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.5.11以降
4	OpenFlow	B	OpenFlowにおいて、flow-entryとgroup-entryをコマンドで設定している場合に、group-entryの設定を変更すると、flow-entryが削除されてしまう問題を修正しました。 <回避策> flow-entryコマンドを削除して再登録してください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.4.17	Ver.9.5.11以降
5	OpenFlow	C	OpenFlowにおいて、flow-entryコマンド削除時にコントローラからの登録削除のイベントログが表示されてしまう問題を修正しました。 <回避策> 不要なイベントログが表示されるのみで、実際の運用には影響ありません。	Ver.9.2.20～ Ver.9.4.17	Ver.9.5.11以降
6	WebUI	B	Webコンソールにおいて、HTTPサーバのポート変更を保存し、再起動するとWeb画面が表示されなくなる問題を修正しました。<回避策> HTTPサーバのポートは変更せず、デフォルトの80を使用してください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.4.17	Ver.9.5.11以降
7	WebUI	C	Webコンソールにおいて、no http-server ip enable状態でもHTTP Serverプロセスの起動回数が増えていく問題を修正しました。 <回避策> 起動回数が増えても実際には起動しないため、運用には影響ありません。	Ver.9.2.20～ Ver.9.4.17	Ver.9.5.11以降
8	URL-Offload	B	URLオフロード機能において、使用するブラウザによっては、正しくオフロードされない場合がある問題を修正しました。 <回避策> InternetExplorerを使用してください。	Ver.9.4.15～ Ver.9.4.17	Ver.9.5.11以降
9	URL-Offload	C	no url-offloadコマンドがグローバルコンフィグモード以外でもヘルプに表示される問題を修正しました。 <回避策> CLIの問題のため実際の運用には影響ありません。	Ver.9.4.15～ Ver.9.4.17	Ver.9.5.11以降
10	USB	B	データ通信端末(203HW)により長時間の高負荷通信を行うとデータ通信端末がストールする場合がある問題を修正しました。 <回避策> 203HWを利用する際は、シェーピングを設定するなどして負荷を高くしないでください。	Ver.9.0.14～ Ver.9.4.17	Ver.9.5.11以降
11	DMVPN	B	ダイナミックVPN機能にて、ハブ拠点障害復旧時に切り戻らない場合がある問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時には、ハブ拠点側でclear nhrp redirect-tableコマンドを実行してください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.4.17	Ver.9.5.11以降
12	PIM	B	システムバッファの枯渇発生時に、PIMにおけるHello送信が停止してしまう場合がある問題を修正しました。 <回避策> システムバッファを枯渇させないでください。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.5.11以降
13	Bootstrap	C	装置の起動中にリポートが発生するとcrashログが正しく表示できないことがある問題を修正しました。 <回避策> ログ表示のみのため、実際の運用には影響ありません。	Ver.9.4.15～ Ver.9.4.17	Ver.9.5.11以降
CODE	Gateway Telnet	B	以下の操作時にメモリへの不正アクセスが発生する可能性がある問題を修正しました。 ・ interfaceがno shutdownの状態からshutdownコマンドを実行。 ・ "telnet ?"や"ping6 ?"のコマンドを実行。 ・ telnetのコマンドモード(^)入力で"?"/"等、"(空白)を含まない文字列を入力。 <回避策> 机上で確認されたコード上の問題の修正です。実際に問題が発生することはありません。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.5.11以降
15	SNMP	C	show snmp-agent statisticsコマンド実行時に、不要な文字列が表示される場合がある問題を修正しました。 <回避策> 不要な文字列が表示されるのみで、実際の運用には影響ありません。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.5.11以降
16	IPv4	C	ip directed-broadcastを設定して logging subsystem ip4 debugでイベントログを確認するとnexthopとして不要な文字列が表示される問題を修正しました。 <回避策> イベントログに不要な文字列が表示されるのみで、実際の運用には影響ありません。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.5.11以降
17	Gateway	B	software-updateコマンドで、ssl-protocolオプションあるいはsourceオプションに続く文字列の入力途中で、Enter、TABおよび"?"/"を入力すると、65536バイトのメモリアリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> 該当のオプションでTABやヘルプを実行しないでください。 バージョンアップのコマンドであり、実行後再起動することになるため、運用上は問題ありません。	Ver.9.0.14A～ Ver.9.4.17	Ver.9.5.11以降
18	RADIUS	B	Radiusサーバに問い合わせパケットを送信するインタフェースがshutdownの場合に、認証要求をキャンセル(clear interfaceコマンド)すると、Sent:のpendingカウンタが42億以上の数値になることがある問題を修正しました。 <回避策> shutdownのインタフェースでclear interfaceコマンドを実行しないでください。なお、発生した場合も、動作上は影響ありません。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.5.11以降

■Ver.9.4 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	MP-BGP	B	BGPにおいて、aggregate-addressコマンドを実行した時に経路集約を行うAS-PATH数が48を超えているとメモリの不正アクセスが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> aggregateされる経路のAS数を48までとしてください。または、aggregateコマンドを使用しないでください。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.4.19以降
2	MP-BGP	B	BGPにおいて、マルチパス経路を使った通信がある状態で、なんらかの経路変化が発生すると全てのマルチパス経路についてBGP経路広告が行われる問題を修正しました。 <回避策> 経路広告時に負荷が高くなりますが、ルータ動作には影響ありません。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.4.19以降
3	WebUI	B	Webコンソールにおいて、HTTPサーバのポート変更を保存し、再起動するとWeb画面が表示されなくなる問題を修正しました。<回避策> HTTPサーバのポートは変更せず、デフォルトの80を使用してください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.4.17	Ver.9.4.19以降
4	WebUI	C	Webコンソールにおいて、no http-server ip enable状態でもHTTP Serverプロセスの起動回数が増えていく問題を修正しました。 <回避策> 起動回数が増えても実際には起動しないため、運用には影響ありません。	Ver.9.2.20～ Ver.9.4.17	Ver.9.4.19以降
5	URL-Offload	B	URLオフロード機能において、使用するブラウザによっては、正しくオフロードされない場合がある問題を修正しました。 <回避策> InternetExplorerを使用してください。	Ver.9.4.15～ Ver.9.4.17	Ver.9.4.19以降
6	DMVPN	B	ダイナミックVPN機能にて、ハブ拠点障害復旧時に切り戻らない場合がある問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時には、ハブ拠点側でclear nhrp redirect-tableコマンドを実行してください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.4.17	Ver.9.4.19以降
7	PIM	B	システムバッファの枯渇発生時に、PIMにおけるHello送信が停止してしまう場合がある問題を修正しました。 <回避策> システムバッファを枯渇させないでください。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.4.19以降
8	Bootstrap	C	装置の起動中にリポートが発生するとcrashログが正しく表示できないことがある問題を修正しました。 <回避策> ログ表示のみのため、実際の運用には影響ありません。	Ver.9.4.15～ Ver.9.4.17	Ver.9.4.19以降
9	CODE	B	interfaceがno shutdownの状態からshutdownコマンドを実行時に、メモリへの不正アクセスが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 机上で確認されたコード上の問題の修正です。実際に問題が発生することはありません。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.4.19以降
10	IPv4	C	ip directed-broadcastを設定して logging subsystem ip4 debugでイベントログを確認するとnexthopとして不要な文字列が表示される問題を修正しました。 <回避策> イベントログに不要な文字列が表示されるのみで、実際の運用には影響ありません。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.4.19以降
11	Gateway	B	software-updateコマンドで、ssl-protocolオプションあるいはsourceオプションに続く文字列の入力途中で、Enter、TABおよび"?>をを入力すると、65536バイトのメモリアリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> 該当のオプションでTABやヘルプを実行しないでください。 バージョンアップのコマンドであり、実行後再起動することになるため、運用上は問題ありません。	Ver.9.0.14A～ Ver.9.4.17	Ver.9.4.19以降
1	OSPFv2	B	OSPFでRIBの最大エントリ数を超過しており、かつLSA作成に失敗している状態で、clear ospf processコマンドを実行するとメモリアリークが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> OSPFはRIBの最大エントリ数以内で動作させてください。 最大エントリ数を超過してしまった状態で、clear ip ospf processを実行した場合でも、External LSA以外のLSA 1個につき200byte程度のメモリアリークのため、実運用上問題となることはほぼありません。	Ver.9.4.15A以前	Ver.9.4.17以降
2	WebUI	B	Webコンソール機能で、特殊なパケットを受信した場合にリポートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> IXルータでサポートしているInternetExplorerを利用している場合は、該当する特殊なパケットを送信することがないため、本問題が発生することはありません。 また、信頼できる端末のみアクセス許可するようフィルタリングを設定することで回避可能となります。	Ver.9.2.20～ Ver.9.4.15A	Ver.9.4.17以降
3	SSH	B	SSHでログインし大量のログデータなどを表示させると、SSHのセッションが切断される場合がある問題を修正しました。 <回避策> SSHによるアクセス時には、大量に発生するようなログの表示は行わないでください。	Ver.8.7.22～ Ver.9.4.15A	Ver.9.4.17以降
1	SMF	B	ゼロコンフィグモデルの起動時にリポートが発生する可能性がある問題を修正しました。	Ver.9.4.15	Ver.9.4.15A以降
1	IKEv2	B	IKEv2かつEtherIPの構成で、動的アドレスの装置と接続している場合、相手側の装置が再起動などでアドレスが変更になると通信が継続できない問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時には一旦 no ikev2 peerコマンドにより設定を削除後、ikev2 peerコマンドにて再設定を行ってください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.3.11	Ver.9.4.15以降
2	WebUI	B	WebコンソールにおけるL2TP/IPsecのかんたん設定ではip proxy-arpが設定されないために、かんたん設定だけでは、拠点側のクライアントからセンターLAN内のホストと通信ができない場合がある問題を修正しました。 <回避策> 任意コマンドの実行ページでip proxy-arpを追加設定してください。	Ver.9.3.11	Ver.9.4.15以降
3	BRS	B	ゼロコンフィグモデルでsystem qos max-classes コマンドが利用できない問題を修正しました。 <回避策> デフォルト値が仕様最大値となっているため、運用上で問題になることはありません。	Ver.9.3.11	Ver.9.4.15以降
4	NAT	B	NAPT利用時、同時に複数の端末から同一の宛先にpingを実行すると、2つ目以降のpingが失敗することがある問題を修正しました。 <回避策> 同時に複数の端末から同一の宛先にpingを行わないでください。	Ver.9.3.11	Ver.9.4.15以降

5	IPSec	B	IPsecをサポートするオープンソースのstrongSwanとIKEv1 NATトラバーサルで接続できない問題を修正しました。 <回避策> NATトラバーサルを使用しない。またはIKEv2を使用してください。	Ver.9.3.11以前	Ver.9.4.15以降
6	IKEv2	B	IKEv2のNATトラバーサルを利用している場合、パケットを3つにフラグメントしてしまうことがある問題を修正しました。 <回避策> インタフェースのMTUを調整をしてください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.3.11	Ver.9.4.15以降
7	Ethernet	B	IEEE802.3 SNAPヘッダのフレームを受信できない問題を修正しました。 <回避策> EthernetIIフレームによる通信を行ってください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.3.11	Ver.9.4.15以降
8	WebUI	B	WebコンソールにてWAN側がプライベートアドレスの環境でWebかんたん設定を行った場合、暗黙に設定される通信セキュリティのフィルタによりパケットが廃棄されてしまう問題を修正しました。 <回避策> 詳細設定の通信セキュリティのフィルタ設定で、条件を変更してください。	Ver.9.3.11	Ver.9.4.15以降
9	WebUI	B	コンフィグダウンロード機能が動作している状態でWebコンソールからログインしようとしても、コンフィグダウンロード機能を強制的に停止できないために、ログインすることができない問題を修正しました。 <回避策> コンフィグダウンロード機能が動作している状態ではWebコンソールからのログインは行わないでください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.3.11	Ver.9.4.15以降
10	IPv6	B	IPv6でUDPのチェックサムを0で送信してしまうことがある問題を修正しました。 <回避策> 通常の運用時に発生することはほとんどありません。	Ver.9.3.11以前	Ver.9.4.15以降
11	OpenFlow	B	OpenFlowコントローラとの接続で、コントローラ側からTCPのRSTを受信する場合、CPU使用率が80程まで上昇してしまう問題を修正しました。 <回避策> OpenFlowコントローラを停止しない。またはRSTを受信しないようにフィルタを設定してください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.3.11	Ver.9.4.15以降
12	Gateway	B	オペレーションモードにモニター権限、オペレータ権限では実行できないコマンドがある問題を修正しました。 ・ configure ・ show ddns <回避策> アドミニストレータ権限でコマンドを実行してください。	Ver.9.3.11以前	Ver.9.4.15以降
13	SNMP	B	SNMPv2のlinkup/linkdownトラップにifAdminStatus/ifOperStatusが含まれていない問題を修正しました。 <回避策> TRAP上の問題であるため、通常の運用には問題がありません。	Ver.9.3.11以前	Ver.9.4.15以降
14	RIP	B	RIPv1/v2混在時、広告経路数が複数パケットになると、経路広告が正しく行われなくなる問題を修正しました。 <回避策> RIPv1あるいはRIPv2のいずれか一方のみを使用してください。	Ver.9.3.11以前	Ver.9.4.15以降
15	WebUI	B	Webコンソールで、HTMLファイルの読み込みに時間がかかる場合、メニューだけ表示され、メイン画面が表示されないことがある問題を修正しました。 <回避策> 再読み込みにより復旧されます。	Ver.9.2.20～ Ver.9.3.11	Ver.9.4.15以降

■ Ver.9.3 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	OSPFv2	B	OSPFでRIBの最大エントリ数を超えており、かつLSA作成に失敗している状態で、clear ospf processコマンドを実行するとメモリリークが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> OSPFはRIBの最大エントリ数以内で動作させてください。 最大エントリ数を超えてしまった状態で、clear ip ospf processを実行した場合でも、External LSA以外のLSA 1個につき200byte程度のメモリリークのため、実運用上問題となることはほぼありません。	Ver.9.3.12以前	Ver.9.3.14以降
2	WebUI	B	Webコンソール機能で、特殊なパケット(HTTPヘッダなしの空行で始まるパケット)を受信した場合にリポートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> IXルータでサポートしているInternet Explorerを利用している場合は、該当する特殊なパケットを送信することがないため、本問題が発生することはありません。 また、信頼できる端末のみアクセス許可するようフィルタリングを設定することで回避可能となります。	Ver.9.2.20～ Ver.9.3.12	Ver.9.3.14以降
3	SSH	B	SSHでログインし大量のログデータなどを表示させると、SSHのセッションが切断される場合がある問題を修正しました。 <回避策> SSHによるアクセス時には、大量に発生するようなログの表示は行わないでください。	Ver.8.7.22～ Ver.9.3.12	Ver.9.3.14以降
1	ロギング	C	以下のイベントロググリファレンスの表示を修正しました。 ・ ARP016のDescriptionの誤記を修正しました。 ・ NHRP053で表示されるargsの名前を修正しました。 <回避策> イベントログの表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	ARP Ver.9.2.24以前 NHRP Ver.9.2.20～ Ver.9.2.24	Ver.9.3.11以降
2	NetMon	B	ネットワークモニタ動作時のメモリ枯渇発生時に、下記のアクションが実行されると、リポートが発生する場合がある問題を修正しました。 ・ clear-saアクション ・ shutdown-interfaceアクション ・ shutdown-dot1xアクション <回避策> 装置のメモリが枯渇している状況で、上記のアクションを実行しないでください。	Ver.9.2.24以前	Ver.9.3.11以降
3	NetMon	B	ネットワークモニタにおいて、interface-upイベントとshutdown-interfaceアクションで、同じインタフェースを指定すると、コンソールがきかなくなる場合がある問題を修正しました。 <回避策> ネットワークモニタの設定で、interface-upイベントとshutdown-interfaceアクションを、同じインタフェースを指定しないでください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.2.24	Ver.9.3.11以降
4	NAT	B	ip napt access-log typeコマンドによる設定変更時にリポートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 設定変更を行う場合には、no ip napt access-log typeコマンドで一旦設定を削除した後、再設定を行ってください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.2.24	Ver.9.3.11以降
5	OpenFlow	B	OpenFlowにおいてフローキャッシュ機能を有効にした状態で、以下のパケットの転送処理を実施した場合にリポートが発生する問題を修正しました。 ・ ICMPでtype 0(echo reply)のフラグメントが必要なパケット ・ プロトコル番号が"0"のフラグメントが必要なパケット ・ TCP/UDPで宛先ポート"0"、送信元ポート"0"のフラグメントが必要なパケット <回避策> openflow flow-tableコンフィグのflow-cache設定を削除してください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.2.24	Ver.9.3.11以降
6	Gateway	B	ポートVLANのインタフェースで未知のPPPoE Session IDを持つフレーム受信するとPADTが送信されない問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時には、網側が過去のPPPoEセッションを解放するまでの約5分後にPPPoEの再接続が行われます。	Ver.9.2.24以前	Ver.9.3.11以降
7	OpenFlow	B	OpenFlowにおいて、双方向の通信中にBVIインタフェースにてno openflow portコマンドを設定するとリポートが発生することがある問題を修正しました。 <回避策> OpenFlowによる通信中にBVIインタフェースでno openflow portコマンドを設定しないでください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.2.24	Ver.9.3.11以降
8	Telnet	B	Telnetサーバ/クライアント機能有効時に、特殊なパケットを受信するとリポートが発生する可能性のある問題を修正しました。 <回避策> Telnetサーバ機能を外部公開しないでください。 Telnetクライアント機能で不正なTelnetサーバに接続しないでください。	Ver.9.2.24以前	Ver.9.3.11以降
9	Tunnel	C	show ikev2 statisticsコマンドで負の値が表示される場合がある問題を修正しました。 <回避策> 表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.7.22～ Ver.9.2.24	Ver.9.3.11以降
10	GRE	B	GREトンネルにおいて、トンネルのdown時にkeepaliveの応答を受信した場合、それ以降トンネルがupしない場合がある問題を修正しました。 <回避策> システムバッファを枯渇させないでください。 問題発生時には、インタフェースのshutdown/no shutdownを行うことで回復します。	Ver.8.6.22～ Ver.9.2.24	Ver.9.3.11以降
11	USB	B	USB-無線WANインタフェースで受信したパケットをBVIインタフェースでブリッジし、物理インタフェースでVLANタグを付与する構成の場合、一定時間後に通信ができなくなる場合がある問題を修正しました。 <回避策> USB-無線WANインタフェースでブリッジ接続を行わないでください。	Ver.9.2.24以前	Ver.9.3.11以降

■Ver.9.2 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	OpenFlow	B	OpenFlowにおいてOFPMP_AGGREGATEのMultipartにตอบสนองすると48バイトのメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> Multipart(OFPMP_FLOW)で代用してください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.2.20	Ver.9.2.24以降
2	OpenFlow	B	OpenFlowにおいてコントローラとの接続中にclear openflow controller statisticコマンドを実行し、コントローラとの通信を切断した場合、切断時刻が正しく表示されない問題を修正しました。 <回避策> コントローラと再接続したあとに確認してください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.2.20	Ver.9.2.24以降
3	OpenFlow	B	OpenFlowにおいて以下の場合にエントリー1つ分メモリリーク(32～数百バイト)する可能性がある問題を修正しました。 ・ show openflow flow-entry/group-entryコマンドをパラメータ付きで実行した場合、および表示を途中で中断した場合。 ・ flow-entryコマンドで、登録済みのフローエントリを再度登録した場合。 <回避策> ・ show openflow flow-entry/group-entryコマンドは、オプション指定なしで利用し、最後まで表示してください。 ・ 登録済みのフローエントリをCLIで再登録しないでください。	Ver.9.0.54～ Ver.9.2.20	Ver.9.2.24以降
4	OpenFlow	B	BVIインタフェースにタグVLAN設定を行った場合でも、タグなしのフレームを受信してしまう問題を修正しました。 <回避策> タグなしのフレームをタグVLANを設定したBVIに送信しないでください。 またはタグなしのフレームをBVIのMACフィルタで廃棄してください。	Ver.9.1.10～ Ver.9.2.20	Ver.9.2.24以降
5	WebUI	C	Webコンソールに未ログイン状態では、Wake on LANの端末情報が表示されない問題を修正しました。 <回避策> Webコンソールでログイン後に、Wake on LANの情報を表示してください。	Ver.9.2.20	Ver.9.2.24以降
6	WebUI	B	Webコンソールにて他のユーザがログイン中でも、未ログイン状態のWake on LANページにアクセスするとWake on LANのみのユーザでもWebコンソールにログインされる問題を修正しました。 <回避策> 他のユーザがログイン時には、Wake on LANページへのアクセスは行わないでください。	Ver.9.2.20	Ver.9.2.24以降
7	OpenFlow	B	OpenFlowにおいてshow openflow group-entryコマンドでIXに存在していないGroupを指定するとリポートする問題を修正しました。 <回避策> あらかじめGroupを登録してから、show openflow group-entryコマンドを実行してください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.2.20	Ver.9.2.24以降
8	RouteMap	C	route-map match ip/ip6 addressコマンドのリスト名に"%"を含む文字列を設定すると、show running-config等でコンフィグを表示する際、正しい値が表示されない問題を修正しました。 <回避策> route-map match ip/ip6 addressコマンドのリスト名に"%"を使用しないでください。	Ver.9.2.20以前	Ver.9.2.24以降
9	NAT	B	ip napt translationコマンドでタイムアウト値をneverに設定した場合でも、2秒でタイムアウトしてしまう問題を修正しました。 <回避策> ip napt translationコマンドのタイムアウト値を最大値に設定してください。	Ver.9.2.20	Ver.9.2.24以降
10	NAT	B	ip napt translationコマンドでfinrstimeoutとsyn-timeoutのタイムアウト値を1秒に設定した場合でも、1秒以内にタイムアウトする場合がある問題を修正しました。 <回避策> finrstimeoutとsyn-timeoutのタイムアウト値を2秒以上に設定してください。	Ver.9.2.20	Ver.9.2.24以降
1	SNMP	B	SNMPにてsysUpTimeを連続で取得すると先に取得した値と後に取得した値が逆転する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 連続してsysUpTimeを取得する場合には間隔を空けてください。	Ver.9.0.14～ Ver.9.1.10	Ver.9.2.20以降
2	GRE	B	GREトンネルでチェックサムまたはシーケンス番号オプションを設定している場合に、対向先ルータが送信側でkeyオプションを設定せず、自ルータが受信側でkeyオプションを設定していると、本来は設定不一致で受信パケットを廃棄すべきところを、廃棄せずに受信してしまう問題を修正しました。 <回避策> 双方の装置でkeyオプションを設定してください。	Ver.9.1.10以前	Ver.9.2.20以降
3	ProxyDNS	B	IPv6 ProxyDNSのcompatibility設定時、IPv6拡張ヘッダ付きDNS要求にキャッシュを使用して応答した場合に104byteのメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> compatibilityを使用しないでください。	Ver.9.1.10以前	Ver.9.2.20以降
4	IKEv2	B	IKEv2において、IKE-SA削除処理中にChild-SAの削除コマンドを実行すると192byteのメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> IKE-SA削除処理中はChild-SAの削除コマンドを実行しないでください。	Ver.9.1.10以前	Ver.9.2.20以降
5	OpenFlow	B	OpenFlowにおいて、Flow-ModでCookieのみを指定して、Cookieが同一のフローエントリを全て削除しようとした場合でも、指定したCookieの条件が無視され全てのフローエントリが削除される問題を修正しました。 <回避策> Cookieを指定した削除を行わないでください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.1.10	Ver.9.2.20以降
6	MP-BGP	C	以下のbgpコマンドで表示される"RIB entry for A.B.C.D/ZZ, table version X"の table version に不定値が表示される問題を修正しました。 ・ show ip bgp A.B.C.D/<0-32> <回避策> 表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.1.10以前	Ver.9.2.20以降
7	IKEv2	B	IKEv2において、service password-encryption コマンドの実行後にikev2 authentication コマンドを実行した場合、パスワードが暗号化されない問題を修正しました。 <回避策> 一旦、no service password-encryptionコマンドにより削除した後、再度、service password-encryptionコマンドを実行してください。	Ver.9.1.10以前	Ver.9.2.20以降

8	IKEv2	B	IKEv2接続中に、対向装置をIXがサポートしないAHを使用する設定に変更してRekeyさせると、リポートすることがある問題を修正しました。 <回避策> AHによる認証ではなく、ESPによる認証機能を使用してください。	Ver.9.1.10以前	Ver.9.2.20以降
9	VRPP	B	vrppコマンドにて仮想IPv6アドレスの設定時にメモリ確保に失敗すると、リポートが発生する可能性がある問題を修正しました。ただし、メモリ確保の失敗は空きメモリ量が少ない時のみ発生するため、通常運用時には発生しません。 <回避策> 空きメモリ量が少ない状態で運用しないでください。	Ver.9.1.10以前	Ver.9.2.20以降
10	VRPP	B	vrpp VRPP-ID ipv6 コマンドで仮想IPv6アドレスの追加・削除を実行する度に[仮想IPv6アドレス設定数] x32 byteのメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> vrpp VRPP-ID ipv6 コマンドで仮想IPv6アドレス削除後は装置を再起動してください。	Ver.9.1.10以前	Ver.9.2.20以降
11	IKEv2	C	show running-config security policy NAME コマンドにて、IPsecポリシーが設定されていないポリシー名を指定した後に<TAB>を入力してもヘルプが表示されない問題を修正しました。 <回避策> show コマンドで表示されるヘルプの表示問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.1.10以前	Ver.9.2.20以降
12	IRB	B	logging timestamp設定時に大量のログが発生した場合、大幅な時刻のずれが発生し、エラーログでRTC failedが検出される場合がある問題を修正しました。 <回避策> logging timestampを使用しないでください。	Ver.9.0.14～ Ver.9.1.10	Ver.9.2.20以降
13	MP-BGP	B	BGP使用時に以下のすべての条件を満たす場合、BGPへの経路再配信が行われない場合がある問題を修正しました。 ・BGPで経路Aを学習している。 ・自装置で経路A(BGP以外の経路)がupしている。 ・経路Aが再配信される設定になっている。 ・upした経路A(BGP以外)の再配信処理する前に、学習している経路A(BGP)の削除を受信する。 <回避策> BGPで受信している経路と同じ経路を自装置から再配信しないでください。	Ver.9.1.10以前	Ver.9.2.20以降
14	Gateway	B	system interfacesに範囲外のパラメータを設定したコマンドをstartup-configに直接書き込み、装置を起動した場合、意図しないパラメータでコマンドが設定される場合がある問題を修正しました。 <回避策> 範囲外のパラメータを設定したsystem interfacesをstartup-configに設定しないでください。 CLIでは該当の設定はエラーとなります。	Ver.8.11.11～ Ver.9.1.10	Ver.9.2.20以降
15	Gateway	C	show tech-support output [ファイル名] コマンドでファイルアクセスに失敗した場合、コマンド実行結果で表示される書き込みサイズが誤った値で表示されてしまう可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.1.10以前	Ver.9.2.20以降
16	WebUI	B	WebコンソールやUSBメモリからコマンドを流し込む際に、コマンドのタイムアウト時間まで応答が返らない場合がある問題を修正しました。 [タイムアウト時間] ・Webコンソール 20秒 ・USBメモリ 10分 <回避策> 問題発生時には再度コマンドを実行してください。	Ver.9.0.14～ Ver.9.1.10	Ver.9.2.20以降
17	SNMP	C	SNMP_47のイベントログで、アドレス表示が不正になる場合がある問題を修正しました。 <回避策> イベントログ表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.1.10以前	Ver.9.2.20以降
18	USB	B	tftp get 192.168.1.204:abc usbmem0:abc コマンドにより、TFTPサーバからUSBメモリにファイルをコピーした場合、フラッシュ上に削除できないファイル(usbmem0:abc)が作成される問題を修正しました。 <回避策> tftpコマンドでUSBメモリを指定したコマンドを実行しないでください。	Ver.9.0.14～ Ver.9.1.10	Ver.9.2.20以降
19	OpenFlow	B	OpenFlowにおいてTable:254(末尾のフローテーブル)にフローエントリを登録した状態で、table_idにOFPTT_MAX(255)が設定されたOFPMP_FLOWまたはOFPMP_AGGREGATEのMultipart requestメッセージを受信するとリポートが発生する問題を修正しました。 <回避策> Table:254にフローエントリを登録しないでください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.1.10	Ver.9.2.20以降

■ Ver.9.1 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	OpenFlow	B	OpenFlowにおいてハッシュのキーにvlan-idを指定し、PRESENT bitが立ったvlan-idをMatch条件に持つフローが登録されている場合、該当vlan-idのパケットを受信しても正しくフローを検索できないため、意図した通りにパケットが転送されない問題を修正しました。 <回避策> ハッシュのキーにvlan-idを使用しないでください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.0.54	Ver.9.1.10以降
2	OpenFlow	B	OpenFlowにおいてハッシュのキーに以下を指定している場合、マスクなしのフローエントリと、マスクが一致するフローエントリしか高速化されない問題を修正しました。 - mac-src-mask - mac-dest-mask - ipv4-src-plefix - ipv4-dest-plefix - ipv6-src-prefix - ipv6-dest-prefix <回避策> 転送は高速化されませんが通信は行われます。	Ver.9.0.54	Ver.9.1.10以降
3	OpenFlow	C	OpenFlowのflow-tableモードでshowとclearコマンドのヘルプ表示に同じコマンドのヘルプが2行表示されるものがある。また、ヘルプが2行表示されるコマンドのTAB補完が動作しない問題を修正しました。 <回避策> TAB補完できない場合は、コマンド名を全て入力してください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.0.54	Ver.9.1.10以降
4	IDS	B	IDS機能使用時にレポートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> IDS機能を無効化してください。	Ver.8.10.11～ Ver.9.0.54	Ver.9.1.10以降
5	NGN	B	NGNデータコネクタ使用時に、IKE SAのリキーが失敗する問題を修正しました。IKE SAリキー失敗後、IPsec SAのリキーが行われないため、IPsec SA作成時にパケット廃棄が発生します。 <回避策> IKE SAのライフタイムを長く、またはIDLEタイムを短く設定するなどでIKE SAのリキーを発生しにくくしてください。	Ver.8.9.17～ Ver.9.0.54	Ver.9.1.10以降

■Ver.9.0ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	USB	C	USB無線端末(L-03D、WM320、GL03D)で回線接続中に圏外から圏内に、あるいは圏内から圏外にネットワーク登録状態が遷移した場合、登録/未登録の統計情報がカウントアップしない問題を修正しました。 <回避策> 統計情報の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.0.14	Ver.9.0.54以降
2	ISDN	C	BRIインタフェースで接続済みのBchのフレーム間タイムフィルが、マーク("11111111")となっている問題を修正しました。 <回避策> Bchのフレーム間タイムフィルが、マーク("11111111")となっても通信には問題はありません。	Ver.9.0.14A以前	Ver.9.0.54以降
3	Gateway	C	dialerコマンドのうち、未サポートコマンドのヘルプ表示を削除しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.0.14A以前	Ver.9.0.54以降
4	OpenFlow	B	OpenFlowにおいて、PacketOutで送信するパケットに対して、Type指定によるMACアクセスリストが動作しない問題を修正しました。 <回避策> offset指定を使用してください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.0.14A	Ver.9.0.54以降
5	OpenFlow	B	OpenFlowにおいて、フローテーブル255に移行するフローエントリを生成しマッチさせるとリポートが発生する問題を修正しました。 <回避策> フローテーブル255に移行するフローエントリを使用しないでください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.0.14A	Ver.9.0.54以降
6	OpenFlow	B	OpenFlowにおいて、Packet-Inの負荷が高い場合、コントローラとの接続が切断される場合がある問題を修正しました。 <回避策> Packet-Inがあまり発生しないフロー登録を行ってください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.0.14A	Ver.9.0.54以降
7	アクセスリスト	B	icmpを指定するアクセスリスト登録時にリポートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> icmpを指定するアクセスリストを登録する際は、運用時間帯以外で行ってください。	Ver.9.0.14A以前	Ver.9.0.54以降
1	Gateway	C	software-updateコマンドで、文字列の補完のために<Tab>を入力するとshow crashinfoに"Software update failed."のエラーログが追加される問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.11.11以前	Ver.9.0.14以降
2	USB	B	ATコマンド送受信中にデータ通信端末を抜き、リセットするとバッファリークが発生する可能性のある問題を修正しました。但し、ATコマンドの送信完了は0.2秒程度であり、実際にこのタイミングで除去される可能性はほとんどありません。 <回避策> ATコマンド実行中にデータ通信端末の抜きは行わないでください。 ATコマンドは以下の場合に実行されます。 ・データ通信端末挿入時 ・mobileコマンド実行時 ・データ通信端末挿入時で、回線未接続時は15秒間隔で実行 ・回線接続時	Ver.8.11.11以前	Ver.9.0.14以降
3	Gateway	C	以下の機能が無効時にも、show tech-supportコマンドで情報が表示される問題を修正しました。 ・Webコンソール ・L2TP ・スケジューラ <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Webコンソール Ver.8.11.11以前 L2TP Ver.8.10.11～Ver.8.11.11 スケジューラ Ver.8.11.11以前	Ver.9.0.14以降
4	ブリッジ	B	ブリッジ機能でbridge ip/ipv6コマンドを設定し、そのインタフェースでPPPoEフレームをQoSやbridge ip filterコマンドなどにより廃棄した場合、メモリ破壊する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> bridge ip/ipv6を設定する場合は、PPPoEフレームをQoSやbridge ip filterなどにより廃棄しないようにしてください。	Ver.8.11.11以前	Ver.9.0.14以降
5	ログ	C	デフォルトコンフィグ削除時、誤ってスタートアップコンフィグ削除としてトラップ送信、イベントログ出力されてしまう問題を修正しました。 <回避策> 誤ったトラップ送信、イベントログ出力が行われますが、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.11.11以前	Ver.9.0.14以降
6	IKEv2	B	IKEv2のソースアドレス指定にVirtualインタフェースを設定を行っている状態で、イニシエータとして動作した場合、エラーとなりネゴシエーションを開始できない問題を修正しました。 <回避策> IKEv2でのソースアドレス指定時には、インタフェースではなくアドレスを設定してください。	Ver.8.11.11以前	Ver.9.0.14以降
7	SSH	B	SSHサーバ使用時、クライアントからTCPがopenされた後、すぐにresetを受信した場合、装置がリポートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 実際の運用中にTCPがopenされた後、すぐにresetを受信するような状況はほとんど発生しないことから、問題が発生することはほぼありません。	Ver.8.11.11以前	Ver.9.0.14以降



■Ver.8.11 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	Gateway	C	装置で温度アラームが発生した場合、show error-logコマンドにて最新10件分の情報を確認することができませんが、10件目のアラームだけ情報が更新されず、履歴に残り続けしう問題を修正しました。 <回避策> ログ情報の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.10.11B以前	Ver.8.11.11以降
2	USB	B	USBデータ通信端末で回線接続中にAPNを変更してclear interfaceコマンドなどにより接続をキャンセルすると、APNの変更が反映されない問題を修正しました。 <回避策> 回線接続中にAPNを変更して接続をキャンセルしないようにしてください。また、本事象が発生した場合は、再度APNの変更を行ってください。	Ver.8.10.11～ Ver.8.10.11B	Ver.8.11.11以降
3	USB	B	USBデータ通信端末で回線接続中にclear interfaceコマンドなどにより接続をキャンセルすると、次回回線接続が接続直後に切断される問題を修正しました。 <回避策> 現象が発生した場合でも、その後接続をリトライすることで回線への接続ができます。	Ver.8.10.11B以前	Ver.8.11.11以降
4	Telnet	B	Telnetクライアント機能でサーバと接続中に、サーバがメッセージ送信直後にセッションを切断するような動作を行うとリポートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 一般のTelnetサーバは、メッセージ送信直後にセッションを切断しないため、通常は発生しません。	Ver.8.10.11B以前	Ver.8.11.11以降
5	IPv4	B	ip directed-broadcastコマンドを設定した後に、ip addressコマンドを設定すると、ip directed-broadcastの設定が削除される問題を修正しました。 <回避策> ip addressコマンドを変更する場合、ip directed-broadcastコマンドを再設定してください。	Ver.8.10.11B以前	Ver.8.11.11以降
6	NAT	B	IPsecトンネルでdf-bit ignoreが設定されている場合、そのインタフェースでNAT/NAPTを設定しても、アドレス変換が行われず送信されてしまう問題を修正しました。 <回避策> IPsecトンネルでNAT/NAPT変換が必要な場合はdf-bit ignoreを設定せず、ip forced-fragmentをトンネルインタフェースに設定してください。	Ver.8.7.22～ Ver.8.10.11B	Ver.8.11.11以降
7	Gateway	C	MSS調整機能を有効にしているトンネルインタフェースで、そのトンネルインタフェースがdownしている場合、show ip interfaceコマンドでMSSの値が異常な値で表示される問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.10.11B以前	Ver.8.11.11以降
8	IKEv2	B	NATまたはフィルタが設定されたIKEv2/IPsec3トンネルインタフェースで、フラグメントされた平文パケットを暗号化する際に、リポートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 受信インタフェースで、ip filter forced-reassemblyコマンドを設定し、IKEv2のトンネルインタフェースに転送される前にリアセンブル処理を行うようにしてください。	Ver.8.7.22～ Ver.8.10.11B	Ver.8.11.11以降
9	IPSec	B	IPv4 over IPv6のIKEv1/IPsecトンネルでは、df-bit ignoreの設定が動作しない問題を修正しました。 <回避策> トンネルインタフェースでip forced-fragmentを設定してください。	Ver.8.10.11B以前	Ver.8.11.11以降
10	IPSec	B	L2TP/IPsecで接続する複数の端末が、以下の条件である場合、同時接続が不可となる問題を修正しました。 1. 同一のNAT配下に接続されている場合 2. 異なるNAT配下で同じアドレスを使っている場合 <回避策> 1.で端末にIDが設定でき、アグレッシブモードで接続される場合は、異なるIKE/IPsecポリシーを選択させる設定で回避可能となります。 1.の上記以外の場合や、2.の場合についてはアドレスの変更が必要となります。	Ver.8.10.11～ Ver.8.10.11B	Ver.8.11.11以降
11	Tunnel	B	L2TP/IPsecにおいて受信ウィンドウサイズ(RWND)を設定できるクライアントで、RWNDの設定を32769以上にした場合、接続後のL2TPトンネルが一定時間後に切断されてしまう問題を修正しました。 <回避策> iOS、Android、Windows 7/8の端末ではRWNDの設定を変更できないため、本問題は発生しません。	Ver.8.10.11～ Ver.8.10.11B	Ver.8.11.11以降
12	MP-BGP	C	show running-config の改行コードに LF だけの行がある問題を修正しました。 <回避策> show running-config における改行コードの問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.10.11B以前	Ver.8.11.11以降
13	DHCPv4	B	IPv4のDHCPサーバ機能で、giaddrとciaddrが0.0.0.0のDiscoverやRequestを受信した場合、ブロードキャストビットに従ってOfferやAckを送信すべきところ、常にブロードキャストで送信している問題を修正しました。 <回避策> 通常のDHCPクライアントはブロードキャストでも受信できるため運用上問題になることはありません。	Ver.8.10.11B以前	Ver.8.11.11以降
14	OSPFv2	B	OSPFのタグ付き外部経路がエリア内もしくはエリア間経路に変化した時、経路情報にタグが付いたままになる問題を修正しました。 <回避策> Route-mapのマッチ条件でtagを使用する際、マッチする経路が外部経路と内部経路で学習する場合は、内部経路を外部経路として広告してください。	Ver.8.10.11B以前	Ver.8.11.11以降
15	Ethernet	C	show devicesコマンドで表示されるmirror-portに設定されたポートのVLAN-IDがコンフィグ設定されているVLANグループの番号とは異なる問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.10.11B以前	Ver.8.11.11以降

■Ver.8.10 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	IPSec	B	以下の何れかの設定を行った場合、まれにリポートが発生する場合がある問題を修正しました。 ・IPv4 over IPv6 IPSec使用時に暗号化パケットの出力インタフェースに ipvpn tcp adjust-mss auto を設定 ・IPv6 over IPv4 IPSec使用時に暗号化パケットの出力インタフェースに ip tcp adjust-mss auto を設定 <回避策> 暗号化パケットの出力インタフェースに設定されるMSS調整の設定を削除する、またはMSS調整の設定をautoではなく固定値で設定する。	Ver.8.10.11以前	Ver.8.10.11B以降
1	Ethernet	B	SW-HUBインタフェースに高負荷の通信が発生している状況で、デバイスのshutdownが繰り返し発生する(ループ検出時のアクションによるshutdownを含む)と、稀に受信が停止する(5000回に1回程度の頻度)場合がある問題を修正しました。 <回避策> 発生頻度が低く、通常の運用で発生することはほとんどありません。 問題発生時には、SW-HUBインタフェースのspeed/duplexの設定を変更することで復旧します。リンクダウンやデバイスのshutdown/no shutdownでは復旧できません。	Ver.8.9.17B以前	Ver.8.10.11以降
2	Gateway	C	極稀にLED(PWRを除く)が点滅しなくなることがある問題を修正しました。 <回避策> LEDの点灯問題のため、通信には影響ありません。実際の運用状況で、LED(PWRを除く)が3年間点滅停止の状態が継続することはまずないことから、問題が発生する可能性はほとんどありません。 また、3年以内にLED(PWRを除く)が点滅する状態にするか、電源off/on または reload コマンドによる装置の再起動を行うことで、回避可能となります。	Ver.8.9.17B以前	Ver.8.10.11以降
3	Ethernet	C	装置起動後、SW-HUBインタフェースの一度もリンクアップしていないポートに対して、speed/duplexの両方を固定設定すると、リンクアップしていなくてもフラッディングされるフレームの送信数がカウントされてしまう問題を修正しました。 <回避策> 統計情報の問題のため、運用に影響はありません。	Ver.8.9.17B以前	Ver.8.10.11以降
4	IPSec	C	IPSecの受信処理で queue overflow が発生した場合に、show ipsec statistics コマンドで表示される queue overflow はカウントされるが、エラーの合計値である failed がカウントされない問題を修正しました。 <回避策> L統計情報の問題のため、運用には影響はありません。 failedのカウント値は queue overflow の値を足して利用してください。	Ver.8.9.17B以前	Ver.8.10.11以降
5	Ethernet	B	show device detail コマンドまたは clear counters コマンドの実行中に、イーサネットデバイスのリンク状態が変化した場合、稀にリポートが発生することがある問題を修正しました。 (リンク状態の変化発生1000回に1回程度の頻度で発生) <回避策> 発生頻度が低く、通常の運用で発生することはほとんどありません。	Ver.8.9.17B以前	Ver.8.10.11以降
6	Gateway	B	software-update, startup software-update, pki, startup config-downloadの各コマンドをHTTP/HTTPSで実行し、サーバからの応答が200 OKではなく、200 Document followsであった場合に、成功と判断できず失敗してしまう問題を修正しました。 <回避策> サーバ側の応答が200 OKとなるようサーバ側の設定を変更してください。	Ver.8.9.17B以前	Ver.8.10.11以降
7	IKEv2	B	受信したIKEv2の送信元ポート番号がNAT/NAPT機能などにより500以外の番号に変換されていた場合、正しく応答できない問題を修正しました。 <回避策> NAT/NAPTなど変換する装置で500番ポートを予約し、ポートが変更されないようにしてください。	Ver.8.9.17B以前	Ver.8.10.11以降
8	Gateway	B	温度アラーム発生数(Temperature fault count)が10回未満の状態、温度アラーム発生中に再起動した後、温度アラーム発生数(Temperature fault count)と一覧表示されている温度アラーム発生(occurred)の数が不一致となる問題、更に、その不一致の状態、温度アラームが発生し、温度アラーム発生(occurred)が10件を超えた状態でshow crashinfo コマンドまたはshow error-log コマンド実行するとリポートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 設置環境を見直し、温度アラームが発生しない環境にしてください。 温度アラームが発生していない状態で、show error-log コマンドまたは、show crashinfo コマンドを実行し、温度アラーム発生件数(occurred)と温度アラーム復旧件数(recovered)が一致しない場合は、clear error-log コマンド、またはclear crashinfo コマンドを実行し、表示をクリアしてください。	Ver.8.9.17B以前	Ver.8.10.11以降
9	RIP	B	RIPでメトリック16のサブネット経路を受信し続けるとサブネット経路のUNREACH状態が解除されない問題を修正しました。 <回避策> RIPv1およびRIPv2のオートサマリを利用しない設定にしてください。またはメトリック16の経路を受信し続けないように、対向ルータの設定を調整してください。	Ver.8.9.17B以前	Ver.8.10.11以降
10	RIP	B	RIPでメトリック16の経路のみを受信した場合、またはネクストホップが自アドレス向きのRIP経路を受信した場合に、ルーティングテーブルにhidden routeとして登録されますが、この経路が削除されない問題を修正しました。 <回避策> 経路が削除されないため、ルーティングテーブルに登録できる経路が減少しますが通信は継続可能となります。clear ip rip process コマンドで消すことができますが、一旦全経路が消去されます。	Ver.8.9.17B以前	Ver.8.10.11以降
11	RIP	B	RIPv1で使用していたオートサマリ経路が、サブネットルートが全て消えても削除されないことがある問題を修正しました。RIPv1の送信を使用して、RIPv2などでクラスレス経路の追加削除を行っている場合に発生する可能性があります。 <回避策> 経路が削除されないため、ルーティングテーブルに登録できる経路が減少しますが通信は継続可能となります。clear ip rip process コマンドで消すことができますが、一旦全経路が消去されます。	Ver.8.9.17B以前	Ver.8.10.11以降
12	NAT	B	NATアドレス管理の最適化機能の対象に、NATアドレスが含まれる問題を修正しました。 <回避策> NAPTアドレスが頻繁に変更される環境では、不要なアドレスが管理されてしまうことがありますが、通常の運用で問題になることはほとんどありません。	Ver.8.9.17B以前	Ver.8.10.11以降

13 PPP

B

アドレス固定設定している装置に、誤ってIPCPによりアドレスを払い出す設定となっている構成において、対向装置で固定設定しているアドレスが払い出せない場合、その要求はRejectしますが、ルーティングテーブルのPeerのアドレスとしてそのアドレスが登録されてしまう問題を修正しました。  
<回避策>  
アドレスを払い出す設定になっているインターフェースの対向装置のアドレスを固定設定にしないでください。

Ver.8.9.17B以前

Ver.8.10.11以降

■Ver.8.9 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	IPSec	B	IPv4 over IPv6 IPSec、およびIPv6 over IPv4 IPSec使用時に複数トンネルのレスポンスとなる場合、正しくトンネルが選択されない場合がある問題を修正しました。 <回避策> IPsec remote IDを設定してください (IPv4 over IPv6の場合はIPv4形式、IPv6 over IPv4の場合はIPv6形式で設定してください)。	Ver.8.9.17以前	Ver.8.9.17B以降
1	GRE	B	GREにおいてキーオプションを使用し、同一対地に対して複数のトンネルの設定を行なったとき、ルートキャッシュが無いと誤ったトンネルインタフェースで受信処理を行ってしまう場合がある問題を修正しました。 <回避策> GREを使用し、同一対地へ複数のトンネル設定を行う場合にはキーオプションを使用しないで下さい。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
2	GRE	C	以下のコマンドの設定途中でTABキーや?キーを押した場合、コマンド未設定状態にもかかわらず、reload時にコンフィグ保存を促すメッセージが表示される問題を修正しました。 ・ tunnel checksum ・ tunnel keepalive ・ tunnel key ・ tunnel sequence-number <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
3	GRE	C	GRE使用時にtunnel sourceが未設定であった場合、以下のイベントログのソースアドレスが不正な値となる問題を修正しました。 ・ GPTL.004, GPTL.005, GPTL.006, GPTL.008, GPTL.013, GPTL.015, GPTL.016, GPTL.017 <回避策> tunnel sourceコマンドを設定してください。また、表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
4	Shell	C	以下のコマンドにおいて、数値範囲入力の際に入力完了せず途中でTABキーを押すと、エラー表示となる問題を修正しました。 ・ ip napt static ・ ip napt service ・ snmp-agent mib-2 ifindex interface range ・ show aaa accounting-records ・ show logging <回避策> コマンド設定時に範囲入力途中でTABキーを押さないで下さい。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
5	診断	B	起動時セルフテスト (POST) のGE0, GE1の試験において、装置が正常にも関わらず、稀に以下のエラー表示をってしまう場合がある問題を修正しました。 ・ GE0 TEST: Fail または GE1 TEST: Fail (ALM LED点灯) <回避策> 再度電源OFF/ONし、再度異常を検出しない場合は、装置に問題はありません。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
6	IPSec	B	IPv6を転送プロトコルに使用した接続をISDN回線経由で行った場合に、一度SAを生成した後にISDN又はPPPが切断されるとその後IPsecパケットが送信されなくなる問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時には、clearコマンドによりSAを削除してください。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
7	IPSec	B	IPv6を転送プロトコルに使用したIPsec接続をISDN回線経由で行った場合に、対向装置の両方のBRIデバイスで同時にdown/upが発生するとその後IPsec通信ができなくなる場合がある問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時には、clearコマンドによりSAを削除してください。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
8	SNMP	C	イーサネットデバイスのMIBでifInNUcastPkts と ifOutNUcastPkts はマルチキャストパケットのみがカウントされていて、ブロードキャストパケットがカウントされていない問題を修正しました。 <回避策> 統計情報の問題のため、動作に影響はありません。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
9	DNS	B	複数のDNSサーバが登録され、そのうち最優先のサーバがIPv6アドレス指定の場合、その最優先サーバへの経路が無いとそれ以降の優先度のサーバに問い合わせを行わない問題を修正しました。 <回避策> Null宛の経路を設定するなど、何らかの経路を登録してください。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
10	Gateway	C	software-updateコマンドでHTTP/HTTPSでの送信エラーメッセージの先頭に%を表示していない問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
11	DHCPv6	C	DHCPv6において、ia-pd prefixコマンドなどでVALID-LIFETIMEを変更した後のReconfigure, Renew, Reply時に、DHCPv6サーバに接続されているクライアント情報の生存時間が更新されない問題を修正しました。 <回避策> VALID-LIFETIME変更時は、clear ipv6 dhcp serverを実行して下さい。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
12	DHCPv6	B	DHCPv6 InformationRequestクライアントにおいて、DHCPv6サーバから Reconfiureを受信した後、再度 InformationRequestを送信し、Replyを受信して更新を行なう際にメモリリークする問題を修正しました。メモリはReconfigure 1回につき 768byteリークします。 <回避策> no reconfigure-acceptコマンドを設定することで回避可能となります。また、Reconfiureは通常は発生しないため、運用にはほとんど影響ありません。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
13	DHCPv6	B	DHCPv6サーバでInformationRequestを受信してneighbor情報を作成すると、その後、同一neighborから、ReconfigureAccept情報の異なるInformationRequestを受信しても、初めに作成したneighbor情報のReconfigureAcceptが適用されたままとなる問題を修正しました。 <回避策> 以下で何れかの方法で回避可能となります。 ・ DHCPv6 InformationRequestクライアントのReconfigureAcceptオプションを変更しない。 ・ DHCPv6 Information RequestサーバのDNSやNTPサーバの変更時は、clean ipv6 dhcp server コマンドにより接続情報をクリアする。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降

14	DHCPv6	B	DHCPv6サーバにて、CPEからClientIDなしのInformationRequestを受信するとリポートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> ClientIDなしのInformationRequestを送信するCPEをフィルタしてください。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
15	DHCPv6	B	DHCPv6にて、PEでサーバプロファイルのT1とVALID-LIFETIMEを同値に設定すると、設定時間経過後にCPEがリポートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> valid-lifetimeはinfinityに設定してください。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
16	DHCPv6	B	DHCPv6にて、InformationRequestのReply受信時に要求したOption Request Option(ORO)を満たさない場合、1秒間隔でInformationRequestが送信される問題を修正しました。 <回避策> サーバとクライアントの設定を合わせてください。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
17	DHCPv6	C	オペレータ、およびモニターモード権限のユーザでclear ipv6 の後に?キーを入力すると実行できないdhcpコマンドがHELP表示される問題を修正しました。 <回避策> 実行できないコマンドのHELPが表示されるだけで、運用には影響しません。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
18	DHCPv6	C	DHCPv6サーバにおいて、ia-pd prefixを削除後に同じプレフィックスでプレフィックス長が異なる設定を行った場合、その設定が装置に反映されない問題を修正しました。 <回避策> 設定後にclear ipv6 dhcp serverコマンドを実行することで反映されます。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
19	アクセスリスト	C	show tech-supportコマンドで表示される show ipv6 access-list cache の情報がIPv4のキャッシュエントリを表示している問題を修正しました。 <回避策> show ipv6 access-list cacheコマンドにより確認してください。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
20	DHCPv6	B	DHCPv6でIPv6アドレスを削除する際にリポートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 実際の運用で問題が発生することはありません。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
21	Ethernet	C	SW-HUBのportをshutdownした時に発行されるTRAPに格納されている picoExtIfAdminStatusがupとなる問題を修正しました。 <回避策> MIBのgetによりpicoExtIfAdminStatusの値を取得してください。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
22	IPv6	B	RAとDHCPv6で同一アドレスを同時に取得するとクラッシュが発生する問題を修正しました。 <回避策> 複数の手段により同一のプレフィックスを取得しないようにしてください。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
23	DHCPv4	B	DHCPv4にてアドレス固定払い出しを行っている状態で、ルータを再起動した場合、クライアントへサーバIDが通知されない問題を修正しました。 <回避策> 払い出されたアドレスは使用可能なため、通信に影響はありません。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
24	DHCPv6	B	DHCPv6サーバでReconfigureを再送してネイバから応答がなかった場合に、ネイバのExpireが0になってもネイバ情報が削除されない問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時にはclear ipv6 dhcp serverコマンドを実行してください。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
25	DHCPv6	B	DHCPv6においてReconfigureの再送回数が1回多い問題を修正しました(再送回数: 9回 → 8回)。 <回避策> 再送回数が多いだけで、運用には影響しません。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
26	DHCPv6	C	show ipv6 dhcp serverコマンドでまれに、Expire 4294967295 と誤って表示される可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
27	DHCPv4 DHCPv6	B	DHCPv4とDHCPv6の各プロファイルでプロファイル内の設定を残したままプロファイルを削除するとメモリリークする問題を修正しました。 <回避策> プロファイル内の設定を削除してからプロファイルを削除してください。また、プロファイル削除時にわずかにリークする程度であり、問題が発生しても運用にはほとんど影響はありません。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
28	IKEv2	B	IKEv2の送信インタフェース固定設定を使用し、送信先をPPPoEインタフェースに固定すると、PPPoEセッション再接続時にIPsec通信できないことがある問題を修正しました。 <回避策> ネットワークモニタ機能を併用し、PPPoEセッション切断時にSAをクリアしてください。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
29	DHCPv6	C	以下のコマンドで、DUID-NAMEを32文字以上登録してもエラーにならない問題を修正しました。 ・ia-pd static <回避策> 入力は31文字までの仕様となっているため、31文字以内で設定してください。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
30	NGN	B	NGNを利用していない環境でike policy コマンドにngn-dynamicを設定して通信を行なうとリポートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> NGNトンネル以外ではngn-dynamic設定を行なわないでください。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降
31	Ethernet	B	SW-HUBインタフェースにてポートVLANの機能を使用しているときに、特定の端末(MACアドレスの末尾2バイトが"88:08"である端末)からの通信が不可となる問題を修正しました。 <回避策> SW-HUBでポートVLANを使用しない、あるいは該当端末を直接SW-HUBで収容しないように構成を変更してください。	Ver.8.8.52以前	Ver.8.9.17以降

■MACアドレス起動不可問題対処版で改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象ソフトウェアバージョンと 修正Bootstrapバージョン
1	Bootstrap A	A	<p>ルータに以下のMACアドレスが付与されている場合、ルータが正常に起動せず、ルータとして動作できない問題を修正しました。(MACアドレスの先頭2ビット目が"1"の場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題発生MACアドレス</li> <li>4x:xx:xx:xx:xx:xx</li> <li>5x:xx:xx:xx:xx:xx</li> <li>6x:xx:xx:xx:xx:xx</li> <li>7x:xx:xx:xx:xx:xx</li> <li>Cx:xx:xx:xx:xx:xx</li> <li>Dx:xx:xx:xx:xx:xx</li> <li>Ex:xx:xx:xx:xx:xx</li> <li>Fx:xx:xx:xx:xx:xx</li> </ul> <p>&lt;回避策&gt;</p> <p>該当MACアドレスの装置を対処前のソフトウェアでバージョンダウンする場合に発生します。旧バージョンにバージョンダウンして利用する場合は、対処版ソフトウェアを入手してから実施してください。</p> <p>&lt;補足&gt;</p> <p>2019年6月以前に製造した装置では本問題は発生しません。</p>	ソフトウェアリスト